

やぶはら高原スキー場に関するアンケートの具体的な書き込み

目 次

- | | | |
|---|-----------------------|------|
| 1 | スキー場を継続する場合の今後の運営方法…… | 2P～ |
| 2 | スキー場を廃止する場合の施策…… | 18P～ |
| 3 | グリーンシーズンの活用…… | 26P～ |
| 4 | 自由記述…… | 35P～ |

1 スキー場を継続する場合の今後の運営方法

〔10代の意見〕

- ・ファミリー向けをアピールする。
- ・規模縮小する。赤字経営が続くなら営業する意味がない。今後もスキー人口が減少するのであれば思い切った施策が必要と思う。
- ・劣化したところを直しつつ続けていく。様々なイベントを行い活性化するようにする。
- ・交通の便をよくする。外国人の利用も視野に入れる。
- ・夏の利用方法を考える。
- ・現状のまま老朽化した施設を更新しながら続けていく。続けていくなら施設設備を十分に整えるなどメリハリをつけた方がいいと思う。理由としては、このまま細く長く続けていっても売上げ向上にはならないと思うから。
- ・レンタル・食堂等、スキー場内のすべての事業を一本化し運営する。
- ・規模を縮小せざるを得ない状況であると思うので縮小しつつも更なる観光客導入を図る。SNSが普及している時代なので話題になれば県外客や外国人客が来るきっかけになると思う。話題になるには若者の意見を取り入れる事が必要。30代以上の意見は若者との感覚の差が生じるため参考にならない。やぶはらスキー場のインスタも更新が遅すぎて楽しみが。(私の意見) プロカメラマンと契約し1日1回投稿する。インスタでフォトコンテストを行い、話題性を生む。参加者を増やすために景品なども。もちろん地元の特産も良いが、申し訳ないが「こんなものか」と思ってしまうのが若者の感覚。スキー板提供するくらいじゃないと若者は興味持たない。
- ・リフトの村営化
- ・外国人を積極的に入れていく
- ・スキー場全体の SNS アカウントを作成し、基本情報やお得な日などの情報を毎日更新する。スキーやスノボのかっこいい写真の撮り方や取れる時間、場所を紹介する。SNS のフォロワーに抽選で豪華賞品プレゼントのようなイベントを行い公告する。
- ・自然を活かしたアクティビティ、キャンプ場
- ・ボードで遊べる所が欲しい。スキーヤーが入れるポールを常設して欲しい。
- ・目玉となる物を考えた方が良い。ゲレ食がとても美味。インスタ映えするなど
- ・外国人がターゲットよりは県内、国内の人をターゲットにした方が良いのでは。わざわざ外国から来てやぶはらスキー場に来るメリットが無いように見える。県内程度にしておけば、交通アクセスの良さが更に売れるのでは。
- ・このまま継続していくべきだと思います。
- ・現状を維持しつつ、若いスキーヤー・スノーボーダーを呼び込むイベント等がほしい。
- ・現状のまま古くなったところを修理して運営する。
- ・食堂はすべて同じ建物にする。
- ・この状態でできるどこにもないものを1つ作ってみれば良いと思う。(ジャンプ台やボードの遊び台)
- ・確かに、このまま更新などして継続する場合、費用などはかかるが、やぶはら高原スキー場は木祖村のシンボリックなものでもあるので、現状のまま、安全面を考え更新しながら運営していく。
- ・いまのまま素朴に運営してほしい。大規模にかえず、やぶはらスキー場らしく。

〔20代の意見〕

- ・レンタル、食堂、宿泊などの散在するサービスをスムーズに利用しやすくするための連携
- ・現状のままスキー場は営業しつつ、他の事業も合わせて考えていき、スキー場以外での活用方法も考えていけば良いと思う。
- ・継続にも廃止にも多額の費用がかかることなので、休止 or 可能な限りの現状維持をして、他の部分で収入を増やすのはどうでしょうか。スキー離れという言葉もあるの中で、リフトの改修等をして客が戻ってくるかはわからないと思います。新しい宿泊施設をつくり、こだまの森やスキー場の既存の施設を利用してできるアクティビティや宿泊プランを用意し、話題にする

ことができればコロナ禍の今でも、客を呼び込むことはできると思います。その際には、村外者や若い世代の意見を取り入れることは必須だと思います。特別新しいものではなくも、流行りのものを取り入れるだけで需要はでてくると思います。

- ・儲けがなくなってしまう。(廃止反対！)
- ・今は現状のまま続けていくのが良いと思う。規模を縮小したりするとまたお客も減ったりしてしまう。雪不足が一番の問題だから、そこを何とかしていきたい。
- ・クラウドファンディングの活用による修繕費用等の資金調達。日本全国を見ると成功している事例もあるため。こだまの森宿泊エリアとの同時営業。冬でも活用可能な施設へリニューアルを順次行っているため。新たな索道運営者の公募。
- ・収益・費用を徹底的に管理して、持続可能な運営をしていくこと。
- ・もっとイベントやコースなどおもしろい、たのしめる、安全を重視してコースを作る。
- ・クラウドファンディングをして資金を集める。
- ・臨時駐車場を廃止する等駐車場を少なくして営業を継続する。営業期間を短くして(3月は土日営業 or 3月は営業しないなど)人件費、固定費等削減する。
- ・規模は現状を維持。木曾郡内の他のスキー場とは「アクセスの良さ」と「ゲレンデの規模」で差別化できていると思う。規模縮小はスキー場の売りを失う。個人経営中心の食堂、レンタルは、運営体力が限界の所もあると思う。一本化とまでいなくても、廃止や店舗間での統合を考慮し、接客施設の更新をしていく必要はあると思う。民間での設備改善という名目で村の補助があれば促進されるのでは。単純な上下分離、指定管理だけでは限界があるのでは。PPP/PPI など、運営と設備更新を一体とした民間活力の導入方法は検討の余地があると思う。
- ・近くに宿泊施設をつくり、規模を縮小し経営維持費を減らしつつ、日帰りではなく長期滞在をしてもらうことによってスキー場の修繕費を捻出していく。
- ・年間を通じて活用できる施設にする。
- ・クラウドファンディングを活用する
- ・規模を縮小する代わりに施設の安全性が確保されるならその方が良いと思う。
- ・現状のまま、スキー場に客が入るよう宣伝していく
- ・滑走コースを少なくし、世代を問わずに誰でも気軽に利用できるようなスペース(コース)を作る。食堂や宿泊施設が古いため、新しく建設・維持する。リフト券が買える場所(コンビニ以外)を増やす。
- ・現状のまま。老朽化した施設は更新しない。このままで良い。
- ・木祖村の冬の人々が集う場でもあるため、村の民宿や飲食店のためにも補助金を出してでも継続させ、コロナが落ち着いたら木祖村の観光スポットの1つとして活躍してほしい。
- ・ダイヤモンドリフト(ライナーの事だと思います)のような魅力的なリフトを追加する。宿泊施設の充実。
- ・他のスキー場にはないイベントなどをつくる。
- ・手ぶらでもリーズナブルに1日楽しめる。滑らない人も楽しめるアクティビティの充実。
- ・現状のまま。ナイトスキーにする。
- ・クラウドファンディング。近隣にスキー場が多いので複数箇所訪れてもらう(スタンプラリーで割引や限定グッズなど)。
- ・規模を縮小し、維持管理費を減らしながら続けていく。人気のないリフトの廃止など。レンタル事業を利用しやすくする。地元に住んでいる私でも用品を揃えたり、現地に行って滑ったりする事がとても手間に感じた。何も持たずにスキー場にきて問題なく楽しめるというハードルの低さを紹介できればと思う。

[30代の意見]

- ・スキー場周囲の整備(道、駐車場、お土産、食事処、子どもが遊べる遊具、民宿)、夏場もこだまの森と近いので遊べる工夫(県外でも、子ども連れなどで、安心して遊べるところが少ない)、村民の負担が増えるくらいならやめてほしいが、事業を一本化してなるべく運営していく。
- ・スキー場を継続していくなら冬のイベントを月2~3回ほど開催をして他県から来ていただいたお客さんや地元住民にイベントの催し物に参加してもらうことができれば運営等につながるのではないですか。ゲレンデ食のメニューに新メニューを増やしていけば毎年スキー客が来た

時に新メニューの注文が増えるし、シェアをして食べることができるのではないですか。スタッフを増やすことですか。

・現状、どれくらいの利益が出て、支出が出ているのかわかっていませんが赤字なら村内外に出資を求めたり、クラウドファンディングを利用していくのもありだと思ふ。

・事業を一本化し運営。

・クラウドファンディングは良い案だと思います。村民にももちろん負担はしてもらいますが、やぶはらスキー場が気に入って毎年来ているお客様もいるので協力(資金面)してもらえるのではと思います。

・クラウドファンディングを活用して資金を集める。全体の維持費をまかなうのは無理ですがワイヤーロープの修理費、給水管の修繕の資金の金額は集められませんか。資金提供に対して何を返すかが重要ですが、木祖村全体として考えれば良いギブアンドテイクの手段はあると思います。あとはゲレンデ、駐車場の土地は買えないでしょうか。貸付料がもったいない。

・規模の圧縮、選択と集中は必要だと思います。食堂も維持が厳しくなってきたと思うので、一本化は良いと思います。ただ今のリフト運営では中腹にもないと厳しい。クラウドファンディングは最後の手段だと思います。情報発信は競合に負けまいよう早くマメに行なってほしいと思います。スキー場利用者にこだまの森、こだまの森利用者にスキー場のDMや優待の案内。今は食堂からスキー場へ何も入っていない。指定管理方式は今の職員体制で対応できるかどうか。

・奥木曾 GR 以外の運営。

・キッズパークが欲しい。

・今春に移り住んだばかりで詳しいことは存じ上げませんが、名古屋や関東、東海の知人に木祖村のことを伝えると「やぶはら高原スキー場」の認知度が高く、幅広い世代の人に親しまれている印象を受けました。村外のファンも多く見受けられるので、クラウドファンディング等で出資をつのるのも良いと感じました。

・今後、降雪量の減少やスキー人口の減少等を考えた場合、場内の事業の一本化や、指定管理方式等での運営は必要であると考えます。

・クラウドファンディング等で県内外の利用者の考えや傾向を知る。コロナに対応したルールを作る。

・スキー場への村から補助金を

・昔のしきたり、昔の相場などにとらわれず新しい考え方、これからを担う若い人の意見や言動を尊重し柔軟に対応してほしい。今のままでは関係者が過去の栄光や、己の利益を優先しているようにしかみえない。本当の地域再生、観光を目指すのであれば成功地への視察や方向転換など幹部が勉強しなおす必要がある。

・そもそも運営会社の努力が必要

・クラウドファンディング、もっと外部や外国人も利用できるようなPR、イベントを考える

・老朽化した施設など、維持管理費が大きくなるものは縮小しつつ、クラウドファンディングなど新しい資金集めを試みて継続する

・クラウドファンディング、リワードをスキー券などの需要を先食いするものではなく、施設への名前掲載やコースの命名権など。リフト座席の企業広告掲載など行う。

・赤字を減らしていく方法を考えていくべきだと思う。参考から、規模縮小と村内外に出資を求める方法が良いのではないか。

・春冬だけでなく夏も何かに利用できる形にする。現状、冬の雪の量が不安定なため、スキー場の減少も考えると活用するなら花高原にする等。

・規模を縮小することは検討してもいいのかもしれませんが。維持管理費・人手不足を少しでも解消したほうがよいと思うので。

・規模を縮小し、さらに全リフトを村の所有物にして、グリーンシーズンの活用を可能にする。

・この地域唯一の冬の娯楽施設であり、地域の雇用も担うこの土地に適した施設であるので、継続してきた整備技術なりスキーのコーチング技術、地域の文化となってきたものを消してしまうのは良くない。都市から来る人々の楽しみも半減。クラウドファンディングはとでも前向きで効率的な資金収集の手段になる。スキー後の【温泉】施設の併設も視野に入れてクラウドファンディングする。

- ・小さい子どもも雪遊びができる様な場所が少しあってもいいのではと思います。
- ・事業の一本化と指定管理方式の二つについては良いと思います。あとは、with コロナ対策として、駐車場代をとって、外で過ごして(車中泊)もらいやすくするデザインにすると、これから先は良い気がします。持ち込みを可にして、清掃に人件費をつかうとか、キッチンカーで販売するとか、駐車スペースヘトイレを増やすとか。
- ・全リフトを村の所有とし指定管理方式で運営会社に委託するのは良いと思います。スキー場内すべての事業を一本化も良いと思います。
- ・クラウドファンディングを試してみて、人気の有無をチェックしてみる
- ・もっと美味しい食事を提供していただきたい。スキー・スノボだけでなく、夏場は高地トレーニングできる場所をつくらんと。もっと長所を生かせよ。
- ・各お店で一シーズンのレンタルをやれば。
- ・スキー場廃止時期をある程度決めた上で可能な範囲で営業を続ける。スキー、スノーボード以外のスキー場の利用をする。(冬キャンプなど) クラウドファンディングを活用し、現状を知ってもらう。
- ・現状のまま継続する場合、やぶはらスキー場に行きたくなくなるイベントや施設がないと続けていくのは難しいと思う。
- ・県外の客については遠くから来てでもスキー・スノーボードをしたいという気持ちがある為、冬期限定でふるさと納税の返礼品にシーズン券または割引券等を検討してみたいか。県内(松本、塩尻など)の客については、やはり木曾はとて遠いイメージが強い様で行くのが大変みたいです。安曇野市から遊びに来た友人は1日券が安くなる水曜日のことを知り、来ていました。松本の方の人はそれらの情報を知らないので宣伝するなど”距離”という問題が苦にならない工夫が良いと思います。
- ・やぶはらスキー場は若者が多く利用している所なのでなんとか継続して行ってほしいです。クラウドファンディング良いと思います。
- ・村の税金を注ぎ込まない運営方法を検討して欲しい。クラウドファンディング・スポンサー募集など企業努力・営業努力でやぶはらスキー場の魅力を発信して欲しい。北信・白馬や志賀高原に無い魅力を！
- ・村営化にするメリット、デメリットが分からないが、村からの資金のバックアップがあれば良いと思う。
- ・スキー客のみをターゲットにした事業のみならず、昨今のアウトドアブームに乗ったり、冬キャンプ、雪山という資源を活用した事業も行っていく等。
- ・継続するなら、ただのレジャーとしての活用ではなく、スポーツ競技として、大会の誘致や選手の練習場所として活用できるよう、環境【コース・宿泊なども含めて】を整えた方がいいと思う。クラウドファンディングで資金が集まるとは思えない。
- ・こだまの森もそうだがコロナ禍にむずかしい。食堂も多すぎる。各食堂に競争力をもたせてネットを使ってアピールすべき。
- ・スキー場を愛してくれる人の支えが必要なので村外に出資を求める。村内だけでどうにかしようとしなくてほしい。ふるさと納税とかクラウドファンディングとか。村民みんながスキー場に関心があるわけではないので強行するときは多くの人にわたし事と認識されるくらいに説明してほしい。スキー場に対する思い入れも強いと思うが止める勇気も大切。
- ・スキー・スノーボードは一度来たら再訪率が高いので、フットワークが軽かつ団体に来る可能性の高い大学生年代、特に19・20歳の年齢を対象にリフト1回無料(年1回)にして誘客すると良いと思う。メリットとしては対象年齢以外の人を同伴する可能性がある(親・先輩)。レンタル・レストハウスでの食事ができる。有名になる。SNS利用率の高い年代である(情報拡散)。デメリットとしては無料者ばかりでリフトが混む可能性がある。マナーが心配。悪い話も拡散しやすい。年齢確認の手間。

〔40代の意見〕

- ・維持管理費は村外から集め運営は村内者でやれるようにできればいいと思う。
- ・今年のような村民に対してシーズン券を安く提供してくださったのは有難かったです。しかし、県外からの来場により行けませんでした。運営に関してはお応えできません。わかりません。
- ・経費の少ない小さなスキー場として身の丈にあった経営を続けていく。

- ・スキー場を維持するためには小規模でも魅力ある特色づくりが必要だと思う。スキー場を無くしても遊べるアクティビティ、寒い地域ならではの体験イベント等
- ・規模縮小での運営は必要だがそれをするにも経費がかかる。老朽化した施設を可能な限り使用し、廃止するやり方も考えられる。近年の気温上昇から考えると雪が降らないことはもちろん降雪も不可能となることが予想される。方向を廃止にシフトする検討があっても良い。
- ・他のスキー場にはないオリジナルがあると良いと思う。冬だけでなく夏など、どのシーズンも利用できないかなあと思います。
- ・資金集め、支柱への広告、クラウドファンディング、メーカーへの協賛呼びかけ
- ・委託するのが集客も見込めてよと思う。
- ・「やぶはらスキー場」は全国的にも名が知れているので「存在」の意味はとても大きいと思う。
- ・ゲレ食の充実。イベント(曜日ごとの割引も含む)の他ゲレンデとの違いを付けての運営。
- ・オールシーズンの活用。経営の一本化。
- ・他町村と合同運営。村は手放し完全私営化。
- ・リフト本数を減らし、全てを村の施設として指定管理方式で運営していくのがいいと思う。村の施設の老朽化が激しく、現運営会社は売上げのほとんどを修繕費にまわっていて健全経営が厳しくなっている為。
- ・出来れば老朽化したものを更新しながら継続すると良いと思う。
- ・雇用がある。自分も定年後働ける場所が村内で少なくなるのは不安に思う。
- ・温暖化で天然の降雪量が少なく、造雪もできない気候が続いている。規模を縮小するしかない。
- ・設備の維持は非常に大切だと思うので、費用を捻出する計画が必要と思われる。
- ・現状のまま、老朽化した施設を更新しながら続けていく。
- ・夏期間の有効利用。こだまの森と協同協力して、あまり投資しない施設(移動式で人数整理されたグランピング)。運用するための雇用にもつながると思う。昔ながらの木祖村っぽさではなく迎える姿勢であれば良いと思う。菅生産森林組合への納付金が高額と噂では聞いたのでそれは必要かが良くわからない。維持費の軽減が必要かと思えます。老朽化した施設を更新しながら続けていく。全リフトを村の所有とし指定管理方式で運営会社に委託する。
- ・こだまの森で収益を増やす(農業体験など集客できるものを考える)。スキー場の営業期間を短縮する(寒い時期に限定する)。
- ・12ヶ月のうち4ヶ月の運営は雇用の問題を考えても厳しいと思う。
- ・スキー場には関係ない、村民には必要ないと思っている方がいる事をよく理解し、村への負担をかけない方向でスキー場運営をしていかなければならない。村から(村の補助等)自立を目指すべきだ。
- ・運営は現状通り。大規模施設、設備更新は村で負担。公民館の運営(活動)費や役員報酬などは見直せる。村内サークルからも施設利用料として年間料金を徴収してもよいのでは(あまり高額だと困りますが…)。リフトやスノーマシンの更新にはクラウドファンディングも有効。
- ・降雪が少なくなってきた中で(この傾向が短期的か中長期的かは不明だが)備品が増え、期間が短いため収入が少ない状況になっていると思う。冬だけリフトを稼働しているのは固定費が高くなるため何か夏期でも稼働できる方策が無いか、探るのも一案かと思う。
- ・現状のままか、厳しければ規模を縮小する。ボードのお客さんが多いのでボードはできるようにした方がいい。
- ・スキー場に来場している人が何を求めているのか調査してその内容に沿って赤字を削減してほしい。クラウドファンディングの活用も一度はできると思うが、何度もは困難。
- ・村のためには村外からの客入をしていくのが望ましいが色々な現状を考えると厳しいと思う。現代に応じたクラウドファンディングにチャレンジして是非継続してほしい。
- ・老朽化した施設を更新しながら、レンタル、食堂等スキー場内のすべての事業を一本化し運営する。
- ・マニア向けのスキー場としてやっていく。下の緩やかなコースはやめて上の方だけ(さつきリフト存続が大変なら)。そうすると規模も小さくなり運営しやすくなると思うが、19号からアクセスも良く、ファミリー層にもいいスキー場なので答えがわからない。
- ・食堂等の一本化。リフト、レンタル村民無料。

- ・規模を縮小し、維持管理費を減らしながら続けていく。それと共に、維持管理が難しい場合は雇用を確保できるような方策で継続を検討していくことが必要と考える。
- ・夏場の事業。
- ・昔からのやり方にこだわらず、新しい発想、考え方をとり入れて来たくなるような運営をしていくとよい。
- ・気候変動や世の中の流れをみると、現状のまま続けていくことは色々な意味で難しいかと思いますが、逆にそれをうまく使って雪がなければ冬場もこだまの森を開放していく(冬場のアウトドアなど)ことや、資金を集めるにはクラウドファンディングも有効かと思う。小さく細々と続けていくことよりも前向きにより人々が楽しめる場を作ることを考えていきたい。
- ・レンタル・食堂等スキー場内のすべての事業を一本化し、必要な施設を必要な場所に。お客様が望む施設を。中央ペアリフト上部に飲料テントなど。立ち飲み。景色を見ながら楽しめる場所など。
- ・レンタル、食堂等、スキー場内すべての事業を一本化し、必要な施設を必要な場所にあるようにした方がよい。ボードの遊べる所を作った方がよい。スキーのポールもいつもたててあれば高齢のスキーヤーが喜ぶと思う。技術が上がる。
- ・夏もキャンプ場として利用する。星もきれい。
- ・リフトの本数を減らし、運営コストを下げる
- ・会社として運営できるなら継続。無理なら止める
- ・規模縮小による運営。スキー、スノーボード以外のアクティビティ。食堂、レンタル等の集約
- ・経営者の交代、第三者による経営
- ・規模を小さくすればいいと思う。全てのゲレンデを利用することが少ないので、スキーのみのゲレンデのほうが使いやすい
- ・目玉となる物があると良い。客が来たいと思うような物。
- ・中途半端な投資は避けた方がよいと思う。舗装路が当たり前の現在で現状のスキー場内の道路事情は改善するべきだと思う。(急な整備でなくても、ひどいところから順次)各所の関係者(特に幹部)が個々ではなく全体を視野に入れた意思をもって全体運営してほしい。まとまる事ができないのであればこれからどれだけ掛かるかわからない投資を避ける判断も必要だと思う。
- ・村の所有であった場合などのメリットは今一ピンと来ませんが、村であろうと運営会社であろうと村民にとっても村にスキー場があるという事はとても重要な事なので、村・会社がどう考えているのかももう少し詳しく知りたい。
- ・リフトを少なくするなどコストを減らしてでも継続してほしい。歴史あるやぶはらスキー場をなくさないでほしい。
- ・利用客数が今後、減少傾向になっていくのであれば、規模縮小もしくは維持管理費を減らすしかないのではないかと思います。
- ・現状で良い所、努力していく所は厳しい事もあると思うけれど続けて。コロナ対策が今の世の中では最優先に。(お客様、従業員、村民、全ての安心と安全を！)
- ・どう運営をしていってよいかは分かりませんが、昔と違い近隣のスキー場、他県のスキー場より魅力を感じる部分がやぶはらスキー場にはない気がします。なのでゲレンデはもちろんレストハウスや食事、スイーツ、宿泊施設等、何かやぶはらスキー場ではなければいけないものを作る必要があると思います。
- ・ゲレンデが多くとても楽しめるスキー場だと思います。現在のままがいいと思いますが、村だけでは維持が大変だと思うのでクラウドファンディングなどでも名古屋地域の客層から支援してもらえるのでは。なくすのはもったいない。
- ・雇用の場、冬の産業(唯一の)、スポーツ振興、健康増進、多方面での必要性を感じている。村税をある程度出して、経営を見直しながら維持して欲しい。
- ・余裕があるのならば現状のまま。
- ・食堂が点在しているので、1~2ヶ所にまとめてやると新規のお客さんにも分かりやすいと思う。メニューが昔からのものが多いのと、レンチンや湯せんが多く、わざわざ高いお金を払ってまで食べたいと思わない。客層やニーズに合わせて考えるべきだと思う。美味しければ多少高くてもお金を払うと思うので収入が増え潤う。
- ・中央第二リフトの設営。

- ・スキー場事業の統合化の検討により、運営会社の収益強化。リフト、スノーマシン等の維持管理方法の見直し。一方的に村の財政に依存するのではなく、支援をしつつ、運営会社の収益強化を図る。
- ・スキー人口の減少や温暖化の影響など将来に不安を抱える中で大規模な設備投資はリスクが高く周辺のスキー場の廃業が進み、売り上げの増加と毎年の黒字化が大規模投資の必須条件であると考え。しかし現状を維持していくためには様々な補助金や有利な借入制度を利用しながら設備を維持する必要がある、指定管理にした方が進めやすいのではないかと。
- ・木曾福島スキー場のように経営することは出来ないのでしょうか。今までと同じような経営方法では厳しいと思うので、村外の企業にも力を貸してもらいたい。レンタル・食堂・スキー場内の全てを一本化、効率化して運営し、今の時代に合ったサービスやクオリティーを上げてもらいたい。
- ・大規模な改善は多額な資金がかかるので、老朽化した部分やどうしてもやらなければならないところを中心に。今のやぶはら高原スキー場の特色(食堂が点在しているのは個性が出てメリットなので、外国人が少ない、雪質が良い、ゲレンデの高い整備…)をいかしていきたい。良い所をさらにのばしていきたい。レンタル・食堂などの一本化は外のスキー場との区別がつかなくなり、デメリットに繋がると思うので反対です。

[50代の意見]

- ・民間ノウハウの活用や旅行代理店との提携等による経営の改善
- ・税金の投入はしてほしくないです。
- ・村民の集客が大事になってくると感じます。シーズン券の割引により子供と親がスキー場へ来る。今まで、子供にはスキーをやらせたいが、親のお金がかかるので行かないケースが多かった。
- ・スキー人口が増加する見込みがないため、夏場のゲレンデ利用プランを考えるべき。並行して出口戦略も必要(スキー産業のダウンサイジング)
- ・雇用のことを考えると存在意義は感じますが現実的に継続はむずかしいのでは。もし継続するのであれば規模を縮小して経費削減するしかない。
- ・スキー場内のすべての事業を民営会社に一本化運営する。村の営業用財産を運営会社に無償貸し付けではあまずぎる。
- ・規模を縮小し(コースを縮小)何か楽しめることをする。
- ・コースの規模を縮小して、スキーヤーの最低限のコースは継続して、ボーダー専用のハーフパイプのコース、初心者・上級者向けを設立したらどうでしょうか。
- ・外部の支援を強く求める。特に上下流交流地域やスキー場利用者(県内外)からのクラウドファンディングをお願いするなど。全ての施設の一本化も必要、統一性のある経営。
- ・村の所有とし運営会社に委託する。クラウドファンディングを活用する。
- ・昔からあり雪質も全国的に有名なのでなるべく現状を維持しながら続けていく。
- ・村運営。ゴンドラ。アクセス(道がせまい)。規模縮小はバツ。冬山キャンプ。
- ・新規の設備更新は大変難しいと思うので、現状をなんとか維持しながら存続させるのが現実的ではないか。民間の食堂、レンタルなどについては、それぞれに事業継続意思がはっきりしていると思うので、早い段階で確認を取り、廃止統合を進めるべきではないか。ダラダラと営業を先延ばしして経営体力を奪う必要はないように思う。指定管理者方式は他の例を見てもうまくいかないと思う。グリーンリゾートは総力を注入してスキー場営業継続してほしい。
- ・事業の一本化。運営会社への委託といっても無理があると思う。
- ・赤字経営にならぬよう。税金を使用する際、運用の透明性、責任等、明らかにしてほしい。
- ・集客はとても重要なことだが、若いお客さんには特に安全面に関するマナーを守ってもらうようさらに呼びかけ「安全に安心して滑走できるスキー場」を売り物にしてほしい。特にスノーボードについては、クラブがあるのでスキー場で営業している以上スノーボードのマナー向上に力を貸してもらいたい。
- ・食堂等一本化する。借地料があればその負担を減らす。
- ・スキー場内すべてを一本化して運営したらよいと思う。維持費にクラウドファンディングを活用したらどうかと思う。

- ・スキー場は村にとって大変大切に有意義な場所であると思います。しかし現状維持ができませんか。規模縮小も一つの案としてお考え下さい。
- ・村内外に出資を求めたり、クラウドファンディング等を利用して資金を集めて、存続した方がよいと思います。特に役場職員は利用することを強く希望します。(お金を落とす意味で)
- ・もっともっと企業努力をする
- ・事業の一本化(スキー場全体のイメージの統一感が出る)。クラウドファンディングを活用(高齢化が進み若者が定住しない村の現状では村民が負担することは無理だと思う)
- ・食堂の一本化
- ・リフト、機材を村有とし指定管理方式での運営。レンタルスキーや食堂等の事業を一本化。こだまの森を利用した客ヘリフト券や宿泊割引券を配布し集客する。
- ・夏にこだまの森を利用した客に割引券を配布。SNS等で雪のない東南アジアへアピール。野沢温泉のようなスノーモンキー
- ・クラウドファンディングで活用資金を集め設備投資することはよいと思う。村がすべて負担することは村民の負担になることから資金が捻出できなければ廃止もやむを得ないと思う。王滝グループ社長に野麦峠スキー場はどうやっているのか相談すればよいと思う。
- ・どう継続していけばいいのか答えはできませんが、木祖村の代表的な施設を残すべきだと思います。
- ・雪ごい祭、祈願(天然雪さえあればねー)人が来る環境を作ることが村としてやっておくべきである。その人から外資を得るために村民は動けばよい。しかし、スキー場への一般村民が入れる環境にはハードルが高い。シニアからはお金をもらうべき。学生証の活用(半額)→リピーター割→特定学校の差別化割→次年度へのつなぎ、御嶽山が観える展望、最後はきそふくしまスキー場とコース連携(本当はリフトで繋ぎたい)
- ・平日は週2・3日休みの日があってもいいと思う
- ・スキー・スノーボードなどと共に宿泊に加えてアミューズメントそして、こだまの森も活用して年間通して利用できる大型施設。
- ・食堂等の経営を一本化する。規模を利用状況に合わせて縮小。企業として季節従業員も一体的に努力する姿が必要。
- ・ゲレンデの数を少なくする
- ・スキーやスノーボードだけではなく、冬の催しを充実させる。お金をかけるのではなく例えば映画祭・展示会(アート)なども入れて。建物については現状のまま施設更新。マイリフト:リフトの背に出資者の名前をいれる。資金集めクラウドファンディングもよいかと。冬のスキー場キャンプ場
- ・スキー場で出来るイベントの開催。規模を縮小。
- ・やるのなら中途半端なことはせず、他の郡内のスキー場からお客をすべて奪うぐらいの気持ちとお金でやるべき。
- ・ある程度は村から資金提供が必要だと思います。規模の縮小も視野に入れながら歴史のあるスキー場なので残して行って欲しいと思います。
- ・テレビなどでよくやっていますが奇跡のアイデアを出して(どこでもやっていない事)やっもらう。
- ・事業を一本化し時代に合った形に進化必要
- ・SNSを利用して資金を集める
- ・これまでのスキー場を維持していただくだけではなく、これから流行するトレンド等を素早く取り入れないと継続は難しいと思います。又、夏も利用出来る様な仕掛けがあれば名も売れるのでは(ゴンドラ、空テラス、ハイジのブランコ等)。
- ・冬だけでなく一年中を通して村民も含めた人々が利用出来る様な運営ができたと思います。
- ・大手のポイントが使用できるようにする。
- ・現状のまま維持できたら一番良いと思いますが、今後はふるさと納税やクラウドファンディングなど新しい形での資金集めの必要だと思います。
- ・従業員の意識改革。お客様ファーストで考えるべきだと思う。園児・児童に「夢のスキー場」の絵を描いてもらい大賞の絵のとおりスキー場を作る。また、賞金を出し「理想のスキー場」の絵を公募する。その大賞の絵のようにスキー場を作る。集めたお金の使い方が大事です。

- ・村民の雇用確保もあるが、赤字が続く様なら村外の会社に委託し、キャンプ場だとか他のイベントで使用することも良いと思う。
- ・具体的にどのようにしたらよいかはわかりません。しかし、県内・郡内の近くの人たちにやぶはらスキー場はゲレンデ・食堂など、とてもよいと言われることが多いので、これからも運営できるようにしてほしい。
- ・伝統あるスキー場であり、なんとか続けていければと思う。村で統一して管理をしていくのがいいが、村で厳しいようであれば運営会社に委託するのがいいと思う。クラウドファンディングも活用してみるも一案化と思える。
- ・ゲレンデを上部のみ(中央リフトから上)のみとする。
- ・規模を縮小し維持管理費を減らすべき。黒字化の目途がたった時点で修理等すればよい。
- ・維持更新費用は必須、どこでも同じ。冬だけで償却するのではなく、オールシーズンで償却することができないか。こだまの森、西山、スキー場、ダム。
- ・スキー場内の事業を一本化し運営する方向へ規模を縮小し、維持可能なスキー場にする。一本化しなければむずかしいと思います。一本化する事業はすべて(レンタル・食堂・リフト)が理想ですが、そのまま個人でやっていくのも可。
- ・できれば現状、縮小も視野に入れ、日帰り客でなく滞在型のスキー場作り。近隣のスキー場が営業をやめることもあり得る中、今はまだ廃止しない方が良くと思います。
- ・100周年まで努力しながら維持していく。その間に村は廃止する場合の約5億円を積み立てておく。
- ・現状のまま区切りを決めて続けていく。例えば100周年とかの区切り。それまで続けられない何かがおきたときは、クラウドファンディングをすれば昔からの常連さんは助けてくれると思います。
- ・現状のまま、老朽化した施設を更新しながら、あるいは規模を縮小するか維持管理費をおさえる形式で継続。
- ・村負担の増額はしない方向で。村外に出資を求めることには賛成できない。

〔60代の意見〕

- ・現状に適切な更新をしながらの運営継続
- ・大きな経費がかかりすぎる。(設備、機械、運営、検査、管理)
- ・村内外に出資を求めたり、クラウドファンディングを活用して資金を集めて維持する。
- ・気温に左右されない降雪機を導入し、毎年スキー場開きを予定どおり行うことにより、集客度を飛躍的に高めていく。
- ・TV(コマーシャル)、ラジオ宣伝を多いにやるべき
- ・やぶはら高原スキー場のPRを活発に行い集客していく。個々で経営している部分を一元化して運営して(会社として)売上げを配分する。クラウドファンディングを活用して資金を集めてみる。とにかくいろいろな方法(アイデア)を用いて継続の道を探る。
- ・暖冬傾向が予想され降雪が少なくなることから雪が少ないシーズンでもそれなりのゲレンデ条件で楽しめるよう人工降雪機で対応する。
- ・奥木曾グリーンリゾート(株)を指定管理者とすれば良いと思う。村の財産であるスキー場は今後も継続してもらいたい、そのためには設備投資は村が行うべき事だと思う。
- ・全ての事業を一本化、村で運営は難しいので会社を募集する。
- ・人口減により集客は望めないなのでスキー場全ての事業を一本化する
- ・完全に民営化し税金の投入は行わない。続けるかやめるかは公が判断せず民間企業が決めればよい。
- ・今後の収入見込みに見合った規模への縮小であれば運営の継続を望みます。例えばスノーマシンなどの設備等が必要不可欠な投資であるとは思いますがもう少し少額では済まないものか。
- ・レンタルの一本化。借地料の減額要請。クラウドファンディングの活用
- ・借地料の減額をお願いしながら、現状のまま老朽化した施設を更新する。
- ・スキー場は必要だと思う。資金を集め維持管理費を捻出する。
- ・運営会社に委託する。雪が無くて収益がなくなれば運営会社は撤退する。それがスキー場の寿命である。

- ・以前と時代が違う。斜陽産業に公費投入は反対。民間企業として自立してください。(村のアンケートではなく、企業がアンケートを実施するのがスジ)
 - ・藪原スキー場は歴史的には古く知名度も高いが昨今のスキー場を取り巻く環境は大変難しいものがある。温暖化による雪不足、スキー人口の減少、今後の見通しとしてスキー場経営を継続していくには長期に渡っての運営は全く不可能と考える。
 - ・クラウドファンディングによる立て直しもよいと思われる。スキー・スノーボードはもちろんだが集客につながる雪利用のイベントを売ったらどうか。
 - ・土地代の値下げ等により年間の維持費を減らす。土地を村のものにする。
 - ・全リフトを村の所有とし、指定管理方式(こだまの森とセット)で運営会社に委託する。
 - ・冬期間だけではなく、夏をはじめ1年を通したオールシーズンで運営可能な事業の展開を行い、スキー場を継続する(こだまの森との連携、SNS 発信による誘客等)。指定管理者方式を導入、徹底的なイメージ戦略(白馬等を参考に)による誘客を行う。イベントを多く企画、イベントごとのクラウドファンディングを活用する。
 - ・現状のままでお金をかけないでやっていく。将来的にはすべての事業を一本化していく。
 - ・現状は施設を更新しながら続けていくのが良いと思うが、定期的に積雪の状況、収支の状況を見直しながらか継続していかれるか検討していく必要はあると思う。
 - ・設備投資と経費を見直していく。
 - ・魅力ある施設(現代風レストラン) 分散させず1~2の大きな施設
 - ・現在の時点では、意義はかんじるが、継続については老朽化を考えると経費等むずかしい点ばかりかと思う。
 - ・現状ではリフトの整備、修繕の費用は利益で賄えない状況にあり、村からの出資がないと経営できない。費用対効果は近い将来は期待できないが、村の雇用や木祖村のシンボルとして存続する必要があると思う。規模を縮小してでも当面は存続されたい。
 - ・子ども達が楽しめるイベントを開く。
 - ・継続するも廃止するにも大金が必要になる物を村の所有とするならば、村の財政に負担が大きく申し掛かる。人口減少の中、今後の村の事も考えれば、他のスキー場などを参考に、これ以上の赤字を出さないうちに、いくつかの検討案を出して村民と考えていく。
 - ・菅生産森林組合が運営していった方がいいと思う。
 - ・もっと集客方法を検討する。それか、規模縮小。
 - ・グリーンシーズンは広い土地を使い、アスレチックなどを作る
 - ・レンタル・食堂等、施設の一本化をし、リフトを村の所有として指定管理方式で運営会社に委託する。ただし、よい運営会社が見つかるか心配。
 - ・村内外クラウドファンディングを活用して協力してくださる方出資をして維持する(目的をはっきりさせる)場内食堂レンタルを一本化して村経営または指定管理にする
 - ・スキー場の現状を訴えて村出身者やスキー愛好家から出資してもらう
 - ・リフト等の設備を使用しない方法を考える。夏場の利用
 - ・利用者数増に向けた運営方法、設備投資の中期計画策定、小中高校生を主体に運営方法の検討
 - ・できる範囲で続けてほしい。よその人には魅力あるスキー場と聞く。
 - ・スキー人口の減少、温暖化による雪不足、施設の老朽化などこの先も明るい希望は望めない気がする。でも90年の歴史を持つ村の財産をなくすことはしのびなく、できることなら規模縮小し、こじんまりと内容の濃い魅力あるスキー場にできればと思う。
 - ・どうしても資金を捻出できない場合クラウドファンディングも良いと思う。しかし、一時的に乗り越えただけではだめで、5年後10年後その先も考えなくてはいけない。今から考えるべきである。村は無償で貸しているのだから民間で収益をあげてほしい。
 - ・規模を縮小し、駐車場の整備、レストランのリニューアル等改善する。クラウドファンディングの利用、今後の運営として、木曾全体での計画案等の検討はどうでしょう。
 - ・村にスキー場があることによって、子供達がスキーやボードの経験ができることは良いと思うので、できるだけ続けていってほしい。
 - ・現状を原則とする。経営の効率化や限定的な村の支援
- 資料を見ると雇用関係で村内従事者約130名給料等3800万円、材料等の調達、施設等の維持で村内関係4400万円、この金額で継続をして行く事を考えないといけな。レンタル、食堂

等、スキー場内の事業を一本化し(奥木曾グリーンリゾート株で経営を考えたかどうか)全リフトを村の所有とし指定管理方式で運営会社に委託していく。

- ・村が主導して経営していくべき。
- ・基本的に設備投資負担は村が担う。民間では法廷年限による減価償却負担が大きすぎる。運営を指定管理方式にして奥木曾グリーンリゾートに委託するのがベスト。村によるガバメント・クラウドファンディングを企画・実施して資金を集める。
- ・スキー場の事業を一本化し運営すべき。ゲレンデ等をグリーンシーズンに利用する事ができるような活用を検討。地元の商店街を利用すべき←村が補助
- ・アクセスもよく、ゲレンデも子供から大人まで楽しめるので、やるからには利用しやすいようにする。運営会社に委託したり、村で運営するにしても別でやるのではなく人気のあるスキー場になってほしい
- ・村がスキー場を運営していく時代ではないと思います。もっと早く手を打つべきだったと思います。
- ・集客が出来る施設・環境を整える。
- ・撤去等に関しても税金がかかる。コロナにおいての利用が減る。時間はかかるが地道な努力で維持する。(クラウドファンディングにて資金集め)
- ・事業を一本化して夏場も営業できるレストラン等の施設を。一年中見どころがあるような場所づくり。例:スキー場(を)花一面に。展望台の設置、ペンション風の建物で。地元の食材を使った料理等。夏場の「ドックラン・キャンプ場」
- ・可能であれば現状のまま老朽化した施設を更新して続けていけたらいいと思いますが、維持管理費も大変だと思うので村内外に出資を求めるのも一つの案かもしれません。
- ・初心者から上級者まで楽しめる各種多様なコースがあることがこのスキー場の特長であり規模を縮小すると他のスキー場との差別化ができなくなる。現状のまま徐々に施設更新をしながら存続させていく。
- ・リフトなど一部は村の所有とし、他は委託してやる。
- ・思い切ってスキー場廃止！
- ・古いスキー場も味があって良いでしょうが(建物・食堂・宿)等現代に合わせた施設！(若者が来たいと思う様)そんな場もあって良い。
- ・時代が大きく変わる時です。今後時代がどのような方向に動いていくか見極める時期だと思っています。少しの間休止して、また時代に合ったものを模索していったらどうでしょうか。
- ・一本化は難しいけれど、リフト従業員がお客様に対する乗車下車の対応にバラつきがある。他方面のスキー場では従業員指導がきちんとされているので、その点も踏まえてやると良い印象になると思う。
- ・村内外に出資を求めたり、クラウドファンディングを活用して資金を集め、維持管理費を捻出するのが良いと思うが、魅力が無ければ先細りになってしまう。
- ・スキー場(冬場)とこだまの森キャンプ場など通年で利用できる、全体的なことを考えてほしい。夏場:マウンテンバイクなど若者を取り込むことなど。
- ・縮小してもリニューアルを計画的にして継続する。個々の食堂のリニューアルは必要。耐震も考えて。夏の利用も考えていく。全リフトの一本化も必要。ホテル化し団体受入れを。
- ・この質問をすること自体ナンセンス。
- ・運営会社の方々がもう少し前に出てがんばってもらいたい。規模を縮小し人件費を削減しては。
- ・クラウドファンディングを活用して資金を集める。その際、資金提供をしてくれた人にはシーズン券等を配布する。
- ・1)村内外に出資を求めたり、クラウドファンディング活用して資金を集め維持管理費を捻出する。2)年間通して経営を検討する。こだまの森と菅区の駐車場活用を考える。3)規模を縮小し維持管理を減らしながら経営をする。
- ・①雇用の確保が大事と思う。②夏(シーズンオフ)ゲレンデの利用方法の検討をしてほしい。
- ・スケールダウン、どんぐりコース・サツキコースを残し他は止める。リフト2本で入場者2万人、(客単価、レンタル・食堂含め@2,500)、売上5千万円、経費4千5百万円をめざす。地元・伊那・塩尻・松本地区、学校スキー教室等誘客。

- ・すべての事業を一本化して村で事業運営をする。その中で民間のノウハウを入れて公務員感覚ではやらない。
- ・全施設を村所有とし、運営は平成 17 年に戻り村による運営又は指定管理方式が良いか。
- ・補助事業の活用等、維持管理費の捻出に努め、集客方法も検討する。
- ・小さい頃から利用させていただいているスキー場です。藪原スキー場と言えば有名で雪質も良く継続して欲しいです。スキー人口は減っていますが、スノーボードなど若者をターゲットにおしゃれな施設や食事など充実して沢山来ていただけたらと思います。(建物が古い)
- ・冬の観光と村民の雇用を中心とせずことは考えられない。なくしたら火の消えた村になる。ある程度税金を投入することもやむなし。あらゆる努力で収入を増やし、支出を減らすことを考えて維持することがよい。ただし温暖化によるスキー場としての基本条件が変わるとしたら考えなければならない前提条件がなくなるので継続はむり。
- ・維持管理が何にどのくらい必要なのかわかりませんがクラウドファンディングなどで出資を求め、かつ規模の縮小なども考え出費も不要・必要をきちんと精査し運営する。
- ・現状のままが良い。縮小すると失業者が増えるのでは。
- ・チケット売り場にお店、飲食店を同時に設ける。
- ・リフト・食堂・レンタル全て同一事業者で行う。宿は別。
- ・村以外に会社が運営する。
- ・老朽化した施設を更新しながら、維持管理費を減らしながら続けていく。
- ・スキー人口の減少は止めることができない。同じく平均気温の上昇と降雪量の減少にも逆らうことはできない。そんな中で多額の投資をしたとしても近隣のスキー場の入込みの半分を占めたとしても、経営の黒字化は困難だと思うしゆくゆくは債務超過に陥るのでは。朱然可能な物は修繕し、不能なものは削っていくしかないのでは。
- ・規模を縮小し維持管理費を減らしながら続ける。すべての事業を一本化する。さらにこだまの森も含めて検討する。スキー場のゲレンデを利用してテントサイトにする。管理事務所を1つにする。
- ・会社の努力
- ・維持管理費が減らせるよう工夫し、スノボ・スキーができない人も楽しめるゲレンデ食などを充実する等、スキー場で楽しめることを増やして続けていく。
- ・規模の縮小、機械を使用しないかまくらの里のような場所にする。夏へのシフト(涼しさを売りにする)。
- ・観光の柱をスキー場と考えると、多額の投資が必要で、村が財政破綻する恐れがある。観光の柱をこだまの森にして、スキー場を副として、初心者、ファミリーに特化することで、投資額を少なくする。スキー場としては、上級者向けのコースがある方が有利かもしれないが、リフトの利用状況等を見て、利用の少ないものは、中止しても良いのではないか。スキー場として、有ればよいものを全て整備するのではなく、整備するものに優先順位を付け、村が投資できる範囲で整備してはどうか。

〔70 代以上の意見〕

- ・過去(スキー場開設から今日の状況)に捕らわれず、今後(100 年 + α)の諸条件を勘案すれば、必然的に答えは「否」であり、廃止すべきである。
- ・個々、バラバラの経営では生き残れず、スキー場全体を一企業体として統合して行かないと成り立たず、税金のむだ使いは許されない。
- ・「4」シーズン利用できる施設に利用客の多様化に対応できるよう「場」全体を考える。
- ・フルシーズンでき、夏シーズンも利用できる何かを導入する。トレッキング(木曾福島スキー場と協力してコースを作れないか。)リフトの利用、マウンテンバイク・オフロードバイク等のコース、山頂からの景観の利用方法、ダム湖との連携など。
- ・既存の施設を利用してできるようなアクティビティや宿泊プランを用意し、話題にすることができればコロナ禍の今でも客を呼び込むことはできると思います。その際には村外者や若い世代の意見を取り入れることは必須だと思います。特別新しいのもではなくても流行りのものを取り入れるだけで需要はでてくると思います。
- ・リフト利用状況を見て、利用の少ないリフトは廃止もしくは休止し経営の安定を図る。
- ・できるだけ現状を維持

- ・伝統あるスキー場、後世に残したい
- ・難しい問題で簡単には答えられない。
- ・冬だけでなく、何か夏でもできることを考える。
- ・経営はこれから大変になると思いますので、村内外に資金、出資協力を求める。経営のあり方を再考する。外部の優秀な経営体と協定を結び刷新を図り、時代に合った斬新な運営を目指す。近い将来に住民・村民負担を負わせる方式はやめてほしい。
- ・長野県内に 79 あるスキー場の中でも雪質の良さ、国道 19 号からも 10～15 分のアクセスの良さ、昨年度は暖冬で雪も少ない状況であったが、いくつかのスキー場は廃業したり営業できないところがあった。何とか頑張っていれば淘汰されて廃業するスキー場がもっと出て希望の持てる状況になると思う。
- ・宣伝方法を考えるべき。
- ・よそのスキー場とくらべ車からおりてすぐスキーをつけてリフトに乗れる所はほかにないと思う。継続してほしいです。
- ・スキー人口の減少と、気象条件のきびしさ等を考えると経営は非常に困難が見込まれます。他方冬期間の雇用の確保の現況からして、継続は必要で切実な問題もある。他のスキー場もこのような課題に直面しているのではないのでしょうか。何としても継続の方向にしなければならぬ。
- ・従来と同じ施設でなく、維持管理を縮小して運営して行く。 レンタル・食堂等スキー場内の事業をいずれ一本化して行く。その場合一つの事業を共同企業する国の補助金 4 分の 3 の支援をもらい、残り 4 分の 1 を共同企業が出費する。
- ・縮小して維持管理費を減らしてという考え方もあるが、今までの負債も大きく、難しいと思う。
- ・最近の雪減少、スキー人口の減少を考えると、規模を縮小し維持してゆく事が可能ならば、その方向が良いかと思うが、設備の老朽化、毎年の維持費を考えると無理がある気がします。
- ・スキー場の設備投資は巨額の費用がかかる。今回村費を投入して事業を継続しても、何年か先に又巨額な設備更新費用が必要になった時、また村費での設備費支援が必要にならないか。村費で支援する以上、スキー場だけでは他の産業への申訳が立たない。増やして商工会のプレミアム商品券中止ともなれば尚更である。木祖村の貴重な観光資源であることは分かるが、健全財政への長期的なシミュレーションを描いておられますか。
- ・一般村民には具体的対策は分からない。関係者の努力を待つしかないが、精神論として申し上げる。楽観も悲観もすべきではない。せつかくの財産なのだから地道に努力してゆけば良くなることもある。努力は村民全体がしてゆくべきだし、その為の辛抱も全村民が受けるべきである。村事業の見直しにも何年かは我慢しなければならない。特定の者だけの利益にならないよう十分チェックする必要があり、検証結果を公表すべきである。
- ・経営能力又は営業能力を考え直して、人材も再考することも必要かも。設備投資などに、このまま自治体が金を出し続けて良いかどうか。関係者には自分たちでもっと真剣に考えてほしい。
- ・スキー場の存在は認めるがスキー場がある為に村民の人生に何が幸せか。何が得る物村民全体の為になっているものがあるか、幸せか。長い将来を考え見据えた先に光が見えているか。何も無く唯一部 190 人の雇用に必要だけで村民全体のものの宝物とは言えません。あの長さの主索(ケーブル)の交換にはばく大な金がかかります。借金が大きくなってからより、思い切って廃止してはどうかと。時には勇気も必要な時があります。遅くなると大変なことになります。
- ・交通網が発達すると思われるので、日帰りに重点を置いたものにする。事業の一本化は必要であるが今の物では。全リフトの村の所有化はいいと思います。
- ・村内に冬場失業者は多いと思う。スキー場がなくなれば若者の人口減に繋がると思う。現在有る物を修理して大切に使う事も大事。全リフトを村の所有とし指定管理方式へ。
- ・わからないことです。当事者の考えですから。
- ・このスキー場の経営は現実的に不可能と考えます。
- ・やぶはらスキー場にはもう少し継続してほしい一人です。いろいろ考えられる中で最もリスクがない案にしぼっていく。

- ・①こだまの森とセットで通年運用が確保できる体制の維持。②スキー場をオールシーズン活用できるよう春から秋にかけて人を集めるイベントの開催や観光スポットとなる場所を作る。③クラウドファンディングを活用して財源を確保する。
- ・夏場の利用法:オフロードバイクのコースを整備し、マウンテンバイク活用する。
- ・規模を縮小し、維持管理費を減らしながら継続できることができれば、それが一番に考えますが、見通しがたたなければ継続は断念するしかないと思います。
- ・無理と思います。
- ・経営ができるものであれば継続してほしいですが、資金面や今後の色々な状況を考えて難しいと思う。今までのような訳にはいかないと思うので、この辺で仕方なく断念する事が良いのではと思います。良いと考える条件がありませんので。
- ・村内外から出資を求める。リフト券が高すぎるのではないか。何回もスキー場へ来てくれた人には、スキー場の民宿で利用できる食事券をサービスにする。費用は村内外からの出資金で行う。
- ・コロナ収束後どのような社会になるかわからないが、規模を縮小して続けることを希望する。
- ・現状維持でやっていくほかないと思う。
- ・全リフトを村の所有とし、老朽化した施設を更新しながら維持管理費を減らす努力をしていく。指定管理方式しか方策がないか検討を。
- ・村で良い方法でやってください。
- ・クラウドファンディングで資金を集めるのがいいんでしょうけど、毎年維持管理が必要となるから難しいですね。
- ・夏場の事業。
- ・現状において老朽化した施設が多々あると言われている中で、経営上赤字である以上、村の税金への負担が考えられる。村の行政運営も大変厳しい中で、スキー場ばかりへ補助することはいかがなものか。規模縮小と維持管理を減少してもやむを得ないと思います。
- ・冬のスキー・スノーボードを縮小して夏場マウンテンバイク他散策できるコース作りなど。冬はノルディックコースを取り入れて収入面を春から秋の面で上げるようにする。
- ・5~10年くらいのスパンで中期ビジョンを踏まえ経営方針やあり方を検討してみる(温暖化等)
- ・現状維持してサービス向上に努め続けていく。曜日によって運休日を設定してやってみる。
- ・雇用面でもスキー場の存在は大きいと思う。今のままで施設を更新しても村の予算との兼ね合いで支障があるようならば規模を小さくしたほうが良い。最近の気候も考慮して
- ・全施設を村有として運営会社に委託
- ・スキー以外の運営を考える
- ・色々な収支計画を参考に設備投資計画を立案する
- ・高齢者は今後リフトに乗ることはないと思う。金をかけるならゴンドラにして年中景色を眺められるようにすれば日本中の人に来てくれると思う。可能ならこだまの森とスキー場を結ぶ発想はいいが。
- ・スキー場あつての木祖村だが、今後のことは私たち高齢者にはわかりませんが、涼しい場所のできる野菜、ワインなど作ればよい。
- ・今までのような上下分離方式で設備投資は村がやる。レンタル、食堂を一本化する。(現在運営会社の所有のリフト、スノーマシンも村が所有)冬のスキー場、夏のこだまの森の運営も今まで通りとする(現会社が運営する)維持管理費の縮小を設備投資と主に検討する。コンパクトな運営を。
- ・温暖化の進行による雪不足、スキー人口の減少など、今後の発展を見通すことが困難な状況かと思います。継続するとするならば規模を縮小しながら維持管理費の削減、設備投資の見直しを行い、併せて集客できる全く新しい魅力づくりを進めるべきと思う。
- ・第三セクター
- ・現在の若い人達は関心がないと思う。これから続投していくならば委託と言う考えはいいがですか
- ・国設リフト廃止、第1、第2、第3
- ・とても重要な問題だと思えます、若い世代へ負担を先送りする事があつてはなりません。先を見通す事の難しい現代、スキー離れが気がかりです。例えの中で先を見通した内容を可能な限り検討いただく事を望みます。

- ・若者が地元に残る可能性がある。スキー場が無くなって失業する人は大勢いるスキー場は村の活性化に有用である。
- ・昔は良いスポーツでしたね。でも現代はいろいろ大変だと思います。ですのでスキー・スノーボードのする期間をみじかくしてやって見てはと思います。それでいけなかった時は又考える。
- ・1. 全リフト村所有の指定管理方式とする。2. ゴンドラをさつき途中から第3まであげて、スノーマシン、コース等整備する。(第1ー第3リフトは中止する)3. できればスキー場内全ての施設を一本化する。4. クラウドファンディングも活用する。(やぶはらのファンは多い)5. 全ての面で木曾郡内でスキー場として残れるのは「やぶはら」しかないと思います。(今駐車場の整備が早急)
- ・村費を使用して、(できれば村営で)運営していく。
- ・資料の中身について、以前より具体的な数字はわからなかったけれど村民として、また愛好者として心配していた事です。できるなら(意見例の)④・⑤を考えて継続運営をしてほしいと思いますが、むずかしいなら廃止も決断。(意見例の)②は小規模では魅力なしである。(意見例の)③は今さら無理。
- ・学校のスキー教室、県外の学校からスキー教室(泊まり)で多く呼びこむ、事業の一本化の運営で。
- ・今後の人口減少はあきらかで利用者減少はとめられません。小さな村で負担していくことは無理だと思います。お金をかけないで続けていける方法を考える必要があると思います。保育園児や小学生が利用できるような下のゲレンデだけでも続けていけたらと思います。
- ・わかりませんが、歴史あるスキー場なので、今後も継続していく事が大事とお思います。
- ・村での維持の運営は今後多くの問題があると思う。運営会社に委託でのスキー場としての村の活性を望む
- ・継続絶対反対
- ・夏場の高原の良さをPRし規模を縮小し続ける。
- ・経営感覚・センス・先見性を持ち、業界と経済の動向を的確に学び、知り、経営に生かすことが大切です。叡智を結集して、情報を集めて一急がばまわれ。まずは、経営体＝グリーンリゾート経営陣の真摯な姿勢が求められる。今までの責任者、体制、責任の取り方が不明確！体制に問題が有り。
- ・ゲレンデの脇を歩いて雪面歩行を楽しみ、雪上でお茶、軽食を楽しめるスペースが有ると良い。歩くのに疲れたらリフト利用してスペースへの移動も可としておく。雪の上で食べる楽しみをプラス。トン汁、コーヒーなどなど軽い食事。皆でわいわい料理。更新して続ける・一本化する・クラウドファンディングを活用する。
- ・夏場はオートキャンプ場にする。
- ・(株)奥木曾GR、根本的な本質改善、急務である。増資及びクラウドファンディングの活用。将来は場内の事業一本化にする。施設は年次計画で修繕更新をしていく。
- ・規模を縮小すると本来のせっかく持っているやぶはらスキー場の魅力が失われると思うので、そのままのスケールで設備に村費を投入し、集客に努めるのがよいのではないかと思う。村民の雇用の確保も大切で、他にこれといった集客できる産業もない。
- ・全リフトを村の所有として指定管理方式で運営会社に委託する。村の所有としてやらなければ伝統あるスキー場が存続できない。スキー場がなくなると木祖村の大きなダメージになり村の活力がなくなる。絶対に知恵を出し未来に残すべき。
- ・冬期3ヵ月間で2億4千万円の売上げは木祖村にとって重要な事であり継続が望ましい。少ない若者の雇用にも貢献大であると思う。老朽化した施設を必要最低限更新しながら続けていく。地球温暖化による暖冬で先行きは大変かと思うが、スキー場経営を撤退しても、4億5千万程かかるとある。結論を早く出す事もない。新しい考え、知恵が出てくるだろう。
- ・スキー場内の、リフト・食堂・すべての事業を一本化で運営してはどうかと思います。個人が入っているため難しいと思いますが、スキー場を廃止することはしないようにしてもらいたい。シーズンオフにお客さんを呼ぶ。
- ・借地料の減免
- 現状のまま、老朽化した施設を更新しながら続けていく。地代が高いとの話を耳にする、何とか安くならないか。

- ・組合費が高く、原因は菅区の地代が高いので。菅区の地代は、元々村の土地なので村が菅区と話し合いをして組合に負担をさせないでほしい。
- ・地球温暖に進んで行くため厳しい。
- ・個人の営業をやめて、レンタル・食堂等、全て事業の一本化にした方が良いと思う。他のスキ一場でやっていない方法を専門家に頼んで考えてもらう。
- ・若年人口の減少する中、今後の成長産業とはいえない。傷口が少ないうちに規模を縮小していった方がよい。
- ・現状通りで採算重視の経営改革を行う。
- ・今年はコロナで利用者が少ないと思う。コロナが終われば利用者が良くなるのでは。
- ・夏場利用検討
- ・村でもっと力を入れてやってもらいたい。土地使用料を大幅に下げる事、特に菅地区の借地料が高すぎる。
- ・私は食堂の収入で生活できているので、規模を縮小し維持管理費を減らしながら続けていく。
- ・後からできたゲレンデを縮小し、続ける。

〔年齢不明の意見〕

- ・伊那・駒ヶ根方面からの誘客に力を入れる。現行の伊那からのバス運行はよいアイデアと思う。外国人誘客を積極的に取り組む。(特に雪の少ない国)
- 今までは存在意義はあったと思っている。しかし今後は負荷となっていく。温暖化に向かって冬季の営業はさらにむずかしい状況になっていく、新たな投資など回収を考えたら考えられない。世界中で温暖化の大雨や洪水が発生している。冬でも雨が長くなるなどのリスクがある。気温が上昇し、スノーマシンなどは使えなくなる可能性も考えられる。

2 スキー場を廃止する場合の施策

[10代の意見]

- ・新しい施設をつくり、もう一度やり直す。
- ・観光産業に依存しない、新たな産業構造の構築を模索する。
- ・最近山登りがブームになっている。夏のスキー場の山登りができる環境づくり。丸山コースは子供向け、どんぐりコースが大人向け。宿での日本酒飲み比べ提供。私は飲めませんが、親戚が日本酒を求めて木祖村へ来ることがあるので
- ・ほのぼののハウスを学生の自習スペースやテレワーク用の場所として利用する。子供が一人で来れるようにバスを出す。
- ・こだまの森に資金を集めて人が呼べるのであればそれが良いと思うし、人を集められそうにないのなら、新たな産業を発展させていけたら良いのでは。
- ・スキー場のゲレンデで新たな事をする。
- ・こだまの森のトイレをキレイにする。
- ・スキー場をアスレチック場みたいにする。
- ・キャンプ場にする。
- ・廃止しないように頑張してほしい。

[20代の意見]

- ・こだまの森は知名度も少しあると思うので、こだまの森に力を入れるのは良い策だと思います。近年人気が高まっているグランピングをしながら星空を眺めるプラン。軽井沢の星野リゾートで行っているような湯たんぽや毛布を敷き詰めたハンモックの中でのんびり過ごすプラン。ドライブインシアター、コーヒーやパンを楽しむイベントなど、冬期やコロナ禍でも実施できるようなイベントを多く行えば、若者も呼び込めると思います。私も行きたいです。
- ・こだまの森やスキー場のゲレンデを活用したアクティビティをやるんだったら普通にスキー場をやっていた方が良いと思う。
- ・雪が少なくなれば、こだまの森の通年営業が可能であると考えます。
- ・廃止する必要はない。
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティを創設し、冬季営業をするなど、こだまの森に力を入れ雇用確保を図る。
- ・ゲレンデを村営牧場にして活用する。(例:上松の才児牧場)
- ・スキー場に匹敵する経済波及効果を創出できる事業は無いと思います。長野市飯綱高原スキー場のように雪遊び広場として跡地の一部を利用することは考えられるが、周辺レジャー施設との差別化ができるか。そのためだけに雪を作るのか(天然雪だけで運営できるのか)、地元の活用意向など課題は多いと思う。
- ・グリーンシーズンの活用や、こだまの森に新しくアクティビティを創設する。植林をし、林業に力を入れる。
- ・ゲレンデをアクティビティ施設として活用する
- ・ゲレンデを活用した事業を展開する
- ・廃止はしなくて良いと思う。
- ・別荘や他に住みたいという希望がある方に土地を提供する。
- ・ロープウェイ等を作り、高所からの絶景スポットにする。ソーラーパネルを置く。
- ・涼しい気候を活かし、スポーツ施設を用意して、夏場の合宿として使ってもらう(菅平高原のように)
- ・夏場に丸山を開放してキャンプをできるようにする。
- ・こだまの森の施設の増築(WiFi環境・中長期的宿泊施設など)。ワーケーションやブレジャーのできる環境づくり→関係人口の増加。中京圏からの呼び込み。

[30代の意見]

- ・廃止にする場合、村の今後、負担に絶対ならないよう施策にしてほしい(子供達に負担をかけたほしくない)

- ・ゲレンデを活用し、アクティビティができるが良い。
- ・広場にかまくらがほしい。コテージは冬場利用できないですか。
- ・廃止することによる産業振興や雇用創出はないと思う。廃止すれば単純に産業、雇用が減るだけなのでスキー場は関係ない。別の産業が必要と思う。
- ・子どもがまだ小さいので、スキー場はソリ遊びで数回利用させていただいた。廃止となる場合も冬季の間利用できる公園、遊び場が欲しい。
- ・観光業に限らず、幅広い分野の産業を検討する。
- ・スキー場跡地を利用して牧場をつくる。(牛・ヤギなどの動物と触れ合える)
- ・スキー場は単なる観光産業ではなく、関係人口を作っていくうえで大きな役割を果たしているの、廃止するのであればスキー場と同等の効果を出せる施策をしっかりと検証したうえで廃止すべきだと思う。(スキー場のゲレンデを活用した他の事業を展開するのであれば)
- ・グランピング施設
- ・別の施設や公園などにして雇用を図る
- ・こだまの森と連携しながら、ゲレンデを活用した事業(グランピング、ジップラインなど)
- ・こだまの森で冬季営業をするのがよいと思います。利用客も多いようなので、そこに力を入れない手はないと思います。
- ・工場をどこかの企業に誘致してたてる。
- ・パラグライダー、バギー
- ・スキー場を廃止しなくてもこだまの森で冬期間のアクティビティだったり宿泊できるようにしたら良いと思う。
- ・広大な土地を利用して夏場のトレッキングコースを整備して作るなど、高い所での星空観測を楽しむ場所として再生させる。
- ・もっと人件費を削りなさい。
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティを創設し、冬季営業するなど、こだまの森に力を入れ雇用確保を図る。
- ・製造業などの誘致は見込めないが、今ある業種は大きくしていくことができると思う。地球温暖化などにより、近いうちに田舎にもチャンスがくると思う。村でも継続的に農業に担い手の募集などを行なっているが、定着していないがやり方次第で農林業、木工業はそれなりに収穫があがっているし、木祖村の身の丈にあっている。
- ・スキー場をこだまの森の一部とし活用する。
- ・キャンプ場やコテージなどをつくる。
- ・丸山、さつきゲレンデはイルミネーション(あずみの公園)観光など、ソーラー発電を利用したり、上の方は星が良く見えると思うので、それらを目的とした宿泊プランをログハウスで提供、木祖村の特産品をバーベキューの内容に組み込む等。
- ・質問の意図がよくわかりません。スキー場廃止→産業振興・雇用創出の施策…。当然雇用の機会も失くなり、「スキー」「ウィンタースポーツ」の産業は失くなるのでは。
- ・夏のアクティビティの充実(スキー場も利用)をすれば、レストラン・宿泊などに客は流れると思う。理想は冬、現状を維持しつつ、夏のアクティビティも充実させ、オールシーズンオープン。
- ・今後も感染症が出てくるかもしれないので今から、感染症に強い施策が必要。観光業には限界がある。
- ・夏に一年中稼ぐ。
- ・ゲレンデの花壇化。ライトアップ。イルミネーション。大規模雪合戦(スポーツ)。ドローンレース場化(風除け場所の作成)。

[40代の意見]

- ・良い施設があれば廃止の方向で話が進んでいると思う。起爆剤となるような案はありません。(あまりいいかげんな子供の思い付きのような意見は言いたくない。)しっかりと根拠を示せるだけの案がない。
- ・こだまの森のオールシーズンの経営。ゲレンデを活用した他事業の展開。
- ・観光客がお金を使ってもいいと思える食堂・宿泊・遊び・みやげを(星野リゾートのように)つくる。こだまの森を主軸にしてスキー場の別活用をする。

- ・企業誘致、娯楽施設(ゴルフ場・温泉等)の開発は現実的でなく、外からお金を入れるのは難しいと思う。こだまの森もキャンプブーム乗る一過性の物であり今後一生続くものではないので頼りすぎるのは危険。(30年前のスキーブームの様に)
- ・こだまの森の通年営業。
- ・村独自の天然資源(天然水)の活用による企業誘致又は設立による雇用確保。 コロナ禍を踏まえ、別荘地造成。
- ・木祖村の水を使った事業(天然水の販売、炭酸水の販売、オンライン等での販売)
- ・廃止するからといって村が雇用の心配は不要だと思う。人を雇うための施設であるのはおかしい。以下の必要なし(村がする事ではない)。
- ・スキー場の営業で村の産業振興や雇用創出にどれくらい役立ってるのかが疑問。
- ・アスレチック施設
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティ
- ・観光産業に力を入れて欲しい。冬期間のこだまの森での観光で集客を
- ・観光から少し離れてみるのも有りだと思う。白馬のようにアクティビティを充実させるのもありだが、他文化を入れず田舎らしさ木祖村らしさを追求してはどうか。若い人へのアピールではなく、将来移住してくれそうなファミリー、リタイヤ組へアピールしていくとか。私は他県から来たので木祖村らしさを出した方が魅力的に感じる。
- ・藪原宿の古民家を改修し宿泊施設として整備と合わせモノづくり体験(お六ぐし、木製品)と連携させる
- ・いろんなことに手を出さずこだまの森だけでいいと思う
- ・もろもろ存置のままゲレンデ活用は反対、若い世代に清算の判断や責任を先送るのは良くないと思う。
- ・廃止するにもそれに代わる何かがあれば良いと思いますが。
- ・廃止は希望しません。
- ・下記の内容(こだまの森冬期間、スキー場の他事業)では難しいと思う。
- ・入浴施設を作るなどこだまの森に資源を集中し、冬キャンプなどアクティビティを始めとしたこだまの森から波及する新たな事業を創出し雇用の維持と創出を目指す。
- ・廃止にならないように、村全体で考えてもらいたい。

[50代の意見]

- ・やぶはら高原の名称を残してゲレンデは別の用途で生かしていく(キャンプ場、アスレチックとか)
- ・ゴルフ場にするのはどうですか。
- ・ハーフマラソンの開催実績、伝統ある村内駅伝大会の精神を活かした村内主要拠点を結ぶスタンプラリールートを利用したスポーツアクティビティメニューの創出。森林レクリエーションと林業、スポーツの融合としてトレイルランニング、MTBコースを設定し村内に潤沢にある自然環境を利用する。
- ・雪氷エネルギー産業の検討。
- ・こだまの森でもっと外からの収入増を考える。よそのキャンプ場の様に、女性だけでも気軽にキャンプに来られるようなサービスをして集金をはかる。
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティを創設し、冬季営業するなど、こだまの森に力を入れ雇用確保を図る。
- ・スキー場跡地でレジャー。
- ・スキー場に代わる産業はすぐには見つからないし、時間をかけても難しいと思う。それだけスキー場が約100年かけて創出された偉大な事業なのではないか。
- ・従来の発想以外で。
- ・こだまの森を冬季営業しないのはもったいない。栃ノ木の清水さんがやっていたスノーシューの基地にするのはどうか。雪がなくても冬山の探検ツアーとか、「とちもち」作り、「きはだもち」作り体験などを行う。
- ・こだまの森とリンクする。
- ・ゲレンデの土地を活用して他の事業をする(観光は駄目でしよう)
- ・夏場の利用客が冬期間も利用する可能性がある。

- ・藪原宿の古民家、街並みの再生。宿泊、飲食のほかにお六ぐし、木工品、そば打ち、などの体験ができるようにし、奈良井宿との差別化をはかり、一年を通して観光収入が得られる仕組みの構築。林業とカーボンクレジットに着目
- ・今、キャンプ人口が増加しているので、それに対する施設を増し営業すればいい。
- ・スキー場のみで生業としている割合はかなり少ないのでは、観光産業をスキー場に依存しない継続模索。冬季経営できる農業改革
- ・自然を生かす緑を生かす。(あまり多くを望まず)村内での農業移住者をふやす、農業分野において自給自足が確保できるような取り組み、無農薬、自然栽培(グリーンツーリズム、アグリ)キャンプ・オートキャンプ、空き地での農業や畜産、放牧、農、畜、漁業をパワーアップ、農地を利用した村作り、馬を飼う
- ・下記にあるようにこだまの森の冬季営業はあり得ると思うが、相当な投資が必要で不安もある。
- ・別の雇用を生み出すのは至難の業だと思います。
- ・通年をとおして集客できる事業の展開
- ・キャンプ場の充実。夏のゲレンデの活用
- ・コロナ禍で海外旅行等に行っていた富裕層をこれからターゲットとした施設とし、こだまの森や奥木曾湖も連携し、夏も冬もエリアの広いリゾート空間にすることで年間安定した雇用が出来るのでは。
- ・果樹園を作る。放牧して乳製品を開発し売る。
- ・こだまの森での冬期のアクティビティは魅力だと思うが、スキー場に比べ年齢が限られるような気がします。では何に利用するのが良いか分からないが、太陽光発電のような(観光やレジャー以外ということ)使い方はしないしてほしいと思います。
- ・廃止する場合にはありませんが、今後村の産業振興を考えた時、スキー場やこだまの森と並行して”町並みの活性化”を強く希望します。今、コロナ禍ではありますが、町並みの活性化と共に観光客をターゲットにした”木祖村の穴場スポットツアー”や”お六櫛体験ツアー”etc(遊んで食べて泊まって)の企画等。今後、スキー場だけに頼るのではなく、村にある宝を地域おこしに活かしていく観光振興を切に願います。
- ・スキー場に勤めている人の何人が現役世代でしょうか。新しい会社や事業を始めて何人勤めてくれる人がいるのか。考えてしまいます。
- ・SNSを活用し、木祖村をアピールし、観光収入を得る。コロナ禍の今、こだまの森のキャンプ場などは活用出来ると思う。ある程度、使用料をあげても集客は見込めると思う。
- ・こだまの森に発展の余地があり(通年営業等)
- ・こだまの森に何か目玉となるものが出来れば良いと思うが、「何か」は分からない…。
- ・入浴施設←スキー場跡地に限らず。こだまの森の宿泊の方はお風呂を求めています。
- ・スキー場を廃止した場合は、産業発展に資する山林に戻す。
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティとして何か良い考えがあるのであれば冬季営業をするなど雇用確保を図るのもいいと思います。
- ・スキー場を廃止にした場合は、雇用のことを考えるとこだまの森の通年営業を考えなければならない。スキー場廃止=こだまの森営業廃止となるのではないか。

[60代の意見]

- ・冬の寒さをうたったキャンプ、星空観察
- ・今、近隣の県や市から他の木曾のスキー場より来場者があるのであれば廃止より継続して経営して欲しい。木祖村には観光資源が少ない中、がんばっていると思うので廃止するより継続してはどうか。
- ・観光産業での立村は無理だと思います。全体をコンパクトにして小さな村にする他に方法はないと思います。
- ・頂上からの眺望が良く、御岳山も見えることから散策できるような整備をする。
- ・今すぐ廃止するのが良いとは思わない。木祖村の自然(気候・風土)を生かした産業(農業、林業など)に力を入れるべき。都会からの移住を推進する。

- ・いろいろなアクティビティがあるはず、御岳のウィンターラリーのようなモトクロスとか、ダートトライアルとか、案はいくらでもある。スキー場で収益が減るなら他で補うか、それでもダメならやめた方がよい。
- ・別資料のとおり会社が運営しても赤字続き、今後の見通しや他のスキー場を見ても将来的に黒字見込みは不可能。いくら観光産業が大事と言えども赤字続きの産業は将来木祖村村民に大変な損害を与えることとなる。場内の一部を利用して太陽光発電、水力発電、また一部を利用して畜産の牧場設置等どうか。
- ・何も事業はしない。
- ・情報社会にあった方向で考えていく。
- ・新たな観光名所を作る。
- ・こだまの森の拡大と冬期レジャーを考える。
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティを創設し、冬季営業するなど、こだまの森に力を入れ雇用確保を図る。
- ・非常に難しい問題でもあり、生き残りを検討した方がよいのでは
- ・難しい問題だと思います。
- ・こだまの森の年間営業できる企画。
- ・スキー場を廃止した後にゲレンデを活用した事業を行う場合、借地料等の問題が発生するのでやめた方がよいと思う。
- ・スキー場に投資する金額を他の計画でスキー場以上に雇用を確保できる産業は考えられない。冬季の気象条件や地理的条件を生かした新たな産業振興は難しい。
- ・できるだけスキー場を廃止しないで運営を継続してほしい。
- ・そのままにしておいた方がよい。
- ・スキー場運営以外、他の産業では雇用創出はありえない。
- ・子ども大人も遊び場づくり挑戦できるように自然に親しむこと作ること
- ・キャンプ場
- ・スキー場としての活用以外の方法。通年利用できる事業
- ・一時的には運営できても中長期的には新事業はいきづまる
- ・ゲレンデを活用した他事業
- ・冬場の雇用創出がスキー場存続の目的ではないはず。特定の人達だけが雇用されている現状では他に考えなければならないはず。
- ・残念ながらスキー場と同規模の経済効果を生む政策はない
- ・こだまの森で冬期間、今はやりの冬キャンプとか冬のレクリエーション等に利用
- ・雇用創出のためのスキー場という観念から脱却しないと改革はできないと思います。
- ・こだまの森の利益を延ばし雇用も考えていく。例えば駐車料金の収入、音楽堂の使用法、バーベキュー関連として食材の調達、村の森林関係の職業、農業関係。
- ・スキー場への入込者数が減少している中で現在の村への経済的な波及効果も少なくなってきたと思われる。福祉施設等を中心とした新たな産業も視野に入れて検討する。
- ・こだまの森に屋内アスレチック等、雨天対応のレクリエーション施設、駐車料金の徴収等、検討したらどうか。
- ・木祖村でも何か一つは目玉となること。小さな子供たちが遊べる所は必要だと思います。
- ・資金のかからない何かを考える
- ・ゲレンデ利用出来る(パラグライダー)等
- ・自然をもっと活用できたらと思います
- ・寒さや雪を産業資源として捉える。(例:酒の雪中貯蔵等)
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティを創設し、冬季営業するなど、こだまの森に力を入れ雇用確保を図る。
- ・この質問をすること自体ナンセンス。
- ・別の産業を誘致してくるか、農業等の産業を違う視点から見直してみるのはいかがでしょうか。
- ・スキー場のゲレンデを活用した他の事業を展開する。アスレチック場、ウォータースライダー、マウンテンバイクコース
- ・事業を一本化し運営する。

- ・何も事業を作らないか、別の会社が事業でやる。
- ・夏のレジャーも模索する。
- ・施設整備を中止したエリアを、休止で対応するため、ゲレンデをマウンティングバイクで駆け下るコースを作ったり(コースの草刈り程度でできないかな)、人口灯のない場所で星空を見るキャンプ場等の利用。

〔70代以上の意見〕

- ・①誰にも「そんなく」せずにフラットな状態から思考することが第一である。②過去を無視するよりも、将来へ向けての施策を必死に考えるべき時代と言える。
- ・人口減、降雪減、従業員不足、過大投資など考えれば「廃止すべき」と思います。今までの100年と今後の100年を同一視すべきにあらず、勇気を持って断行すべき人材の出現を期する。
- ・廃止に数億円、雇用の損失等考えれば廃止を考えるより下記例にあるように考えるべきと思いますが、冬季の利用をスキー、スノボ、だけと限定的に考えない他の利用も考える事ができないか。
- ・こだまの森の運営を更に高める施策の検討をする。
- ・数年前に予告して従業員等に知らせる。その間にスキー場に係る関係者に他に就業先等を探す。(一般村民はスキー場に関係なく就業先を探してやる。)
- ・通年(12ヶ月)営業を考える。自転車(無雪期)モーターバイク等
- ・日照時間が長く、地形のよい箇所があれば太陽光発電の設置も考えられる。
- ・少子高齢化、地球温暖化で降雪量が見込めない。レジャーの多様化、終わりの見えない新型コロナ禍等によって世の中が変わってきている。多額の投資をしても将来性が見えない。
- ・難しい問題で簡単には答えが出ない。
- ・村内の内の活用による個人の食糧調達。(小規模で良い)村外に働きに行き、村内に住居を構える方式にし、冬季(寒さ)に対する遠距離通勤の負担の一部を補助し移住を進める。
- ・春から秋にかけて果樹の栽培。(高齢地のため品種は少ないと思うが)
- ・少子高齢化のためスキーをする人口が減ることは最大のネックになる。こだまの森へ力を入れスキーシーズンより春夏秋となるので通年働くことができると思う。
- ・村の産業振興や冬期間の仕事に100人以上働けることを考えるとスキー場とこだまの森との関係が重要だ。管区に支払いする経費について話し合いをすること。
- ・こだまの森で冬期間のアクティビティを創設し、冬期営業をするなどこだまの森で雇用の確保を図る。
- ・こだまの森でスキー場を活用した事業を。
- ・スキー場のゲレンデを活用した他の事業を展開する。
- ・伊那谷等を参考として企業誘致(大都市よりの)することを専門家(臨時役場職員として)により本気で検討する。(短期間による実施)
- ・冬期間の雇用をスキー場以外の産業に向けて行くのは理想であるが直ちにその施策が整うことができることではない。観光を含めて村の産業全般の問題であろう。新たな産業の創設も考慮すべき。
- ・働く場所が欲しい。企業体の誘致に努力する。ある程度の目安をつけてその企業にアタックしてみる。行動してみる。結果はともかく動いてみてだめだったとか、話は聞いていただいたとか何らかの結果報告が欲しい。そこで考える。
- ・今までと同じ産業振興や雇用を守ることは難しい。新たな方策も考えながら将来を築いてほしい。
- ・夏のみにする。
- ・こだまの森と合わせ通年利用する事ができないか。
- ・こだまの森に力を入れ雇用を確保する。最近のキャンプ人気に合わせて、アクティビティをセットで用意する。
- ・廃止を前提に話し合いがなされた場合は真剣な意見が出されると思う。
- ・観光資源はあるが(ダム、水木沢、縁結神社、鳥居峠等)収入に結び付かず維持管理に費用がかかっている気がするので一考を。

・定年制も設けて 70 歳くらいで辞めてもらう。丸山は 年者用。に必要ですので、どうしてもやるというなら規模を縮小してやること。丸山を中心に使う。絶対に無理は禁物。ケガをこうむりません。雇用は冬山作業を考えていく。村外にも出て働く覚悟も必要です。第三者委員や学者に現地を見てもらい意見をもらう。あわてずに。

・大きな働き場、企業の導入ができれば良いが無理と思う。勝手に足を運んでくれるお客様は大事(スキー客)。

・四季折々のお花が楽しめる花畑にする。

・木祖村の特産物”おいしい とうもろこし”を、村を上げてこぞって住民で組織化して作り、道の駅はじめ加工所を使い、コーンスープを作成したり販売する。村内での日当たりの良い遊休地、11 区ワラバラ地区又は 13 区の飯米原等を使用して作付けして下さい。スキー場の代わりとはいきませんが。

・木祖村の「食文化」を作って行こうではありませんか。おいしい高原野菜、財はもちろん、とうもろこし、豆類当、生鮮はもちろん加工所で加工できる物もたくさん(大量生産)、皆で力を合わせて作っていきたいと思いますが。

・家族でも話し合ってみました、何か木祖村での”食”の特産物がないでしょうか。例えばどこの地にも負けない”村のとうもろこし”味は最高！休耕地や牧草地等を耕して村の畜産の肥料を使い、村をあげて(もちろん住民も)作付けし、生のままではもちろん加工所もあるので”そのまんコーン”と名付けてコーンスープを作りたい。市場に出荷できる事を望みます。

・こだまの森をもう少し大きくし、冬でも宿泊できるようにし、ファミリースキー場を重点に考えるのはどうでしょうか。

・冬場の雇用がなくなり税収がなくなり村の活気もなくなる

・オートキャンプ場の運営

・土地は菅地区に返す(土地代不要)。菅で植林し山林にするか牛の放牧に使う(牛農家に貸し出す)

・自然に戻す。小さなゴルフ場、自転車コース

・スキー場に依存しない産業を模索する

村の産業振興、雇用創出はこれからの若い世代にとってとても重要な柱の一つとなる問題だと思います。若者が県外、村外で働かざるをえない現状を変える為に新たな産業康応の構築模索をお願いします。

・もうスキー場の時代は終わった、この村ばかりではない問題ではなからうか。第三セクターでのソーラーシステム等もやれば良いが山村なので牛の放牧等高原を活用して自然公園にしたら良い。

・室内アスレチックがあればどんな天候でも遊べ、木祖村外から来る方が増えるのではと思います。

・スキー以外の利用ができないか(1年中)。自然を楽しむ様な物がやれないか。特にお金をかけなくていいと思う。(日本中に色々出来て、お客が少なくて困っている所が多いから、特別な物は作らないで自然を楽しむ様なこと。)

・再度企業誘致等に力を入れ、働く場の確保が必要と思う

・雇用より村の将来のため

・暖冬になっていくし少子高齢化、先をしっかりと見つめて村政を！此の先を考え、しがらみをすてて決断してください。どんなに未練でもリフトを続けていては後々後悔します。村のために負の遺産を残すべきではないと思います。子孫のために。

・商工会の現状。店が休業状態＝買うものがない、高い、古い利用する気になれない＝伊那、塩尻、松本地域利用が常態化しており、その都度、燃料代金・消費者・時間がかかるけど、木祖村に住むデメリット(最大)だけど仕方がない。村は住宅・住居村として、外部者を優遇して定住を図る。産業誘致はグローバル化の中では海外とは違い無理。徹底した政策が望まれる。

・夏もスキー場ゲレンデを利用する。草スキー、段ボールスキー、ソリ、スキー場ゲレンデ歩き。廃止は考えない、あり得ない。なくなったモノを復活するにはとてつもないエネルギーを必要とする。何とか続ける方法を。

・スキー場の夏利用を考える。アウトドア志向に沿った事業を。

- ・昔と同じ事をやってもダメだと思う。人も気候もずいぶん変わっているので変える必要性有り。今火力発電がだめになりつつあるので、太陽光発電を利用したら良いかと。これからは観光産業依存をしない方がいい。
- ・綿花を植える。そば畑にする。
- ・オートキャンプ場にする(年中)。
- ・約 190 名の冬の雇用はないと思う。
- ・ゲレンデを活用事業。
- ・廃止には反対です。
- ・冬期はスキー場で働き、少しでも収入がある方が良いのではないかと。廃止は考えてない。
- ・廃止は考えてない。
- ・スキー人口が減っている現状。寒さを取り入れた冬の集客がなにかあるはず。
- ・雪の降り方が年々先細りこの先の自然現象を考えても厳しいの一言です。私達の心して物事を進める時、自然現象には決してさからえない事です。この事を一つ取って考えても、早々に廃止して次の事に物、お金、人を使うべきです。
- ・住みやすい村作りをして、村外に働きに出る。
- ・冬場の働く場所がなくなり、多くの人々が恥を知る事になる。
- ・こだまの森を年間開業して、スキー・マラソンコース・スキー場……。
- ・スキー場のゲレンデを活用した他の事業を展開する。第一ロマンズリフトのゲレンデを夏、テントを張るキャンプ場に使う。

〔年齢不明者の意見〕

- ・新たな企業誘致をし、雇用を確保する。(その際、無償の土地提供、税金の減額等)。こだまの森の冬営業する。(コテージ等)冬の歩くスキー振興、星空の観察、ため池によるワカサギ釣り
- ・廃止したからといって、他の産業振興や雇用創出に関連性はないと思う。「アクティビティ」
→ このような単語を使うのではなく日本語で書いたらどうか。アンケートとりまとめする人達も理解できているかどうか発表してもらいたい。
- ・新たな産業構造の構築を、指定管理方式で運営会社に委託。
- ・村の雇用の為に営業をしているのですか。雇用が 100 数十万といわれていますが、年金や夏季収入を得ている人が多くいると思う。スキー場・こだまの森で収入を得ている人は(主として)少ないと思う。こだまの森は営業期間が長いのでこちらを中心に運営し雇用を確保していく方が良いと思う。

3 グリーンシーズンの活用

〔10代の意見〕

- ・最近山登りがブームになっている。夏のスキー場の山登りができる環境づくり。丸山コースは子供向け、どんぐりコースが大人向け。宿での日本酒飲み比べ提供。私は飲めませんが、親戚が日本酒を求めて木祖村へ来ることがあるので
- ・一面花畑にしてリフトで眺める。星空観察のイベントを開催。
- ・キャンプ場にすればいいと思う。
- ・星空観測や、花を植えて観光地にする
- ・リフトを利用した観光業を開始する。第3リフト頂上からの眺めは冬でも十分素晴らしいので、夏場も行けるのなら行ってみたいと思う。
- ・こだまの森だけでなく、スキー場でもキャンプできるようにすべきだと思う。夏場のみグランピング場を作るといいと思う。
- ・具体的な活用方法はわからないが、食堂とかもあるので使わないのはもったいない気がする。

〔20代の意見〕

- ・ハイキングやアクティビティがあると良い
- ・夏場に活用することにより、冬だけでなく夏の魅力も増すと思う。
- ・スキー場の傾斜を利用してドライブインシアターをするのはどうでしょうか。星空のきれいさをもっとアピールして星空観察会を行うなど。
- ・部活の合宿で利用する学生たちが多いと思うので、それを対象とした対策をするとよいかも。
- ・せっかくゲレンデがあるのに使わないのはもったいない。一部コースだけを使って夏でも滑ることができるサマーゲレンデをするのもいいと思う。また、草をはやしっぱなしでなく、花を眺めたり自然を感じるように夏限定でカフェをやってみたら夏もお客さんが来てくれるようになると思う。
- ・丸山ゲレンデは傾斜も緩いため花畑やサイバーホイール等のアクティビティの場として活用可能であると思う。
- ・乳牛、和牛の放牧。
- ・すでに木曾町でも取り組みが始まっていると思うが、BBQ や星空を観察する etc。
- ・奥木曾湖、こだまの森など、夏のアクティビティは充実しているので、それらとセットにした星空ツアーなど、グリーンシーズンの使い方は考えられると思う。課題はあると思うが、施設が遊休資産となっている時期が長いほど損失が生まれているのでは(年の三分の1しか稼働しないのは勿体ない)
- ・ダウンヒルなど、サイクリングコースを整備する。サマーゲレンデを敷設する。
- ・グラススキーなど夏でも活用できる場所
- ・一年を通して利用できれば維持費をかける価値が高まると思う。
- ・リフトを動かし山頂の神社への参拝を行いやすくする。
- ・白馬でリフトに乗って百合の花を見るようなものがあつた。そのようなイベントを行うのはどうか。
- ・キャンプサイトの設置。
- ・キャンプ場などを作る。(スキー場に。) グランピングなど。若者に目を惹く(インスタ映え)施策を始める。
- ・流星群の時期などに頂上付近で天体観測会。KABE に様々な色の花を植えてモザイクアートにして写真映えするスポットにする。高低差を利用して花火大会(ゲレンデに寝ころんで、真横から)。
- ・村主催のイベントなどを企画し、県内・県外からの人を呼ぶ。こだまの森のように使えないか。
- ・近年はアウトドアへの関心が高まっているので利用できればと思うが良い案が思いつかない。熊の出没機会も増えていると思うのでリスクも大きいと感じる。

〔30代の意見〕

- ・子供連れで遊びに来られるところがとても少ない。松本からもすぐ来られるため、夏場も積極的に利用すべき。
- ・アクティビティ、キャンプ等で利用
- ・ドックラン、傾斜を利用したアクティビティ
- ・夏場でもスキー場を活用するためにアクティビティを取り入れて誘客に繋げてみてはどうか。例えばグラススキーや星空の観賞と言ったことを検討してみてはいかがでしょうか。
- ・キャンプやサバゲーで利用。
- ・近年アウトドア(キャンプなど)が流行しているので、(白馬など)夏場のスキー場を活用している所などに視察したりして学び、活用法を見出していただきたいと思います。
- ・マウンテンバイクのダウンヒルコース。キャンプ場。アクティビティイベントの場所提供(巨大滑り台とか)。
- ・サマーゲレンデ、パーク(スケボー、インライン)、マウンテンバイク、ゴルフ練習場、ランニング、トレッキングコース、いずれもダメ元ですが、今年から始まった木曽福島の夏期営業はどうか気になります。
- ・夏場通しては不可だと思う。特定の時期、期間に絞る方法。仮に活用したいと思っても具体的にどういう手続きを取ればいいのか分からない。活用できる条件(手続き、費用)を明確にすれば活用したい人や団体がでてくると思う。
- ・こだまの森のキャンプサイト(テント)が満員であると聞きました。少し離れてはいますが、スキー場の方でも張れたら良いのではないかと思います。夏の立ヶ峰にのぼりたい。近場でちよつとした登山もでき、あのキレイな景色を冬だけでなく夏も見たい。他のスキー場でもやっていますが、やぶはらも眺めが良いので「ハイジのブランコ」作ってほしい。
- ・人員確保が課題だとは感じつつも、さえぎるもののない大自然は有効活用できそうだと感じました。スタッフ常駐のアクティビティやサービスではなく、ドローン飛行練習場やスポーツ団体のトレーニング場など人員が少なくても(居なくても)できる取組をはじめてみるのも良い。
- ・福島ロープウェイのように、夏場も活用できるといいと思います。
- ・花火大会、サバゲーの会場、イチゴ栽培など。
- ・バーベキューやキャンプ場
- ・まずは、全国(世界)各地の視察や勉強が必要。スキー場だけにとらわれず活用内容により木祖村、木曽全体に対してどのような効果が出せるか、また、現在の木祖村観光課題をくづめた活用案を出さなくては意味がない
- ・花畑
- ・コストをあまりかけずに活用できれば良いと思う。スポーツのトレーニングに活用するとか。ドッグランがあればうれしい
- ・夏場でも観光客にきてもらえるような場、例えばリフトを利用し、絶景テラスを設置する、避暑地とし、家族やカップルでも利用できるのも一つの魅力でありいいと思います。
- ・グランピング
- ・そばをまいて、景観を良くすれば花の時期は写真を撮れる。
- ・木曽和牛の放牧、味の向上、草刈の負担軽減
- ・斜面利用した自転車やバイクのコースをやる。
- ・広大な土地を利用して夏場のトレッキングコースを整備して作ったり、高い所での星空観測を楽しむ場所として再生させる。
- ・昔は夏に合宿に来た大学生が言ってました。「なんだこのメシは」と。
- ・スキー場でもキャンプをすればいいかと思う。
- ・スキー場内事業の一本化、それと規模は縮小しスキー場以外の利用を検討する。夏期のキャンプサイトの整備などこだまの森の収容を促進する。新たな業態に変化するための費用は村で支出してよいと思うが、維持・継続、その場しのぎになる費用の支出は断固として反対。
- ・自転車用のオフロードコースなどに利用できないだろうか。ラジコンのコースなど。斜頸を利用したジップラインなどのアトラクション。
- ・丸山ゲレンデにグランピング施設をつくる。夏場もリフトを活用する。
- ・BBQ、星空、野菜収穫体験、木曽馬やヤギ等動物と触れ合。夏休み、子供連れをターゲットにしたイベント

- ・キャンプ場施設、アウトドアメーカーとの協力連携、廃シーズンこだまの森のキャンプ場がいっぱいなので、スキー場敷地も使えるように。
- ・キャンプ施設として利用する。
- ・オートキャンプ場として開放。パラグライダー・パラセーリング。新しくアクティビティができるようにする等。
- ・キャンプ場・フェス・グランピング・星空観察・スポーツ選手の合宿関係。
- ・お客は見込めるのか。見切り発車で行わないでほしい。
- ・スポーツ合宿誘致に力を入れる。
- ・トレッキング(アクセスがよくないとやらない)。パラグライダー。サイクリングコース化。プロジェクトマッピング、ゲーム・迷路。サバイバルゲーム。

〔40代の意見〕

- ・自然をいかして体験できるもの
- ・白馬の方ではグリーンシーズンにも力を入れている所もあるので少しずつバギーなど取り入れながら新しいことを増やせばいいと思う。
- ・夏期は涼しく良い気候なので、その時期の観光があればと思います。
- ・使用していない部分を活用することは良いことだが、投資額が少なくランニングコストが安価な方法があれば良いが。どこかのマネでは一手遅い。
- ・アトラクションで子どもも大人も遊べるスペース
- ・フェス、キャンプ、野外カフェ、夏場、スキー場を花畑にしてリフトから見たり。
- ・マウンテンバイクのコース等。
- ・伊那リゾートのキノコ王国のような使い方。
- ・キャンプ場として活用。ハイキング。
- ・それを考えるのが役場。
- ・年間約4ヶ月のリスト経営では施設がもったいないと思う。御岳山が見れる。マウンテンバイクやバギーなどのコース。
- ・夏場キャンプをしたい人が多くいるよう。山菜をとる体験をしたい人も多そう。
- ・センターハウス前キャンプ場。マウンテンバイク、トレッキング、トレイルラン。
- ・②を選択したが、夏場は維持管理が増えると思う。しかし、②を検討する必要性はあると思う。
- ・個別のキャンプ(テント等)場。立ヶ峰の頂上を開発して景色を売りとした観光を作る。
- ・植物園など。ふれあい動物園。
- ・別荘地としての活用。しらかば平に加えて立地としては好条件。区割り、賃貸料による安定した収入。別荘修繕、建築など地元業者の活用、活性化。
- ・ゴルフ場(ショートコースのみ)の運営。
- ・今後コロナはなくなる。人数制限で特別感のあるグランピング、キャンプ、星空ツアー。
- ・こだまの森からも近く、キャンプのお客さま向けにも何かやれたらよいのではないかと。(具体的なものは浮かんでいませんが)
- ・体育系の合宿。企業のリモートやテレワーク用の施設。
- ・頂上で気球を飛ばす。
- ・夏場は丸山のみキャンプ場として貸し、テントなどを個々で(お客さんが)張れるようにするのも良いと思う。その間ほのぼののハウスは使用できるようにする。
- ・音楽フェスタ、クラフト市、花祭りなど全国から募ってやれば良いと思う(年数回)
- ・子供の頃、夏のスキー場で蕨を取った記憶がある。山菜取りツアー体験など、こだまの森とセットで展開できれば良いと思う。もしくは、何もやらずに山の整備を有料でさせる。チェーンソー体験、草刈体験など
- ・オフロードバイクコース。キャンプスペース。
- ・こだまの森のキャンプやケビンを利用する観光客向けに、新たなアウトドア施設としてグラススキーやパラグライダーなどを整備する。星がきれいなのでイベントを企画する。
- ・今流行りのグランピングなどに活用する。
- ・他の地域で既にやっている事例を参考にする。
- ・キャンプ場、花を植えてもよいと思う

- ・こだまの森第2 キャンプ場として利用
- ・花畑
- ・阿智村のような星空ナイトツアー、カヌーや水木沢の森林セラピーと合わせたツアー
- ・いろいろなシーズンで活用できれば今後も継続できるのではと思います。
- ・キャンプエリアやアウトドアをメインとしたアトラクションや体験・マウンテンバイクパーク※いがやスキー場(のりくらBASE が参考になる)
- ・牛を放牧する。ほうぼくした牛の乳や赤身の牛肉は、食の安全面から考えてもこれから必ず注目される。
- ・キャンプ場の拡大。マウンテンバイクの貸出(こだまの森利用者にも)
- ・キャンプ場の拡大。モトクロスコースへの貸出。バイク・自転車・星を見る(冬季・夏季それぞれ)
- ・ただ遊ばせているのはもったいない、マウンテンバイク・モトクロスバイクコースとして活用する。
- ・何か花を植える
- ・テラスをつくる
- ・星空観測、花を植える
- ・こだまの森という夏場にぎわう場があるからこそ、活用すべき。人がくるのだから。大きくなくても小さく何かははじめればいい。
- ・スキー場を継続する場合はなにかしら活用検討できたらいいと思う
- ・こだまの森以外でのキャンプ場が欲しいと思います。とにかく宿泊ができないのがダメだと思います。
- ・キャンプ場などの利用。
- ・こだまの森だけでなくスキー場でキャンプ等ができるようにすれば良いと思う。冬だけではもったいない。活用の検討をした方が良くと思います。
- ・夏のアクティビティもあればと思いますが、こだまの森や奥木曾湖もあるので必要ないと思います。
- ・自転車、花壇、キャンプ場等。
- ・リフトを活用したキャンプ場
- ・自転車(マウンテンバイク)やトレッキング等
- ・人工芝で滑る。
- ・夏のシーズンは「こだまの森」のようにキャンプ場にすればよいと思います。公衆トイレもありますし、あとは水場を設置してあまりお金をかけなくてもやれると思います。「丸山ゲレンデだけでもよいと思います。」

[50 代の意見]

- ・オフロード競技場
- ・ワラビとか山菜を増やして入場料を徴収して採る楽しみをお客さんに味わってもらう。
- ・県外から帰省する子どもたち、孫たちが夏に遊べるネイチャー教室のようなもの
- ・花を植えウォーキングコースを作る。(リフト活用)マウンテンバイクなどのサイクリングコースを作る。モトクロスやトライアル場、バイクのイベント、ラリー、ダートトライアル、RV クロスカントリー場、車のイベントなど。
- ・白馬スキー場では冬場スキー場、夏場のアトラクションを計画して活性化しているので、そういうのもいいと思う。
- ・こだまの森のキャンプ場だけでは物足りない。オートキャンプ場、今、結構各地でグランピング etc も盛んになっているので夏場はそういう活用もありかなと思う。
- ・キャンプブームなのでキャンプ地として夏場は利用する。マウンテンバイクのレースなどを誘致する。ハイキングコースなどの活用。
- ・パラグライダー等。
- ・こだまの森といっしょになって考える。
- ・一流企業がリモートワークしてくれるような環境を整え、PRする。
- ・合宿の受け入れ。高知トレーニング場をつくる。

- ・マウンテンバイクや可能であれば、バギーのようなアクティビティを設ければ、夏期間も活用できるような気がします。 モーターバイクのモトクロスなども良いのでは。
- ・こだまの森との関連を探る。
- ・キャンプ場。トレッキング。スポーツのキャンプ地。
- ・もう何年も前に、他ではグリーンシーズンが逆転した(客数)と聞いたことがあるから。
- ・奥峰登山ツアー。バス回送して熊沢、幸沢、木曾福島スキー場でピックアップなど。国設第一にピスラボを導入するには、どのくらいの予算が必要なのだろう。少々安易かもしれませんが、1500 平テラスは作れないものか。キャンプ基地みたいなものがあると活用方法が広がる。木祖村の星空は阿智村に全く負けていないと思う。あとは活用や運用方法の問題では。やぶはらリフト夜間運行、1500 平で夜空を見るツアーは出来ないか。まずグリーンリゾート社員がやってみては。
- ・ゲレンデを活用した山の遊び場。マウンテンバイクコース、キャンプ、自然体験など
- ・雇用が生まれ、経営が成り立つ産業。ボランティア、楽生会等で運営可能な産業。
- ・スキー場内の道を利用・整備してハイキングコースをつくる。ゲレンデの一部を夏用のスキーができるようにしたらどうか。
- ・夏場の自然を活用した遊歩道みたいなものを整備して、立ヶ峰などへのハイキングを行えるようにする。若い人が集まりやすい何かがあれば雇用にもつながると思う。
- ・経済も共に回るのでしょうか。
- ・目玉商品を考える。
- ・お金をかけないで行う。特に村のお金
- ・季節ごとの景観を楽しめるような工夫。ゲレンデを花一面で覆いリフトで眺める。トウモロコシの収穫など。
- ・花を植える、動物の放牧、こだまの森と違った環境でのキャンプ場
- ・パラグライダー、自然園、グラススキー
- ・アウトドアの施設はとても人気なのでスキー場を利用しての活用を望みます
- ・5-10 月、子供向けアウトドア、若者向けアウトドア・アドベンチャーワールド、丸山ゲレンデ、花、夏そり、芸系、さつき、モトクロスバイク、動物ふれあい(ヤギ・牛・クマ)
- ・今、キャンプ人口が増加しているので、それに対する施設を増し営業すればいい。
- ・キャンプや音楽堂・そば打ち・ブルーベリーなど1日中行動できて、宿泊、入浴も充実できる。雪がすくなくて楽しめる、宿泊・入浴を考える。
- ・他のスキー場では、夏場は花畑を作ったりリフトに乗って散策する企画があつたりするので検討してみてもどうか。
- ・自転車ダウンヒル、自転車トライアル場に開放、キャンプ場として夏利用、遊歩道(木道)などを整備しハイキングが楽しめるようにする、コースをつくる。
- ・キャンプ場。山登り的に木道や遊歩道を整備する。
- ・スキー場で農業はできないものか。酪農も含めて。昔はスキー場でこっそり山菜も取りました。
- ・広大な土地を利用しない手はないと思うが、具体的に何ができるのかはわからない。季節限定のアクティビティなどがあればいいのですが、クロスカントリーコースを設置して、学生等の合宿でも誘致できれば。
- ・マウンテンバイク等
- ・白馬方面のスキー場では夏の利用をしています。やぶはらスキー場もアイデアしたい
- ・果樹園を作る。
- ・夏場のリフトの営業はできないものか。志賀高原、白馬などはやっているが、こだまの森のキャンパーをそのまま帰すのはもったいない。ランニングロードを整備する。リフトを活用してハイキングなど。
- ・イベント会社を作り、常にアクティブなイベントを開催する。今はアウトドアライフが人気と思う。
- ・マウンテンバイクとかモトクロス
- ・キャンプやアスレチック等、こだまの森と連携してやればよい。(自転車等)

- ・リフトを利用して景色を楽しむものなど。最近では多くのスキー場で夏場の観光利用が始まっているので、いろんな情報・やり方を参考にして、木祖村独自の何かができたらいいと思う。ネイチャーゲームや木を使った遊具、シンプルなアスレチック、アウトドアが楽しめる何か。
- ・キャンプ場。星空の観光業など。
- ・こだまの森に集中させた方が良い。
- ・今はスキー場を縮小した方が良くと思うから。
- ・センターハウスの年間利用。キャンプ場利用の人が寄れる場所。ものづくり・ワークショップ・おみやげになるものの体験施設。
- ・白馬岩岳にあるようなマウンテンバイクのコースとか、ゲレンデを花畑にした愛知県の茶臼山高原スキー場-群馬県たんばらのように夏場も観光施設として活用できるといいと思います。
- ・設備投資をあまり必要としないアクティビティの検討。グラススキー・トレッキング…人件費はかかりますが。

〔60代の意見〕

- ・高齢者でも気軽に参加できそうなイベント
- ・キャンプ設備を増やしたらよい(アウトドア系へ移行、冬期の使い道は要検討)
- ・こだまの森の利用客にスキー場での楽しいとりくみ紹介し体験してもらおう。(マウンテンバイクパークなどのコースを作り、こだまの森にキャンプしてもらって子どもから大人までが楽しめるものを考える。アイスクリーム、パン販売、こちらも会社方式で進められるか検討する。
- ・大がかりなキャンプ場の設営、マウンテンバイク用ロードコースなどの設営、ハイキングコースの設営
- ・他のスキー場では花や山菜など活用している。やぶはらも夏場利用できることを(キャンプ、星を見る会等)で収益を上げていければ良いと思う。
- ・他の地域のように雪が無くなってからの季節もスキー場を利用して他の事業をしてはどうか。
- ・夏に集客できる魅力はないと思います。
- ・今はやりのトレッキングのコースをつくって、人を呼び込んだらどうでしょうか。
- ・マウンテンバイクのコースを整備。レンタルバイク(こだまの森で行う)
- ・スキー場の駐車場は夏場オートキャンプ場として利用してはどうか。グランピングとかも、ゲレンデをマウンテンバイクで降りるダウンヒルコースとか。
- ・太陽光発電、将来性あり。奥峰沢利用による水力中規模発電。畜産振興のため、和牛牧場の新設。急傾斜地は地主に返還。
- ・具体的にはわかりませんが、アウトドアレジャーや吹奏楽・管弦楽部の合宿等
- ・ゲレンデに花を植え、散策が楽しめるコースを作る。阿智の星の見える里を参考にイベント開催。夏期間限定のグランピング施設の設置(こだまの森のキャンプ設備と棲み分けをした上で)。マウンテンバイクコース施設の整備。仮称ゲレンデマラソン(周回イメージ)イベントの開催。高原をイメージした限定スイーツの開発、販売。
- ・人を集めるとしたらやっぱり花でしょうか。「ネモフィラ、コキア(ホウキグサ)、ナデシコ、ジニア、クリスマスローズ、ハーブ類等々」
- ・モトクロスコースやスキー場からこだまの森までの新設、マウンテンバイクコース。
- ・四輪バギー。自転車林間コース、マウンテンバイクコース。
- ・ハイキングコース等を作りPR。ハングライダー等の導入。キャンプ場を作り自然体験等のPR。奥峰コース等のトレイルランコースの設置、大会。
- ・ハイキングコース(花や緑を楽しむ等)。自然を活かしたイベント。山菜取りコース。
- ・冬期以外の利用、今のところ具体的な考えはないが、知恵を出し合い、道を切り開いていければ。
- ・白馬方面のスキー場では、夏場ゴンドラリフトを利用して自然をアピールして誘客している。こだまの森や水木沢、ダムなどと連携した滞在型のプランをPRして観光に結びつけられないか。
- ・難しい問題だと思います。
- ・スキー場と峠までのトレッキングコース
- ・自然観察会や星空教室など
- ・放牧、山菜取りの利用しか考えられないので、収入面では薄いと思われる。

- ・バザーや子供から大人までが楽しめるイベントを考える。
- ・グラススキー場や、モトクロス場、スケートボードなどスキー以外でも活用できる物。通年出来る者を。廃止した以上のお金がかからない物を考える。
- ・こだまの森と一緒にできる活用方法を考える。
- ・夏場の活用といっても、今の経営状態では新たな設備投資は無理だと思う。
- ・こだまの森がキャンプ場になっているが、スキー場もキャンプ場として使用できるように整備する。例えばフリーWi-Fi等を整備する。
- ・こだまの森のレンタサイクル+スキー場のマウンテンバイク。コースの長さ、傾斜がよく、様々なコース設定ができると思います。県内は富士見パノラマリゾートや白馬岩岳MTB PARKしかない。東京オリンピックの正式競技で多くの人も観ていた。
- ・以前行った音楽フェスがあればいいと思う
- ・丸山を整備してキャンプ場にする、一部サマースキーにする
- ・昔牛や馬が放牧されていた
- ・夏期大学の合宿、IT関係会社のテレワークに貸し出す
- ・オフロードバイク、マウンテンバイク等の競技場、キャンプ場
- ・スキー場エリアすべてではなく一部エリアと対象に実施しその後エリア拡大
- ・リフトを使って高所に上り都会では味わえない自然を感じてもらう。山菜取りや山野草巡り、花畑
- ・何年も前からのキャンプブーム、こだまの森のキャンプ場を見てもわかることだと思う。スキー場のグリーンシーズンに試しに使わないのはなぜか。すでに出遅れていると思う。大々的にキャンプ施設を作らなくても場所があれば来る。まずは小さく始めればいいのか。
- ・パラグライダー、自然園
- ・木祖村の立地条件自然を生かした、アウトドア等の活用方法はどうでしょう。
- ・県内の他のスキー場のグリーンシーズンを活用した設備等で誘客のTVCMがながれているので他のスキー場の視察等言って藪原スキー場で活用できるものがあれば検討してみてもどうか。
- ・こだまの森と関連した観光利用を開発されたい
- ・夏はこだまの森、冬はスキー場とうまく労働力を通年で振り分けられている。新たに経費をかけて夏場に事業を始めることには反対である、むしろこだまの森事業に注力し拡大発展させるべきである
- ・合宿等、高知トレーニングに適しているのではと思う、子供たちの野外授業等に利用できればいいのでは、スポーツ系の合宿だけでなく文科系(合唱部・書道部・ブラスバンド等いろいろ)の合宿に誘致するとよい。
- ・冬以外の3シーズンの活用を検討することから始めることがよいと思います。こだまの森と一体化(土地整備をねん出)を明確に活用。
- ・お花畑にする・合宿に使ってもらう
- ・パラグライダー
- ・わらびや山菜などを収穫し、例えば道の駅での販売・加工などに結びつける。木祖村の木材を利用し、たきものを作る。
- ・若い人達がどういう考えを持っているか、これからの人の考えを知りたいと思う。
- ・ソロキャンプ、場内のモトクロス等
- ・標高1000mの涼しい気候を売りにした陸上施設、合宿場
- ・トライアスロンができるようにしてみたらどうか。
- ・夏場の大人が楽しめるアクティビティを始める。
- ・ハイキング。冬に向けて足腰をきたえ、トレーニングの場にしてほしい
- ・マウンテンバイクのコースを作りレース等やればいいのかと思う
- ・スキー場に限らず、こだまの森の冬場の活用を検討して欲しい。(厳寒体験等安全に配慮したコンテンツを用意する)
- ・世の中はどんどんデジタル化され便利になる一方でリスクやストレスも以前より多い世の中です。若い人たちはその中で自分に合った息抜きの方法を様々な情報の中から探します。スキーのように身支度から始まり準備が掛かりすぎるものは人気なくなるような気がします。スキーではなく何かほかに簡単に楽しめるものを展開していったらいいと思いますが。

- ・有るリフトを活用して空中散歩(一定の期間)良いと考えられる!
- ・マウンテンバイク、植物の研究など。
- ・MB(マウンテンバイク)のコースやウォーキングの整備。花畑づくり。
- ・マウンテンバイク、ツークライミング。
- ・スキー場の維持管理費を少しでも増やす為にリフトを動かし御岳山を望むようにしたらどうか。
- ・①オートキャンプ ②畑にし、ブランド野菜作り
- ・花を植える。
- ・キャンプ場にする。こだまの森には無い川が有る。
- ・木祖村をこえて他の成功事例を参考にして他の地域のアイデアマンの人にもアドバイスをいただいたらどうか。
- ・音楽イベント等の検討、環境問題を考慮して…。
- ・駐車場等を利用したオートキャンプ場
- ・こだまの森で精一杯。スキー場を活用するには新たな資本投資が必要だが見込はない。
- ・(②活用を検討すると良いだ)いろいろと費用がかかるのでは。
- ・丸山ゲレンデを一面お花畑にして観光資源としたらどうか。マウンテンバイクのコースをドンダよりさつきのリフト乗り場で儲け夏の利用を推進していく。
- ・夏場も活用できるのが一番良いが方法が思いつかない。広く意見を聞けばよいと思う。
- ・県内外のスキー場が夏場どのような活用をしているか参考にし、木祖村にあった方法を検討したらどうか。
- ・羊ややぎの放牧、チーズ作り、観光農場。木祖村全域に緩衝帯をつくり、熊よけか農作物の被害を防ぐ、除草効果。
- ・丸山ゲレンデの活用、テントの使用等。ゲレンデに花等植える。
- ・6の継続運営でも書いたが、ゲレンデをテントサイトして利用する。管理事務所を1つにする。こだまの森とスキー場を繋げる。
- ・スキー場のコースをパラグライダーなどの使用にできないか。マウンテンバイクのコースとしてもおもしろいと思う。立ヶ峰からとんだり、バイクでおりにこれたら最高だと思う。
- ・花を育てて観賞できるようにする。ササユリ・キキョウ・オシナエシなど、野に咲く花の群生したところを見たり、採ったりできるようにする。
- ・機械を使用しないハイキングコースにする。涼しさを満喫できる場所にする。
- ・あまり投資をしなくて済むものを検討。

[70代以上の意見]

- ・但し、可能であればアウトドア(キャンプ場)として、現代のニーズに対応すべきと思うが、一過性のブームならば、深追いすべきではない。
- ・高原の特性を生かせれば「4」シーズン全体を集客につなげられたら。
- ・多年草をまいたり、花を植えたり人が年中これるようにする。
- ・冬のシーズンだけでなく年中お客さんが来るように花とか親子で遊ぶ事ができる場所があると良い。お風呂があると良いと思います。
- ・遊歩道を造成し、山菜採取や花や紅葉を楽しむ場所とする。自然観賞と健康増進を図る。
- ・キャンプ場設ける。人口減少、はたして活用、利用する人が来るのか。夏場の利用はそれほど利用価値はないと思います。
- ・国道19号から見えるスキー場なら免に角も見えない山谷に入ってしまうと注目度は0にちかかわざわざ利用するのか。特殊な方々の利用となり効率は良くないと思います。
- ・キャンプ場にすると良いです。
- ・こだまの森と一体となりスポーツレーニングコースの整備を行ない、スポーツ団体合宿誘致を進めてゆく。
- ・廃止した方が良いと思うが、もし継続するなら活用を検討する必要有り。
- ・夏場の土地活用は冬場のスキーの利用に支障があってはならない。活用の方法は難しい問題で一般村民にはその必要を求められても困却している。活用の方法は種々あるとしても、採算性もどうなるのか等研究会を立ち上げてほしい。

- ・検討は大いに賛成。ただ立地条件・アクセス・投資費用などを考慮して簡単ではない。一時的には良いが2〜3年したらだめになったでは済まされない。こだまの森の施設・遊具場・レジャー施設など充実を図る。とりあえずボルダリングなど。
- ・今までのスキー場のように村の負担を大きくすべきでない。
- ・羊・ヤギの放牧は無理ですか。
- ・キャンプ、花畑、芝スキー、トレッキング、モトクロス、マウンテンバイク、バギー。いろいろと考えられるが、どれだけ集客できるか採算、利益が得られるか課題。
- ・人生、生きていくため良い案がうかばない。
- ・夏場はキャンプ場や子供の遊び場としての施設を更新しながら続けていけたら良いかなと思います。
- ・但し、やれば必ず成功するとは限らないので他所の前例をよく検討する必要がある。
- ・自治体に頼らない方法を関係者が考えていかなければ、実態の分からない村民の意見に流されることも起こりうる。
- ・富士見の様に夏場の花などがいいと思います。
- ・夏場の利用はあまりよくない。
- ・テント場所など。雪は降らなくなり気温も25年頃迄には1〜2℃上昇し暖かな冬になって来ることまちがいありません。今、昔あった処に山路(作業道)昔のようにスキー場雇用者にやってもらったらどうか(昔はみんな冬山で道づくりをやってきた)。
- ・子ども向けの天体(星)の体験できる場
- ・夏のサマースクールとして都市の高校生や大学生の学習をする場とすること。高冷地の山野自然はさわやかで涼しい風と共に学習に好適であるから…。
- ・各ゲレンデに種類の違ったお花を植えて散策コースとする(年配者のことを考えると一部のコースはリフトを残してリフトを活用してもらう)。
- ・夏場の利用法:オフロードバイクのコースを整備し、マウンテンバイク活用する。
- ・夏場に利用できるスキー場。マウンテンバイクが出来るとか。親子が遊べるソリとか。奥峰沢に植物(水芭蕉、ゆり、山野草)を植える(長期間かかるかもしれないが)。珍しい花を咲かすと人が集まってくると思う。観光に力を入れるとペンション、民宿も潤ってくると思う。富士見パノラマリフトのようにする。
- ・こだまの森と併せて小動物の動物園など検討したらどうか
- ・スキー場を存続するのならば夏場の活用を考えた方がいい(キャンプ場、花畑等)
- ・スキー人口が減っているので、夏場も利用して年間通してイベントなどできたらと思います。
- ・どのような活用策を考えるにせよ、費用対効果はマイナスしか思い浮かばない。
- ・マウンテンバイクを行う。
- ・冬以外のレジャーとして何かを考えたらと思います。
- ・山林に合うような花を植えるとよいと思います。畑にするのは大変だと思いますが、村の施設なので手入れなどの人員は全体にお願いする。
- ・他所のスキー場がしていることを参考にすればよいのでは。
- ・MTB、散策、ウォーキングコース作りをする
- ・クマ、サルなどが出にくいようにまずは草刈などを行い整備することが必要
- ・夏場の利用には費用が掛かる(管理が大変)
- ・展望台整備し気軽に行けるように(登れるように)
- ・立ヶ峰に展望台を作る、夏場にリフトを活用する
- ・こだまの森からスキー場までマウンテンバイクなど夏場も活用できる道づくり
- ・四季それぞれの工夫し春が遅い木祖村の自然や四季それぞれの自然
- ・マウンテンバイク等のスポーツ関係の活用を考えたら
- ・山菜取りツアー、キャンプ場
- ・こだまの森があるから必要なし
- ・キャンプ場の充実が必要である
- ・1500平のキャンプ場化(中央リフトを動かす)(但し、クマ対策、排水等投資がペイできるかわからない)
- ・山を大切に木曾五木の植林をする木曾の自然を生かし木と水の美しい村に空気のおいしい村にすることを望む、そして貸別荘地にして都会の人を呼び込む

- ・花を植える、多年草の物を植えて毎年同じ花が咲くといいと思う。
- ・現在、こだまの森がありまわりの方からもテント等をはり活発に活用している風影を見ます。そのこだまの森の中身を充実させる夏の活動として考える。他地域の内容参考にし、木祖村で出来るのであればやってほしい。(昔の話ですが国からの補助金で温泉施設を作らず巨大迷路を作ったのは判断まちがईだと思います。)
- ・高校、大学生の夏期講習
- ・こだまの森の夏場の利用客が増えているのでその人達が夏場スキー場を利用して楽しめるようなアクティビティやリフトを利用してのイベント、例えば星空観察、グラススキー高原山野草園、等ができればと思います。
- ・こだまの森、源流の里のイメージを強調して歩道コースなど利用で気楽にすごせる場が理想と思う。
- ・村の財政を確実に見ること
- ・あちこちを考えてもどのスキー場の変わり方を見ても成功していません。何をすることもお金がかかり今の世の中を見て少し考えて下さい、今の状態をしっかりと見つめ地に足をつけた地味な確実な村政を村長さんにくれぐれもお願いいたします。
- ・県内、他県にもスキー場はいっぱいあります。出張して意見等参考にし、勉強したら何か良い案が浮かぶかも。
- ・人口減少の中で、何処で成功したからの真似しても「時既に遅し」のスピード社会。スキー場存置場所は国道19号。幹線道より奥まっており、何かを仕掛けても観客、ギャラリー、利用者が見込めないのではないかと。設置費用の管理費・等々が増えその割に収支が合うものは難しいのでは。グリーンシーズン利用は考えない方がベター
- ・草スキー、ソリ、ハイキング、軽食、頂上登山(スキー場の一番上)リフト利用も可能。スノーモービルは草の上むりですか。湖上でよくあるボートでパラシュートを付けた人を引っ張る。スキー場の斜面を利用して流しそうめん。期間、日時しぼる。
- ・キャンプ、星空の利用。
- ・太陽誘電が必要になる。キャンプ場。高山植物を植えてリフトを動かし観光利用。
- ・リフトを動かす。農園を作る。
- ・アウトドア事業を取り入れたら如何でしょうか。
- ・スキー場のグリーンシーズンの活用は立地条件が悪く困難。冬はスキー場、夏は活動の豊富なこだまの森との連携がベターな活用スタイル。
- ・こだまの森と連携しながら、例えばマウンテンバイクの活用方法をさぐる。
- ・都会から涼を求める方に使用料を頂いて活用して頂く。テント他。
- ・ゲレンデを活用した産業を模索する。
- ・活用を検討すると良い。
- ・ゲレンデ活用、夏。マウンテンバイク・オートバイク、コースを作り他の事業をする。
- ・他のスキー場を参考に。
- ・リフトを利用して下りのみのマウンテンバイクコースをつくる。
- ・オフシーズンにも集客できるような設備投資。例えばゲレンデに花、グランピング等の実施。
- ・土が良ければお花畑でも良いが、やぶはらスキー場は石ころだらけ、土めが悪くて花は無理と思う。奥峰へのハイキングコースでも作ったらどうかな。
- ・キャンプ場
- ・自然の中の、しかも源流の強みを生かす。子供も大人も楽しめる事。
- ・こだまの森が他県や村外の人達に人気があります。アスレチックとか子供が身体を動かす一ランク上の遊具など考えたらいいなと思っています。あわてて安っぽい物を造らず長い目で見て良い物を造って欲しい。
- ・具体的には分からない。
- ・スキー場、こだまの森の連携(宿泊)
- ・たとえば、ゲレンデ上部に花を植えるとか。秋にはもみじ狩りなど。
- ・夏は気温が冷え込むので活用する。
- ・ロマンスリフトのゲレンデ、草を刈り、陸上の体づくり走るコースをつくる(マラソン)。丸山のてっぺんで月・星の観察する場所作る。

〔年齢不明の意見〕

夏場、スキーリフトを運行する。現スキー場には花等を植える。また、頂上展望する。頂上にある神社とは別に縁結神社の分社を立て若いカップル等を誘客する。

ゲレンデを自然形態に戻すことが最善と思われる。

体験型施設・ものづくり・アクティビティなど・オートキャンプ場

キャンピングカー用のキャンプ場へ。山菜取りを春ツアーして採ってもらう。ゲレンデ土地を貸し分譲して村外の人に畑として貸し出す。又は塩尻市へワイン用ぶどう畑として貸し出す(温暖化でぶどう畑が高地へ上がってきているため)。

他所での活用方法を調査し、それを参考にして意見を出し合えばよいと思う。

新たに投資はしない方がよい。他(他町村)でもやっているようだが有名な所は聞いたことがない。

〔10代の意見〕

- ・身近なスキー場として毎年利用できてありがたい。村民なのでシーズン券割引もあって利用しやすいので今後も続けてほしい。
- ・夏はこだまの森、冬はスキー場と年中楽しめるのがいいと思う。スキー場が自分の住んでいる村にあることにとても誇りに思う。これからもスキー場を活性化して村もスキー場も盛り上げればいいと思う。ゲレ食がとにかく美味しい！！
- ・村民の思い出として、できるかぎり残してほしい。
- ・比較的すずしいこの木祖村で中学校や小学校の時にスキーの授業があったのはとても良い事だと思いました。なので、これから少子高齢化を抑えるためにもスキー場を続けるなら他のスキー場と比べて木祖村にしかないようなまた来年ここに来たいと思えるような施設作りが必要だと思う。スキー場をやめるなら木祖村がこれから発展していくような何か新しい施設作りが必要だと思う。
- ・木祖村の代表の場となっているので、いいと思う。
- ・スキーブームが低下しているのは肌で感じている。現に私もスキーから離れてしまっている(小2~6はスキーに没頭していました)。行かなくなってしまった理由はリフト券の高さが一番。1回で3000~5000円は出費として痛すぎた。でも考えてみたら白馬のゴンドラのみは2000~3000円ほどでも行ってみたいと思う。でもスキーならいいやとやめてしまう。インパクトが少ないからだろうか。5000円出してでも行きたいと思える何かが必要と考える。先ほども書いたが話題性と話題を生む何かが必要。課題は思いつかないが、広げることは私にもできる。木祖で生まれ育ったので地元の良いところはもっと広げたいと思っている。同級生に声をかけてスキー場そして木祖村を広げていきたいと思っている。意見を取り入れるなら県外から来るであろう岐阜、愛知の学生の方々が良いと考える。スキーができない環境の若者の意見は発展につながらず。今後の益々の発展に期待しています。
- ・夏場も活用できれば良いと思った。その方法を見つけていくべき。
- ・古くさい(食堂や泊るところ)
- ・近くにあるから毎年行きやすい
- ・友達を呼べる場所なのでやめないでほしい。レンタルを一本化して種類などを選びやすくすればいいと思う。かわいいのやかっこいいの。学割で。
- ・もう少し魅力のあるスキー場になれば良いと思う
- ・スキー場があって損ということはおそらく自分の身の回りでは感じないと思うから、できれば残しておいて欲しいと思う。
- ・幅広い年代、層に向けたものではなく、ターゲットをしぼった事業を展開するべきと思う。実際やぶはらスキー場は若い年代のスノーボーダーに人気があると思う。理由としては、近隣スキー場にはない、大きなジャンプ台があるところだと友人の若いスノーボーダーが言っていた。そのために、やぶはらスキー場のスノーボーダーは質が高かったらしい。しかし、最近ではジャンプ台の数が減ったためスノーボーダーも減ったように感じる。友人も他に行くところがないため、やぶはらを利用しているが、自分で小さなジャンプ台を作り飛んでいると言っていた。そういったニーズに合わせてターゲットをしぼるといいのではないかと素人ながら思う。
- ・木祖村の財産、観光資源としてとても大切だと思う。残していきたい。
- ・木祖村の象徴の1つであるのと、木祖村を盛り上げていくには必要なところだと思う。
- ・木祖村の冬を代表する観光スポット。高いコースから見る景色がすごくきれい。
- ・簡単な発言になるけど、スキー場はなくなってほしくないです。生まれた時から身近にあり、これまで14年間ずっと使っています。他のスキー場とは違い、天然の雪を大半に使っているため雪質が良く、ゲレンデや頂上からの見晴らしがとても良いのはやぶはら高原スキー場が一番にほこれる点でもあると思います。大会などで別のスキー場にもよく行きますがやっぱり、やぶはら高原スキー場一番だと思います。ここまで自然の中でスポーツを楽しめる場というのはなかなかないと思うのでスキー場は無くなってほしくないです。このまま継続していく場合、確かに安全面などを考えながら続けていくのは費用などがかかります。でも、もし無くなった場合、木祖村のシンボルと言える物が無くなった。と考えても良いと思います。きつと、長く続けてきた

分老朽化などもあり、安全面、費用面で考えるとやめるといふ案も出てくるといふ思います。ですが、やぶはら高原スキー場は歴史のあるスキー場で村民の人からしても無くなってしまうのは悲しいと思ひます。なので、スキー場は継続してほしいです。

・そもそもスキーをしないので、スキー場にあまり関心を持っていません。

・やぶはら高原スキー場、大好きです。廃止しないよう村全体・村民全体で助けたいです。菅生産森林組合の貸付料はとて高いと思われるので検討してほしい。

・私が子どもの頃からあるものだからできれば、存続してほしい。

〔20代の意見〕

・スキー場は木祖村、木曾地域で主軸的な地位にあると思ひるので、活性化してほしい。

・スキー場だけでなく周辺のアクティビティや宿泊施設の魅力をもっとアピールして滞在日数を長くすると良いと思ひます。新たに宿泊施設を開く人を募集して支援を行うなど。こうしたアンケートを行うのはとて良いことだと思ひます。村外、県外、海外からの視点を取り入れることで更に良くなると思ひます。村外から人を呼ぶためには村外の人たちのニーズを知る必要があるからです。SNSでアンケートをとり、新たにビジネスを始める人を募集するのはどうでしょうか。すでにやっていたらすみません。その際は、村やスキー場積極的に協力していくことをアピールすると良いと思ひます。田舎でもビジネスを始めたい人の後押しにもなると思ひます。

・小さいころからほぼ毎年利用しており、他のスキー場に比べてアクセスの良さやゲレンデの質の良さはピカイチであると感じている。やぶはら高原スキー場のファンをさらに増やしていけば多少なりとも入込や売上げの増加につながると思ひます。

・外部からの印象・評価は高いと思ひます。(実際にそのような声はいただいております。)今以上の集客・収益向上の運営を考えていただきたいです。

・冬のシーズンといえはスキー場が木祖村は大きな存在だと考えます。現状維持のままだと赤字経営になりかねないので(こだまの森から補てんしていくのにも無理があると思ひ)規模縮小して経営してほしいと思ひます。夏にこだまの森へ来ていただいた方へDMを送付するなど(冬はスキー場へ来てもらえるよう)SNS今はインスタのハッシュタグ機能をうまく利用すればもっと集客が可能だと考えます。伝え方や写真の載せ方だけでも工夫ひとつで全くちがうと思ひます。色々書かせていただきましたが今後も応援しております。

・スノーボードができるのはやぶはらスキー場だけだと聞いたことがあるので、それは強みだと思ひます。

・「あり方検討」ということだが、存廃についての議論は尚早ではないか。まずは存続前提で運営形態など色々なパターンを検討し、それでも廃止が妥当ということであれば、スキー場の経済効果に相当するような産業やコンテンツを並行して考えていく必要があると思ひます。(広報であり方検討会の議論をみての感想)複数のスキー場を経営する外部の企業の参画もありうると思ひている。スケールメリットを生かした運営方法も再生の一助となるのでは。村政に関わることなので村民へのアンケートを実施したと思ひますが、村外からきてスキー場を利用する人へのアンケートは実施しないのか。顧客のニーズを分析したうえであり方の議論を進めるべきだと思ひます。アンケート実施の際、今回のように自由記述の設問が多いのであれば、フォームを活用してPC、スマホから意見できるようにしてほしい。

・私はまだスキー場を利用したことはありませんが、村民が納得できるような着地点を探してほしいと思ひました。

・私はスノーボードで毎年お世話になっています。やぶはらスキー場が大好きなのでこれからもすべりたいです。地元ですべれることは、しあわせです。

・草刈りが大変とよく聞くので、ヤギや馬を放牧するとよいと思ひました。実際にダムでヤギを放牧していたこともあったので、検討してほしいです。昨シーズンみたいに村民割引(シーズン券)をすることで年に1回くらいしか滑らなかつた人も何回もいくようになったと聞きました。今シーズンもぜひ続けてほしいです。

・小中学生のときにやったスキーは、すきーというスポーツを経験できたことはもちろん、冬を自然を体感できる機会でもあったため、スキー場が廃止されるとそのような機会も失われてしまうのが寂しい

・国道からも近く県外からのアクセスはとて良いところにあるが、コロナ禍の中では入場者の増加も見込めないのでは…しかし私自身も仕事でスキー場を訪れる程度なので、若者が「行き

たい！」と思えるような策が必要であると思う。食堂の一本化については初心者から上級者まで楽しめるコースがあるのに一か所しかないのは初心者にしても上級者にしてもつまらないものがあると思う。宿泊施設は、若者はホテルや車中泊がメインだとおもうが、新たに作っても昔からある民宿の経営がさらに難しくなるのではないかとも思う。スキー場廃止については何かスキー場を活かして別の事業を行うのならいいが、そのまま何年も放置では良くないと思う(クマ等野生動物がたくさんでそう)また、冬場はスキー場で働く方たち(食堂 etc)の新たな働き口が補償されるのか。ただ廃止です！次の働き口もありません！では今まで経営を頑張ってくれていた人に失礼。また子供達がスキーやソリなど冬ならではの遊びやスポーツができるのに最高の場所であるので、子供たちのためにも残してほしい。

・スキー場のある村として、幼いころから育ってきたので、今後もスキー場はのこしていってほしい。

・コースも良く利用しているのでぜひ継続していただきたい。

・お金をかけてももうからないことはやめるべき

・昔から利用させてもらっている思い出の地であるスキー場なので、将来の子ども達にもやぶはらスキー場で滑る気持ち良さ、楽しさを味わってほしいと強く思う。

・木祖村では有名なスポットであったため、今後も続いてほしいという気持ちがあるが、維持が難しいといった状況であれば、木祖村を盛り上げていくために廃止になってしまっても仕方がないと思う。

・自分はスキー、スノーボードをすることが好きなので、村内にスキー場があるのは行きやすくてとても便利なので続けてほしい。

・今までと変わらず、存続していけたら1番いいと思う。夏にどれだけ活用できるかが大切だと思う。

・スキー場は必要。自分たちも冬場はスキー場に来るお客さんに助けられて生活しているところがある。どっちにも転べないのなら、ちいさいことでもできることから…。維持費を少しずつでも減らしていく。舗装からやり始める(村には立派な仕事人がたくさんいる!)。早期オープンは大事。まず第一グレンデに人工降雪機を。クラウドファンディング(第二・第三よりもまず…)。年々、子どもたちがスキーに行く回数(学校でも)が減っている気がする。せっかく村にステキなスキー場があるのだから、子どもたちをもっと、雪とスキー場に触れ合わせることが大切だと思う。触れ合える「場」を作ってほしい。

・新規にお客を獲得するのが難しくなってきたと思う(道具の準備が大変すぎる、場所が遠いなど)。今はわざわざスキー場にこなくても、いくらでも楽しめる娯楽が増えた事も大きいと思う。一度スキー場にきたり、こんなに簡単に楽しめるのだと思ってもらったりする事で、新規のお客を獲得していければと思う。

・長年愛されているスキー場をいかしていかなければならない。若者を取り込めるようなスキー場にしなければならない。補助金などを使い効率よく更新していく必要がある。将来のためにもスキー場を産業の1つとして考えてほしい。

・村民として思い入れのある施設ではあるが、宣伝や施設、飲食の面で他のスキー場に劣る面があり、コロナ禍の現在ではこれ以上の集客は難しいので廃止が妥当と考える。その分、今まで以上に夏の観光に力を入れまだそれほど有名になっていないワーケーションやブレイジャーを長野の南部における拠点として力を入れ、コロナ禍という状況を追い風にして新規ユーザーを獲得していくべきであると考え。東京からのアクセスは難しいものの、中京圏からは車で3時間弱と近く、その距離でキャンプ・グランピングや子どもとの自然体験ができる施設は需要が高いと考える。これらは移住促進にもつながる可能性があり、木祖村にとって有益であると考え。途方もない労力が必要とはなるが、今後のことを考えると人口減少の食い止めには必要な施策であると考え。

【30代の意見】

・木祖村に住むようになり、スキー場まで近く、気楽に親子で楽しめるスキー場だと思います。スキー場を整備する方々も、夜中に大変な中されており、質も良いと聞きます。ただ、スキー場の周囲のお店(飲食やお土産)、道も悪い、せっかく県内外から来ているのにもったいないと思っています。村内の住民に優遇していただいてスキー場の周囲の環境整備も整えてほしいと思います。

・私は今まで、他県のスキー場を利用して結婚を機に木祖村へ引っ越してきました。昨年初めてシーズン券を購入させていただきました。利用させていただいて感じたことは、大きくないゲレンデなのに非常にたくさんお方が来ていて、やぶはらスキー場が大好きな方がたくさんいると思いました。また、1シーズン利用させていただいただけなので私の考えはどのように書いたら分かりませんが、まだ、木祖村にとっても、このスキー場は必要なのではないかと考えました。経営は厳しいかと思いますが、もう少し続けてほしいと思います。

・木祖村の売りの一つとして、ぜひ存続して行ってほしい。

・せっかく100年近く続いてきたスキー場をなくしてしまうのは惜しいと思います。特に木曽地域の中では健闘しているので、なくしてしまうのはもったいないと思います。ただ、資金面とこれからの地球温暖化のこともあるので冬だけではない夏場の利用法を考えて村全体で協力していかれたらと思います。

・子供のころから現在まで毎年楽しませてもらっている。無くなるのはさびしいもったいないので、ぜひ継続してもらいたい。

・スキー場が良くて移住したのでなんとか存続してほしいです。少なくとも木曽界隈では最後まで残ってほしいです。

・昨シーズンきそふくしまなどはスキー場のテーマソングを流したりキャラクターの着ぐるみが出てきたりと(それが集客につながったかは知らないけれど)やる気は伝わってきました。比べてやぶはらはどうだったかなあと。資金繰りの話ばかりでお客様に喜んでもらう視点が欠けていたんじゃないかなと思うところです。スキー場としてやりたいことがある。ではスキー場を存続させようという流れなら理解できますが、逆の流れ(存続ありき)だったら残す意味あるのかな。と疑問です。

・このようなアンケートはもう少し早い時期に行なってもよかったのではないかと思います。荷物を預けるロッカーが欲しい。有料で良いので託児施設がほしい。自分が木祖村で生まれて保育園でのそり大会、小中学校でのスキー教室とっても楽しかったです。大人になってからはスノーボードになりましたが、身近にすぐに通える施設があり自分なりに通いつめて上達しました！！でもスキーに戻りたくなり結局スキー板、ストック、ブーツ…購入し下手くそなりに今も両方いけます！身近な場でウィンタースポーツを楽しめるって良いと思います。アウトドアメーカーのサテライトショップとか、ほのぼのハウスの売店でのグッズを増やすとか…。

・生まれてから一度もスキーをしたことのない鹿児島出身の私が言うのははばかれますが、村内外でこんなにも親しまれ愛されているのだなと実感できるようなお話が多く、今後関りを持つことを嬉しく思います。

・昔は少しでも時間があれば、2本でも3本でも滑りに行ってきましたが、最近は仕事があり、親にもなった事でなかなか行けませんが、やはり近いというのは一番のメリットなので、ぜひ続けてほしいと思います。自分もそうですが、子供達にもソリやスキーなどウィンタースポーツに小さい頃から慣れ親しんでほしいと思います。

・以前、村外(塩尻市)に住んでいた頃は、リフト券は高いけど近いし、ゲレンデも滑りやすかったのでよく利用していました。村に住むようになってからは、まだ利用できていませんが、近くにスキー場があると子どもにもソリ遊びやウィンタースポーツを気軽に経験させる事ができ有難いです。具合的な策等提案できませんが、今後も継続してほしいと思っています。

・他県や村外から来る人の話を聞くと、お客様に丁寧な対応をしてくれなかったという意見があった。リフト券に対する確認も雑だと心配されたので、一度その辺を徹底してほしい。禁煙のスキー場ではないのかと聞かれた。リフト降り場の小屋で従業員が喫煙しているのを見たと言われたので、その辺りはどういう認識で営業しているか。

・小さいころから当たり前で使用していたが本当に幸せなこと。これからもできる限り子孫のため存続を願いたい。

・木祖村へ他市町村から人が来る唯一のアクティビティが「こだまの森」「スキー場」である。(他にダムのカヌーや鳥居峠、水木沢などもあるが周知率ではこちらのほうが優位である)簡単にやめるのではなく、継続していくために幹部(世代)交代して180°違った角度からの運営へ方向転換してほしい。色々ながらみや昔のしきたりなどとても多くよそから来た身としては、そんなことで足踏みしている時間がとてももったいないと思う。又、テナントが入りやすくなる運営、経営システムにしないとスキー場を続けるとしても店舗の誘致は難しいと思うし高すぎると思う。企業がスポンサーになりたくなる村づくりや土台作りを期待しています。

- ・村民の特典(リフト券の割引)、全体的に清潔感がない。食事も今一 SNS に載せられるようなおしゃれなグレデ飯があればよい。
- ・地元にはスキー場があるのは素晴らしいことだが、運営会社の困ったときは税金投入ありきという考え方がどうかと思う。あくまで民間会社なので売り上げや黒字につながる努力が必要だと思う。これでは株式会社と名乗っても公社と一緒に。既存事業を凍結してまで税金を投入する必要はない。
- ・冬期間、村民の雇用のためにスキー場を存続してほしいと思います。白馬や野沢温泉村などのスキー場にあるような名物グレ食の考案してほしいな…と思います。それがオールシーズン楽しめるのかは無理でしょうか。
- ・スキー場の夏の利用をぜひ考えてほしい、広くてピクニックとかできそうなので開放してもらえたら遊びに行きたい。
- ・幼い頃から、近くにスキー場があるのは便利で当たり前でうれしいことだったので、これからも続いて欲しいと思います。
- ・他のスキー場を利用したことがあるのですが、なかなか藪原スキー場のようにたくさんのコースがあるスキー場はありませんでした。藪原スキー場の魅力の一つはたくさんのコースがあることだと思います。初心者～上級者と幅広く利用できるスキー場はなかなかありません。その魅力を生かし、今後も藪原スキー場が継続していくことを願っています。
- ・まだ木祖村に来て日が浅いのですが、スキー場の現状、これからの運営、とても難しい問題だと思います。無知でとても恥ずかしいですが、もう少し関心を持って少しでも協力していけたらと思います。
- ・スキー場のために、下水をなしにされた、小木曾地区なので相応の扱いをスキー地にはしてほしい。
- ・地域住民、特に若い世代の楽しみになることが重要だと思う。それを支える上の世代の今までスキーやスノーボードを楽しんできた人たちの活躍も必要だと思う。子どもたちが楽しむ姿を見て、親、祖父母世代も元気をもらえるし、支えることが生きる活力になるだろうと思う。スキー場があることで当然、他の地域の人々との交流が増え、人口の増加のきっかけになる。温泉施設の併設はかなりのスキーヤー・スノーボーダーに需要があるはず。近距離である事は必須。こだまの森のキャンパーたちにも必ず需要がある。仮にこだまの森の冬季営業の場合も温泉はうれしい。(鉱泉はでていし、森林業(薪ボイラー)にも強い木祖村ではかなりの好循環だと思える。せせらぎの四季をゴッソリ移設など。)冬場のサウナなども需要はあるはず。当然、夏場でも。
- ・木祖村以外の方も訪れ、場所的にも来やすいと思うし、木祖村が活気づいてスキー場はあった方が良くと思います。幼児から誰でも楽しめる場所になれば良いと思います。
- ・子供の頃から慣れ親しんだスキー場がもし経営難で継続不可能となってしまったら、寂しい気持ちはあるが、無理をして続けていくよりも新たな利用価値を見いだせたらいいなと思いました。
- ・赤字なら早くやめるべき
- ・いつでも気軽に行けるのでぜひ続けてもらいたい！！ただムダを省いてください。削れるところはどんどん削ろう！！
- ・各店舗でのグレ食を村内の住民で投票をやってはどうか。
- ・村による公費支出は反対。雇用が確保されても村民一人一人に負担が強いられ、それは意味がない。確かにスキー場は村にとって大事な産業と雇用の場であったが、今後このままでは大きな負の財産となることが懸念される。スキー場を継続、存続のために、公費の投入は考えられない。奥木曾 GR が新規事業に着手する費用の支援は村として行なっていくべき。(村主導で産業振興事業を展開しないで欲しい) 菅生産の借地など、スキー場の負担になるものは、この機にすべて”なし”にして再度検討委員会等で検討していけばと思う。
- ・子供の頃から当たり前存在したやぶはらスキー場。無くなると考えるととても悲しい。しかし気候変動の影響は大きく、設備を更新できてもスキー場としての寿命は近いと思う。
- ・とても貴重な施設だと思うので長野県と言えば、となるほど盛り上がると思う。ナイターがあると昼間混んで諦めても夜に滑れるので嬉しい。村外から来る人としては住宅が少ない、土地もない。役場に相談しても空き家バンクか宮の森の分譲しかない。近隣の若い世代の移住先としてはかなりむずかしいので何とかしてほしい。

- ・学校のスキー教室、家族内でのスポーツ教育としてスキー場が身近にあった方が良いと思います。村の財源も限られる中ではありますが頑張ってもらいたいです。
- ・小中学生はスキー場でのスキーの授業があったので思い出になると思う。木祖村の強み(アピールポイント)だと思う。
- ・90年もの歴史あるやぶはら高原スキー場は村の宝だと思う。年々雪不足に悩まされながらも、村の若い方達で、降雪・圧雪し、素晴らしいコースを作ってくれていることはとても誇らしいことです。リフトなど機械の維持費が大変だとは思いますが、なんとかみんなで知恵を出し合ってスキー場を続けていってほしいです。一度やめてしまったらまた再開というのは無理だと思うので、何とか続けていく方法があればと思います。
- ・大事なモノであるというのは感じる。ただ、もっと活用していけば良いのにもったいなさも同時に感じます。せっかく施設、環境資源があるので「スキー場」としての運営だけでなく、年間通じて売り上げをあげられる施設として運営していったら、関わる人全員が幸せになれるのかなと思います。視点を変え、アイデアを形に！！事業としておもしろいと思います。
- ・村の財政が破綻する前に手を引こう。思い入れが強く手離しがたいことも分かるが、村民の何%の人がスキー場で働いていて村全体の収入の何%を占めていて、これからどのようなことが起こると予想されるのか。冬のみ働きに行ける人は限られている。終わりにする勇気も大切に惜しまれつつ勇退しよう。
- ・村に根付いた産業を失うことは、代わりになるものがなければ村自体が無くなる危険さえ潜んでいると思う。無くすのであれば代替りの産業が育ってから続けるにしても代わりになれる産業を育てておくことは重要であると思う。短気を見てお金がかかるからやめようだけはしてはいけない。
- ・家の近くにスキー場があるのは、とても良い環境だと思うので、これからは利用していきたいです。なので、運営を続けていってほしいです。

[40代の意見]

- ・ラジオ等でPRしていましたが、県内外から来られる為、なかなか行きたくても行けなかった。こだまの森もそうですが、コロナ禍の影響で県外から平気で来るので、地元の子供達、家族の憩いの場が奪われた気がしてがっかりした。悔しかったです。考えという事ではないですが、この2年強く思った気持ちを書かせてもらいました。スキー場もこだまの森も運営に対しては賛成です。維持してもらいたいです。
- ・今の若年層(20、30代)は昔に比べてレジャーに使うお金の比率が少なくなっていると思います。また価値観の多様化でブームの規模が小さい。白馬や妙高など、ブランディングができていく地域に比べてどうしても力負けしてしまうし、資金力もなく、今までどおりの継続は厳しいのではないかと。冬期、夏期合わせてニッチな需要を満たすようなレジャー、アクティビティ等を考え出し、発信できればと思う。木祖村にあるスキー場だからできる特別な体験が見つければ。
- ・資料を拝見しスキー場による経済波及効果や必要性についても概ね理解できた。継続するのであれば高額な投資が必要なことも理解できた。投資し継続した場合、将来木祖村にとって「お荷物」とならないか不安です。温暖化による雪不足やスキー人口そのものが増えるどころか減っていくのは誰もが予想していること。設備の投資(修繕)だけで解決するのでしょうか。運営会社の経営状況及び見通しは大丈夫なのでしょうか。継続すれば運営会社への責任も大きくなる。また、誰が先頭となって会社を運営していくのかも重要です。会社内部での後継者や経営状況は問題ないのか。単純に設備投資だけすれば問題が解決するとは思えません。その場しのぎの投資にならないよう決断をお願いしたい。4億5千万円で廃止できるのであれば安いのでは。(それもあっても)残せるものなら残してほしいとは誰もが考える事と思いますが、将来「お荷物」とならないようしっかりと判断し決断してください。
- ・冬場、子どももスキー場にはとてもお世話になっております。とのスキー場がなくなってしまうのはとても淋しいです。村にスキーができる環境はとても素晴らしいのに、もっと活かさない物かと思っていました。例えば学校の部活動に、スキー部があったり、もっとこの環境ならではの事は出来ない物かと思ったりします。
- ・最高レベルと言えるピステン技術の維持継承。リフトマンの村外からの呼び込み。秋や利用で定住化を促す。経費削減、効率化＝業務のマニュアル化。(例)村民申込書:A4、カラー → B5、モノクロ。全体的に利益を上げる意識が薄いのでは。営業活動や利益(収支)検討はされ

ている。バスツアーの呼び込みを増やす。リフト券の価格、コンビニの前売り券(-500円)は価値ある。廃止して一律値下げしては。(4,400円→4,000円)交換に並ぶので意味がない。若者はコストパフォーマンスを重視する。混雑時の誘導対応が遅いと感じる。

・スキー場は小さなころから慣れ親しんだ場所であり、できることなら経営してほしい。他に観光もこれといった場所がないため、民宿等も大変だと思う。

・言葉の節々から「赤字続きだがスキー場は閉鎖しない」と言ってる様に聞こえる。この村のエライ人達は、インシャルコストは気にしてもランニングコストは気にしない傾向にあるので、湯水の如く赤字を垂れ流して行けば良い。どうせ税金で賄うんだからね。

・近くにスキー場があるのはとても良い。しかし、スキーはお金がかかることもあり、やらない村民も多い。そうなると存続価値が下がる。継続するなら村民の多くに還元するような工夫を。例えば、用具の無償貸し出しなど。すぐできそうなことと言えば(スキーショップあずみ野がやっているような)年間(シーズン)レンタルをやってくれたら助かるし、スキー場まで行く手段をひまわり号など活用して工面してもらえたら休日スキーに行く子どもが増えそう。用具面以外でも事情でスキーが出来ない村民にも還元されるよう工夫をしなければ村のスキー場として大金をつぎ込むのは疑問がある。一番の難題は気候変動で、先を見据えた投資を望む。

・スキー場は観光資源であり、木祖村の基幹産業として大きい存在であるため、村の力を使って続けていくべき。それだけでなく、これからは木祖村の文化としてスキーを捉えていくべきである。保育園、小中学生にはシーズン券を配り、スキー教室の回数も増やす。小学校に上がるまでに全員スキーが滑れるように。中学卒業するまでに全員1級を取得すると目標を掲げる。そしてスキー場で働く事、スキー場がある木祖村を誇れる大人になってもらいたい。スキー場関係者だけでなく、村民全体がスキー場を持つ木祖村を愛せるように文化になるようにしていく必要があると思う。もうすぐ100年という県内でも指折りのやぶはら高原スキー場を絶やしてはいけない。

・私はこのスキー場で育ってききましたので、出来れば長く続いてほしいと願っています。しかし、維持・管理・雇用と考えると今の村の状態(特長がない、老人が多い、若者の声はあまり届かない(様に思う)特に料理にも特長なし)ではお客さんの方が目や舌がこえている今の時代ではなかなか難しいかな。と思っています。ですので、古きを大切にしながら新しい事・物を取り入れながら続いていって欲しいものです。

・必要だと思っています。(スキー場利用頻度⑤その他 [年1回食堂に食べに行く。テイクアウト2回した。(お弁当)])

・地球温暖化の影響で厳しい状況が続いていますがスキー場を継続できたらいいと思います。
・生まれた時から毎年利用する地元の重要な観光の一つであり、ぜひ存続していく方向で検討してほしい。立地、日照など申し分なくこのコロナ禍中で行動が限られる中、屋外スポーツとして(感染リスクが少なく)好条件。スタッフの皆さんが充分宣伝していただいているのは承知のうえでもっとアピールしていただきたい。ゲレンデ・食堂他、本当最高のスキー場と思っています。これからも頑張ってください。応援しています。

・やぶはらスキー場のファンの方はたくさんいると思います。村外の方々からは、毎年行くのが楽しみという声をたくさん聞きますので、出来れば運営をしていただければと思います。

・今シーズン20年ぶりにスキー場を利用させていただきました。土・日曜日、道路にあふれるほどの車にびっくりしました。(コロナの影響で県外ナンバーは少ないと思ったのですが…)食堂で休憩していると、まわりの会話から「先週末ときは～」など、このシーズンでも何度か通っている人もいるんだなあと少しおどろきました。利用者からすれば、運営するにあたって、厳しいことなど、なかなかわからないこともあると思います。(廃止するのもお金がかかりますし。)もっと、村外へも(県外にも)運営状況を理解していただき、クラウドファンディングなどの資金集めも検討すればいいかなと思います。せっかくの歴史あるスキー場、なくなってしまうのはとても残念に思います。

・雇用の面で重要だと考えている。ぜひ継続してほしいです。

・スキー場はあった方が良くと思う。しかし維持する為や雇用のために村からの援助や補助を出す事はないと思う。今までのスキー場経営の中から出た利益のプールが村に残っているとすれば、スキー場へ(スキー場運営側)渡す事をすれば良いと思う。それらの事や運営努力をした上で、継続不可能であれば廃止となっても仕方ない事だと考えます。

・この度は村民が意見を出しやすい取り組みをしていただきありがとうございます。非常に難しい問題ではありますが、スキー場関係者でない立場から自由な意見を書かせていただきます。まず、配布いただいた資料を拝見し一番思った部分としましては、雪不足、スキー人口の減少、設備の老朽化など様々な問題がある中で、やはり運営をして行く中で莫大な費用がかかるということです。多くの関係者の皆様に日頃のご尽力により現状のような経営状況ではありますが、今後スキー場に費用をかけていく中で果たしてそれを回収することができるのか。村民が3,000人を下回り、今後益々人口の減少が確実な本村において、5億、7億という莫大な費用を投資して、果たして10年、20年後にスキー場運営における人材確保が可能かどうかも考えさせられます。莫大な村の財源を使う以上、一村民として簡単に「使ってください」とは言える金額ではありません。経営上、売上は意味がなく、どれだけ利益を生み出すかが重要である以上、利益を出すことが難しいのであればスキー場の閉鎖も視野に入れて議論していく必要があると思います。また一方で、可能性の部分としましては、関係者の皆様のご尽力の賜物で木曾郡内におけるスキー場の中での入場者数が1番ということで、現在のスキー業界を取り巻く環境の中では素晴らしい結果です。スキー人口減少。それに伴うスキー場の閉鎖。長野県はもちろん、日本全国でもこの流れは変わることはないでしょうから、非常に厳しい現在の状況を乗り越えた場合、優秀な経営をしているスキー場だけが利を得る可能性もあります。やぶはら高原スキー場が経営を続けていくのであれば、ここを示すしかないと思います。そうした中で既に様々な取り組みをされていると思われそうですがやはりそれには、固定費、変動費を抑え地道な経営をして行くことが重要だと思います。内部の状況を知らないことをご了承いただいた上で、下記のような内容を例として挙げさせていただきます。スキー場の期間を短くする。(例:12月25日頃から3月の第1日曜日までなど)雪不足というように資料にも書かれていますが、今後益々影響はあるかと思しますので、期間を短くし、人件費や電気代、ゲレンデやリフトなどの維持費の削減に努める。ただこれはあくまで3月の収支が収入<支出の場合。3月営業することで利益が出ているのであれば現状維持。駐車場の削減、スキー場駐車場への導線の変更。スキー客の減少は明らかなため、必要ない駐車場は閉鎖。既にシーズンを通してほとんど使われていない駐車場もあると思いますが、土地の返却、そのほかの利用方法の模索。そうした中で、メインとなる駐車場のみ大きな費用をかけずに利用上問題ない程度で修繕を続けて行く。村内には既にリタイヤされている方で技術を持っている方が多くいると思うので、そういう方にシーズン外で少しずつ修繕してもらうなど。駐車場への導線の変更というのは、蓼原スキー場はかなり上の方まで上がっていきけると思いますが、そこまでに道が二手に別れるなどしていると思います。それを一本のみ利用いただくことで、道路の老朽化を少しでも抑えることができる、またその分のメインの道への維持管理を集中させやすいのでは。設備投資の優先順位として、上記のような取り組みも大きな設備投資をするとそれだけで経営難になるリスクがあります。お客さんの安全を確保する上で必要なことは絶対として、費用対効果を考えて優先順位をつけながら少しずつ改修改善を進める。一方で、スキー場関連の会社も非常に厳しいと思われます。さつきリフトの部品が手に入らないということが、資料にも書かれていますが、それは今後も起こり得ることです。リフトを変えても何年後かに同じ状況を繰り返すのであれば、これも非常に厳しい状況だと思います。土地について、スキー場の土地を借りる上での金額は何とかならない物でしょうか。様々な関係者のご理解ご尽力があるとは重々承知の上、やはり不動産、土地を借りている以上金額が抑えられることは重要です。1990年代のような収入がない以上、この固定費はかなり大きいのではと思います。スキー場の存続を考える上でも大きな部分であると考えます。ここまで思いついたことを書かせていただきましたが、生まれた頃からある蓼原スキー場にはこれからも身近にあってほしいという気持ちは変わりません。大きなスキー場にはない特色を持った食堂。ゲレンデの品質。こういう大きなスキー場にはない個性は蓼原スキー場の魅力です。集客方法など様々な課題はあると思いますが、借金をせずいまは地道に営業を続けながら、チャンスが来た時にしっかり投資できる経営を目指して頂きたいと思っております。以上勝手に書かせていただきましたが、議論の対象になるようなキッカケとなれば幸いです。

・スキー場へのアクセスの良さが抜群です。村内道路の除雪もよくて、雪道に不慣れでも安心して行けます。白馬のような巨大スキー場でなく、昔ながらのスキー場の良さがあります。朝食も手作りですごくおいしいです！「近い」「安い」のがやぶはらの魅力です。近隣民宿も高齢化がすすんでいるでしょうし、元々滞在型ではないので、車中泊や自炊派の利便性を良くした

- り、こだまの森の冬期利用(コテージ等)をして、宿泊ニーズに応えても良いと思います。※夜、食事できる所がない。 保育園児無料もとてもありがたいです。対象を郡内に広げて保護者の利用を促進しては。ファミリーゲレンデに少し遊具があってもいいです。
- ・冬の経営がむずかしいのであれば、春～秋にかけて集客できるイベントを何か開催すればいいと思います。ただ放置するのはもったいないと思います。
 - ・利用はしていませんが、大事だと思うので続けて行ってもらいたいです。
 - ・スキー場は木祖村にとって大事な存在だと思うので何とか続けていって頂きたいと思います。
 - ・スキーはやらなくなってしまったが、スキー場は残ってほしい気持ちはある。しかし、今のままでは衰退していくだろうし、赤字では続けてはいけない。村外の応援も最初のうちはなんとかなると思うが継続は厳しいと思う。考えれば考えるほど答えは出ません。すみません
 - ・小さな頃からスキー場が近くにあり、スキーやスノーボードを楽しんできたので、施設が無くなると考えるととても寂しさを覚えます。雇用の大きな部分を担っているので、村民が納得できる方法で今後の運営を検討すべきだと思います。
 - ・利用客が減少してきているので、スキー場がなくてもいいと思います。
 - ・道路が狭くでこぼこして走りづらい。駐車場が点在してるので路上駐車もたくさんあり走りづらい。子供のころから慣れ親しんでおり、今は子供が毎週通っている。愛情があるのでこのまま運営してほしい。
 - ・郡内、松本、伊那のスキー場とコラボする。リフト共通券やポイント制度
 - ・降るかどうかわからない雪に頼るよりも春から秋をメインに考えられるような形になるとよい。星を見るツアーやグランピング、コンサート、トレッキング山野草ツアーなど。なんとなく冬よりも春から秋のほうが楽しめることが多いと思う。なかなか大変な改革だと思うがより良い木祖村になるよう
 - ・村民の無料スキー貸し出しとシーズン券半額
 - ・今年のような村民割引を今後もやってほしい
 - ・子どもが小さな頃から気軽にそりやスキーを楽しむことができるともありがたいです。
 - ・近くにスキー場があることは、とてもありがたく、子供と一緒に冬のスポーツを楽しんだり、良い経験が、継続的にできる良い環境だと思っています。スキー場を継続する方向で、ぜひ新しい様々な良い意見を取り入れていただきたい
 - ・グリーンシーズンに力を入れた方がよい。阿智村の星空などの取り組みは参考になる。
 - ・あまり感心がない。
 - ・村に頼りっきりの経営にはならないように！
 - ・この木祖村で育って、スキー場にはとても愛着がある。大人になってなかなか行く機会は減ってきているが、今度は自分の子どもたちの冬の楽しみになってきている。また、知人・友人からやぶはらスキー場が好きだと聞くととてもうれしい。そんなスキー場がなくなってしまうのは単純にさびしいと思う地元民は大勢居ると思う。長年スキー場を支えてくれた方々が守ってくれたこともあると思いますが、少し視点や視野を変えて、新しい方向に進んでいくことも良いと思う。もちろんスキー場は存続しながら。【村内に多種多様な知恵や技術を持った方々がいると思うので、大いに活用して、皆で協力して支えられたら良いと思う。】
 - ・スキー場に関係ないと思ってる人でも回り回って少なからず利益を受けてると思う。
 - ・地代が高いと良く聞かすが、今の金額が一般的な金額なのか知りたい。木祖村の数少ない特色の一つがスキー場だと思っているのでなるべくなら続けてほしい。
 - ・子供もスキージュニアに入り。スキーを楽しんでいるので、なくさないでほしい。夏もキャンプ場として利用すると良い。ほしもきれいなので活用すれば良い。アルペンのように頑張っている店舗もあるので応援したい。でも色々問題もあるし大変だともおもいますが、スキー場の前に中学校のプールを直すなど子供達の環境を整えてください。
 - ・冬場の仕事場として大切と思うが、経営内容をもっと考えていかなければ今後の継続は難しいと思う。
 - ・スキー人口の減少は止められないと思いますが、その割にスキー場の数が減っていないので、苦しい経営が続くと思います。夏場にもっと収入を得る(スキー場の運営会社が)方法を考えた方がよいかもしれません。
 - ・無理をして継続しないでいいと思います。

・子供達がスキー教室に行ったり、ジュニアスキーでスキーを教えてもらったりしています。小さい子と一緒にいっても村民にとってはとても助かるサービスもあり、助かっている部分もたくさんあります。できれば続けてもらいたいですが、現状で運営が難しいのであれば、規模を縮小するしかないのでは。と思います。ですが、続けることで村民の負担が増えることは望みません。

・経営が厳しいなら中止すればいい。観光をもっといろいろ考えればと思います。全員がスキーをやるわけじゃない。

・正直理想は今のスキー場規模が維持できたら良いですが、スキー人口の減少や気象状況の変化に伴いスキー場規模の縮小等が必要になってしまうのかと感じた。各コースが素晴らしい事は理解しているつもりであえて数年様子見でどこかコースを閉鎖したら維持費がどうなるのかも気になった。気象による影響については今決断できるかというとても難しいと感じた。

・スキー場。何もなければシーズンであっても1回も出向いたりしません。どうしたら足を運べるか…。キッズエリアを拡大するかレストハウスのメニュー見直し、村民スキーリフト券無料(回数限定)レンタル半額…。今までもやってきたかと思いますが冬場だけでは厳しいのなら夏場の営業を考えてみてはいかがですか。まずはやってみる。考えているだけではダメな気がします。他のスキー場、特に最近はおくまスキー場が新しい事をはじめるとも魅力的だと感じます。村で考ええないのなら外部から知恵をもらうのも良いと思います。古いものを大事にすることも必要ですが、どんどん新しいことを入れていかないと。何もなくなると何も無いから良いって事もあるかもしれません。無理に何かを建てるとかではなく…とりあえずやっぱりキャンプくらいはできそうかな。その次は…その次は…と長い時間をかけてやれば良いと思います。

・冬のスポーツとして地元でスキー場があるというのは、近い子どももスキーをやっているのが便利です。時代のニーズ、少子化など昔とは違う現代ですが、スキー場はあってほしいと思います。

・①今までの経営理念では、どんな施策を講じてもだめ。②「やぶはら高原スキー場あり方検討会」何拾回やっても無駄。特に議員の方々の意見など時間と経費の無駄。③長い間の経営者「ぬるま湯」に浸かっている。「その場かぎり」の経営者(なんとかなる、赤字になれば村が補てんしてくれる「おんぶにだっこ」…資本金を喰うようではだめ。④他のスキー場の経営者は気候による雪不足。若い人達のスキー離れ。設備の改善。経営の改善。当スキー場より早めの対策を取っている。⑤現状では行くも苦難、戻るも苦難。「いずれにしても税金が頼り」村当局の重役衆に期待。

・やぶはらスキー場＝木祖村はとても歴史があり、切っても切れないもの。経営は温暖化、雪不足、コロナ外出規制など大変かとは思いますが、続けて頂きたい。SNSなどで朝・昼のゲレンデ状況を伝えたり、来るお客様がやぶはらは行きやすいと思える情報発信。(今でもかなり助かっていますが)今の情報化社会をうまく利用して(アプリの利用など)。希望は初心者向けのパーク(けがをしない様な)があればうれしいです。ほとんどがある程度のレベルのパークのスキー場ばかり。雪に埋もれているくらいアイテムがあると練習出来て良いなと思います。・平日の1日券購入特典でコーヒーチケット配布とか。やぶはらスキー場の名物の漬物をプレゼントとか。なるべくレストランに入るように。数回来場で500円の金券として使える…など。(食事・リフト券・レンタルなど…あとはアプリで回数管理、ペイペイの利用など。)

・子供の頃からお世話になっており、近年では子供と一緒に楽しんでいる。施設の老朽化等様々な問題があるみたいですが、今後もなんとか持続の方向でがんばっていただきたい。

・子供の頃から地元でスキー場があることがうれしかった。現在は子供がスキーをやるようになり、シーズン中はほぼ毎週お世話になってます!!初心者～上級者まで楽しめます。シーズン券も家族で買ってます。ずっと愛されるやぶはらスキー場でいてほしいです。コロナ禍でイベントも少なめですが…週末はナイターとか営業できませんか。

・リフト経営だけでなく、食堂・レストハウス・民宿等、経営のスリム化、統合により施設の維持費を削減していく必要あり。ある程度、村税の投入は仕方ないと思うが、村民への還元(メリット)も考えてほしい。こだまの森の冬利用で収益増の工夫してほしい。(冬キャンなど異日常の創出)

・地域の貴重な観光資源として、継続・再生を望みますが、近年の気候をはじめ、様々な問題をクリアする施策を尋ねられてもわからないというのが正直なところ。木祖村ならではの資

源を活用した新しい取り組みが必要になる。インターネット・SNSを利用し広く魅力を訴求できないものでしょうか…。

- ・一年を通して利用できる施設、事業を考える。
- ・できる限り残していきたい
- ・木祖村にスキー場があることは素晴らしいことだと思います。経営的に難しいなら廃止するという選択も一つの方法だと思います。
- ・子供から大人まで楽しめるウィンタースポーツの場が近くにあって良かった方が良いので続けてほしい。
- ・スキー人口が減少し、雪が少なるなどスキー場を取り巻く環境は厳しさを増している。今後やぶはら高原スキー場が生き残るためには大規模な設備投資と近隣のスキー場の廃止が進む事が条件となる。現状の競争力を維持したままスキー場を存続していく為には行政が主体とならなければ活用できない補助金や借入制度など多方面での検討が必要であり村の覚悟を持った支援を期待したい。スキー場ならではの圧倒的な自然の中でのスポーツであり、世界中に愛好者が溢れ、冬の季節における自然体験として今後はさらにその価値が高まっていくものと考えられる。やぶはら高原スキー場は近隣の他のスキー場と比較してもアクセス・ゲレンデ規模・コースの多様性・ゲレンデの整備力の高さなどあらゆる面で競争力があり、生き残るべきスキー場であると考えます。また、村で育った子どもたちにとっては物心つく前からスキーに親しみジュニアスキークラブには60人を超える子どもたちが在籍するなどスキーに親しむ子どもたちはこの地域の特色といっても過言ではなくスキー場の存続と更なる発展を期待したい。
- ・村にとっても自分の立場にとっても、重要な経済資源だとは思いますが、村民の協力を得られないのであれば、村外の企業に協力してもらい、存続してもらいたい。
- ・スキー場は木祖村にとってどれだけ大切なものなのか村民の方にもう一度かんがえていただきたいです。他県から見て木祖村の有名どころといえば…やぶはらスキー場・こだまの森・味噌川ダム・水木沢天然林…。そのうちのスキー場がなくなったら木祖村の特色がまた一つきえてしまうと思います。雇用の場所としてもとても大切です、スキー場を存続してもらうためには、これからは村全員で考えささえていかなければならないと思います。歴史あるやぶはら高原スキー場を後世まで大切にしていかなければならないと思います。菅生産森林組合の貸付料・支払料は異常に高いです！！バブルの好景気のときとかわらぬ金額は、この今のコロナの不景気の時代にあっていない！！スキー場存続のためにももっとさげてください。よろしく願います！！

【50代の意見】

- ・スキー産業の将来性や気候変動を的確に判断する必要があると思います。そのうえで持続可能な産業として今後も発展してほしいです。
- ・3の意見 数年前まで利用していたが子供が大きくなり利用なくなりました。
- ・村民が愛着を持ち続けられる様な、道の駅の様な拠点になることを期待しています。役場等の行政が企業経営に携わることには限界があり時代の推移に的確に反応するためには村外の経営戦略も積極的に取り入れることが重要と考えます。しかし、スキー産業に関わってきた地元関係者もそれなりに持論やプライドもあると思うので、最終的には既得権や経営責任者が腹を切るしかないと思います。一方、ネームバリューで盤石とされていた白馬地区でも雲上レストランやMTB等のスポーツアクティビティ、ベネッセ等の大手企業と連携して幾つかのグリーンズメニューを構築しています。利用者のニーズを敏感に捉え、木祖村らしさを残しつつ、産官学による公開討論会や様々なチャレンジを試みながら蘆原スキー場の行く末を模索していくしかないと思っています。
- ・(木祖村に転入してきた立場です。)やぶはら高原スキー場のおかげで子どもたちがスキーに親しみ仲間に出会い、親子の交流の場でもありました。木曾の他地域にスキー場の中でも特に活気があり、多くの人々に愛されていると感じていました。ただ最近は、スキー場から足が遠のいてしまっているので衰退が残念でなりません。スキー場まで行く理由も見当たらずに申し訳ないです。
- ・最近のスキー、ボードに来る人は、車中泊、コンビニ食事など地元の食堂、宿泊施設を使わない方が多く見られると思う。逆に他の地域ではマナーが悪く「車中泊禁止」にした道の駅の話があった。中には車中泊の車用に「RVパーク」と言う施設があるところも出てきたが、これが

らのスキー場はオールシーズンで来てもらえる様な総合パークを考え、冬場でもコテージ、キャンプ場開放、ペット OK の宿泊場、夏場の活用施設に来る人のリピート率の UP を考えて行かないといけないと思います。

・維持をしていくことは設備投資もあるし、本当に難しい問題だと思います。今後の子供たちの体力のことも考えるとスキーはとても大事だと感じます。ゲームばかりでは体をつくることができない。生涯スポーツですので子供のころから地元のスポーツを自分のものにしていけたらスキー人口は減らないと思います。

・村民の負担を増やしてまで継続する産業ではない。木曽町と合併してスキー場を売却するのの一つの方法。

・大人になるとあまりスキーはしなくなるが、子供たちはスキーというやぶはら高原スキー場へ行く。小さいころからスキーをやっていると大人になっても、たまにスキーをしたくなる。

遠くのスキー場までいかなければならないので存続してほしい。

・スキー場の運営は難しいと思うが夏スキーができたり、一部カフェや木祖村の食材を使ったレストランなど穂高にある(別荘地)レストランやカフェ若い人が来るように変えていく。

・make event during winter even though theres just for two of the okuyakusan

・スキー場で冬場の雇用をしてもらっている人が何人もいて実際スキー場がなくなったら困るなと感じました。でも年々降雪量も減りなかなか万全の状態オープンできなかつたりすると昔ほど気候があってないのかとも思いました。

・冬期雇用対策はとつてもよいと思う。スキー場経営は村から民間経営になっていますがもっと運営会社の自立がもてめられていると思います。(民営一本化)

・スキー場は村にとって重要な産業のひとつであります。スキー場内の事業の一本化など関係者の努力と村民の理解。やぶはらスキー場ファンの支援も得ながら継続を検討してほしい。

・子供の頃は雪も多くスキーを楽しんできたので何とか皆に良い方向になる事をお願いします。

・維持は村、村民にとつても大きな負担ではあるが、木祖村からスキー場がなくなってしまった時、この村の存在価値(村として誇れるものや、アピールできるもの、将来への希望)が同時に消失してしまうのではないかと危惧する。スキー場あつての木祖村に魅力を感じている人(スキーファンがほとんどだとは思いますが…)に広く情報発信し(課題・危機感も含め)協力していただけるために、できることは全てしてほしい。

・藪原といえばスキー場があり、とても寒いイメージがありましたが、地球温暖化の影響は大きく降雪量は見込めない状況で今後は人工降雪機に頼らざるを得ない状態でスキー客が減少しているのでは維持していくのが大変だなと思いました(村の負担が大きいこと)。木祖村の気候は夏の朝と昼の気温の温度差があり、とても過ごしやすいいと思うのでアウトドアにはとてもいいと思います。こだまの森の経営の方へ力を入れてみてはどうかと思いました。

・年間使用できる施設の整備。リフト降り場の従業員が居眠りをしている。ゲレンデ内のトイレが少ない。レストランの料金が安い。ポールを張られると滑りにくい。雪質は良い。がんばれ木祖村。

・歴史はあるけど、スケールが小さいから知らないスキー客も多い藪原スキー場。大繁盛はないと思います。経営が成り立たなくなればやめるべき時は誰もがわかっていると思います。存続か廃止か、将来をはっきり予測できないから迷っている様に思えます。どうにもならなくなるまでやってみてはどうでしょうか。

・歴史に裏打ちされたスキー場だからこそその悩みが多いのでしょう。景気の良い時代には存在するだけで経営は成り立ったが、そうでなくなってしまったこの時代には、ニーズに合わせた変化(アップデート)が必ず必要になります。木祖の近隣スキー場の中では、それでもまだ固定ファンが多く、堅調なのではないかと思っています。逆にやぶはらがやめてしまったら、木曽のスキー産業は衰退の一途、どうになってしまうのでしょうか。指定管理方式によるスキー場経営は、数年間の問題先送りにはかからないと思います。更新時は結局手放されて、その時には問題が大きくなっているように、他の例からうかがえます。何とか自力で存続させていく方法を検討してみてもいいでしょう。

・歴史や雇用のことを考えると何とか継続できればと思うが、当スキー場に限った話でもないし、改めて時代の変化かなと思った。スキー人口の減少は明らかなので近年何かしらのブームが起こらない限り廃止もやむを得ないと思う。

- ・子供の頃よく利用しました。コースは最高に良いと思います。スキー、ボードの人口減により苦しい経営と思いますが、頑張っただけで欲しいと思います。
- ・大事な基幹産業だと思う。しかし自然の雪頼みであるのがネックになっている。白馬では地球温暖化をストップさせるための取組を行っているそうだが、木祖村でも積極的に推進していったらどうか。また村単独ではなく、他の地域と連携するのもよいと思う。毎年来ていただいているお客さんにも意見を伺ってみてはどうか。女性としてはトイレが上のコースへ行くほど利用しにくい。家族で来て安心して利用できる要因の一つはトイレ。整備をしっかりと行えば夏場の活用にも活かせると思う。
- ・無くなってしまうのは寂しく感じます。継続していってくれるといいんですが…と思っています。
- ・確かに地球温暖化で雪を降らせることにより余分な経費や人手不足で収入が減少していることは理解できます。利益がこの先出ないようでしたら、やめて夏場に利用できるような何か楽しい遊びの施設等を考えていった方がよいと思います。
- ・スキー場は村の重要な基幹産業なのでこれからも継続してほしい。①コース全体の規模を縮小し国設 1.2.3 リフトは動かさない。②ボーダーとファミリー層に客層をしぼる。③クラウドファンディングを活用し、スノーボードパークの復活、小さな子供向けのパークを充実、食堂に子供向けメニューを増やす。(大事)④インスタ映えスポットを作る。きもかわいいオブジェなどを設置し SNS を活用し拡散を狙う
- ・地球温暖化による暖冬、雪不足は奥木曾 GR の努力だけではどうにもならないという状況と、村民の高齢化は止められないという状況を合わせて考えたときに、維持管理費等を村外から集めることができないのならばスキー場廃止はやむを得ない。
- ・暖冬で雪も少なくオープンもなかなかできない年もあるので会社経営も大変だと思う。村と協力してやっていくしかないと思うが資料を読んだ感じだと村はやりたくないように感じた
- ・ある程度ネームバリューもあり集客できているので通年楽しめる施設にできれば一番良い。藪原宿の街並みを整備し滞在型のアクティビティが考案できれば木曾日本遺産や松本城などへの観光ルートの開拓、確立が可能になればもっと価値が上がると思う
- ・今のままでは今後スキー場は村の負担になるだけだと思う。いったん休止して藪原宿の再生をし、古民家に泊まって囲炉裏や薪ストーブのある生活を体験できる、松本城や中山道ルートもアクセスできるなど滞在型の方向に取り組むべき。それができないなら植林して CO2 削減に取り組む
- ・スキー場はあって良いと思うが、経営困難ならば廃止もやむを得ない。村の負担が多くなることは村民の負担にもつながり反対である。(ただえさえ固定資産税が高い) 下水処理場を自分の地元にもっていった現村長のやり方にも問題があり村任せにはできない。
- ・木祖村にとって大切な藪原スキー場を守ってもらいたい。地元の人たちの考えだけでは限界もあると思うので外部からの意見を取り入れる必要があると感じます
- ・索道を維持するには大変である。金が必要。ほかのスキー場がなくなれば、来るだろうか、ウィンタースポーツ人口を増やしておかなければならない。若者が楽しんでくれば、その可能性は増える。またその子供がきてくれるかも。会社が儲かることで村民に営利感が育てば存続も可能になる。仕掛け人の手に委ねる。莫大な投資をしてだめだったらあきらめる
- ・スキー場を続けていくのは暖冬等もありとても大変だと思うが、自分の村にスキー場があるという事はとてもうれしい事です。子供達にも身近にスキー、ボード、そり等、一緒に楽しむ事ができて良かった。具体案はなかなか思いつかないけど、雪があまり降らない時でも何かできたり夏場もスキー場で何かできたりすれば、こだまの森のキャンプ場のように活気がでてくる気がする。コロナ禍な今密にならない外遊びできる場所はとても必要だと思う。※今年の村民割引シーズン券はとてもありがたかったコロナでどこに行く事もできず、スキー場によくいかせてもらった。
- ・村民全体が昔から共にとりくんできた場所だと思う。資料を見るとどちらにしてもお金の負担を誰がどうやって払うかを考えさせられ、昔からスキー場を守ってきた方々の気持ちはどうなのか、来場して下さるお客様に求められている事はあるのか自然環境は変わらず保たれていくのかなど金銭面意外の資料も欲しかった。
- ・あれば良いが、多額の税投入してまで残す必要があるのか。会社として、努力しているのか従業員全てがガマンをしてでもスキー場を残すことをしているのか見えない。支援して残しても

永遠に支援することになるのでは経営が黒字になる方策が見えていけばよいが厳しいのでは。

・木祖村の大規模な農家の方が、冬場の就労の機会がある事で、一年を通して収入を得る事ができるため、農業から離れずに続けて行く事ができるのではないかと思います。

・自分はスキーをやらないのですが、村の人や木祖村を盛り上げるという意味ではとても重要なのかもですが、経営面でうまく回らないという事実から真剣に考えていく必要があるでしょう。補助金などをあてにするのなら長くは続かない自分たちでできる範囲で。スキーやスノボをやっている人は、スキー最高、スノボ最高と思っているかもしれないが世の中そうじゃない人が圧倒的に多いのではないかと、温泉などが出ないのではあるがそういうやしを求めている人も数多い。大きく変化させることも必要かと思えます。

・藪原高原としての売りではあると思いますが…老朽化がすすむと経営がきびしいと感じます。

・木曾福島スキー場は夏季の営業も開始した。冬季も「ゲレ食」の評価が高いと聞く。妙案があるわけではないが、やぶはらも何か特色のある取り組みを行わなければジリ貧になるのは必至。とはいえ、王滝村のようになるのも困ります。

・コロナの影響で近年のユーザーの減少、人件費の上昇等様々な問題が多い中、有効的な行動をしないとつぶれてしまうのが目に見えているのか残念でしかたがない。

・経営が苦しいこと、スキー客離れが進み、昔のようなぎわいはなかなか難しいが、歴史のあるスキー場なので何とか存続して欲しい。今の苦しい時期を過ぎれば、県内のスキー場の数も減少すると思うので、ライバルが減っていくこのタイミングはがまん時かと思えます。

・大切な産業

・赤字を出さずに維持して行けるのであれば、一番理想であるが、今後の設備投資、赤字の年が多いことを考えると、とても難しい問題であると感じました。

・いつも行けずじまいでシーズンが終わってしまうが、今年はシーズン券を購入して行きたいと思う。経営内容はわからないがなんとか継続できないかと思う。

・私はスキーが得意ではないので利用しませんが、子供は毎年何回も利用しています。なるべく継続してほしいと思いますが、資料を見て問題点がたくさんあるのだと思いました。

・世界的な気候変動からみて降雪は期待できないと思われる。設備投資してまでスキー場を続けていくのは無理だと思う。早々にこだまの森一本にしていくべきだと思う。

・少なくとも次の世代に冬のプラス特質なものとして残したい(負になってしまうと解決すべき問題)

・赤字になるのであれば続けるべきではない

・藪原スキー場は木祖村にとって存在の意義は大きいと思います。木祖村観光協会では2030年に藪原スキー場100年のイベント企画をやっていきます。そこでの今回のアンケートですが、スキー場の廃止は無理では。継続するにはお金が必要。村民に急の負担をかけさせるのは問題になる。今回のアンケートで実情をわかってもらおう。(表に出ていない見えていない物、事があると思う。)村民に多くの負担をお願いする感じがします。村、会社、今回責任逃れのためのアンケートの感じがします。

・古くから各地のスキーヤーに愛されたスキー場も時代と共に利用者が減って来ていると思います。過去の栄光は村民が皆知っていますが、廃れてしまっていくのは、私は望みません。今の時代や環境に素早く対応していくのが課題だと思います。経営のプロ、コンサルタントを入れ、方向転換していく覚悟で動いていくべきだと思います。コロナ禍で人々の動きが変わった事を逆にチャンスに出来ればと願っています。未来の村民の為に負の遺産ではなく財源として残せたらと思います。

・調査資料を見て、スキー場の歴史、現状、今後の課題などを改めて考えさせられました。スキー場には関係する経費、雇用等も切実な問題だと知りました。今後のあり方について、検討しなくてはいけない時期に来ている。それに対して今一度村民で考えるこのアンケートはとても意味のあるものだと思います。具体的な考えが書けず申し訳ありません。ただこの歴史ある村の大きな財産を何とか活用出来る策がある事を願っています。

・歴史あるスキー場ですのでできれば今のままで残してほしいです。ただ宿泊施設、食堂など改善の余地はあります。スキーヤーが泊まりで来なくなるような施設はありますか。食事、トイレ、寝床大事です。スキー場は立派ですので。せめて羽毛布団を使いましょう。冬場の村民の

仕事の間として大切だと思いますが、リフトの関係でそんなに人員はいりますか。経費を削減できるところはやってもらいたいです。

・なかなか厳しい現状を知ることができました。このまま村民に愛され必要とされるやぶはらスキー場であってほしいと思いますが、今後も検討が必要だということが分かりました。

・スキー場 夏の活用。

・夏も活用して通年の活用を考えてほしい。

・やぶはらスキー場は、車の運転が苦手な女性でも簡単に来場することができてとても良い所だと思います。ボードをする若い世代にも人気です。けれど、行ってみるととても古くさい地味なスキー場で嫌になります。古い、古い、古い。新しさや若者が好む物が何も無い！！とつてもつまらないスキー場です。機械や建物の事ではありません、考え方が古い。子供、幼児は丸山リフトでソリをします。昔は動く歩道がありました。あれはとっても便利だった。子供をソリに乗せてスキー場の雪の上を登る。どんなに大変な事か！！家族連れに来場してもらいたいなら、『キッズパーク』をふたたび作ってほしい。1年に1度か2度「スキー場へ遊びに行こう！」そう思えるスキー場になればいい。スノーボードにジャンプ台を作ってもらいたい。昔は活気があって楽しかった。ボードのレースもおもしろかった。今の子供達はネットで世界中とつながっていて、楽しい事ばかり、その子供達を現実の世界で遊ばせる事はかなり難しいと思う。

・運営会社・利用者・地域、三方よしの方法、相乗効果を生み出す選択に期待しています。

・関係者の決定にまかせます。

・スキー場は昔から利用していたので、なくなるとさびしいと思うが、赤字で運営がむずかしいという事なら、他の雇用確保につながる事を、と思うがなかなか思いうかばないです。

・昔からあるスキー場なのでなくすのはもったいないが、経営的に厳しい状態が続くようなら廃止も致しかたないと思う。

・自分はスキーをしなくなり利用はしていませんが、スキー以外でも出かけられる場になればいいのではないかと思います。スキーをしない人でも行ってみたくなるような…。昔から続いてきたスキー場ですし、無くなってしまうのは淋しく思います。

・温暖化により将来的には立ちゆかなくなるだろう。今回存続を選んだとしても、廃止への道筋は、今から考えていくべき(個人的には、将来みとおせず、お金もかかることからはやくやめた方がよいと思っている)。廃止にかかるお金は必ずいつか必要になるのだから、それと、存続した場合のお金をくらべて、存続の可否を議論するのはおかしい。

・なくなってはほしくないと思う。どうしていくのかと考えるととてもむづかしくなかなか答えとしては出てこなかった。

・赤字継続なら閉鎖がよろしい。

・スキー場は子供の頃から、あたり前のように存在し、スキー教室等でもお世話になりました。また、私の子供たちも藪原ジュニアでお世話になり、育てていただきました。可能であるのなら存続してほしいと思いますが、温暖化による雪の減少、村の高齢化や過疎化による限界地域増加の懸念等々…はそう遠くない未来というより現在おきている状況です。そう考えるとスキー場の存続は難しくなり、いつかはなくなってしまうのだろうか、とも思います。皆で知恵を出し合って、何とか良い打開策を講じられたらと思います。

・高齢化が進んでいる今、高齢者が働きながら人と交流をもてる場になっていると思う。認知症予防にもなっていると思う。

・最善の方法がないのが問題だと思う。まずは黒字化を目指す事だと思う。廃止の事態にしなければならぬ状況を避ける為に維持管理費を減らす事。インバウンドがもどれば、今まで通りになってくると思う。

・歴史あるスキー場なので存続出来れば一番良いと思うが、赤字が続いてしまうと難しいと思う。

・時代の流れなので、事業転換止むなし、だが”スキー場”だけが悪者ではない。冬の集客手段を確立できなかった、行政・住民の責任も重い。もっと真剣に考え、参加しないとイケないかな。

・(利用頻度)子育て期間には、子どもと利用したり、他県からの知人が来た時、職場の人と利用していました。(自由記述欄)私は働いている立場なのでスキー場が無くなるのは困る立場です。村民の方にとって、木祖村にスキー場があるのは当たり前で更に「昔の良かった時代」を

知っている人が現時点ではたくさんいます。今後またブームは来ないかと思いますが、他のスキー場の動向も見ながら継続していくことも可能だと思います。

・スキー人口の減少や雪不足、そして新型コロナの影響とスキー場の厳しい現状を考えると、やめてしまった方がいいと思う方がいるのも当然のことだと思いますが、スキー場で働いている人や関わっている人も多くあり、関係者にとっても村人にとってもなくてはならないものであり、又中京方面などからはアクセスが良くグレンデも良いと人気があるので、できれば続けて欲しいと思います。スキー人口の減少を考えればいずれは違うアクティビティに変換させていった方がいいのかもしれませんが、木曽エリアでは入場者数も一番あるのでもう少し頑張っただけ欲しいと思います。追記:アンケートにはスキー場の夏場の活用などの事についてマウンテンバイクなどを書いてしまいましたが、今回のような長雨などの影響でスキー場にも被害が出ているのを見るとそういったことも簡単ではないと思いますし、何よりを何かを始めるには資金がいるのでやはり難しいのかなと思いました。

・村民として子供が保育園～中学頃までは、冬場の体力づくりや楽しみの為、おおいに利用させていただきました。全国でも村内にスキー場があるところは少ないと思うので貴重な経験を見せていただいたと思います。時代が流れて子供達も親となった時、同じような経験ができるのかなとばかり思っておりましたが、今回の調査資料を拝見し、現実を知ることができました。今後進むも地獄、やめるも地獄であれば木祖村の産業として、規模縮小しても継続することを検討していただきたいと考えます。

・この調査資料では考えがまとまりません。

〔60代の意見〕

・木祖村の自然の中で体験できる活動は大切な資源と考える。財政的な面が赤字となっている点を黒字にもっていくためには時代のニーズをとらえて新しいとくみも入れながらとくんでいく方向を考えていきたい。特に夏場のスキー場の活用の可能性を考えたい。スキー場の存続のためには、経営や運営を今まで通りではなく、株式会社化するなど経営の一元化なども考えてはどうか。又、塩尻方面、伊那方面、愛知方面などの集客やPRを活発に行ってほしい。地元民がたのしめるイベントももっと行って見たらどうか。コロナ後、実家に帰省した家族が楽しめる場となり、活性化すると思う。

・リフト等施設の老朽化対策には費用がかかるが、若い世代人口が今後減少していくことから、スキー場関連の経営者の担い手が課題になると思う。施設の老朽化にはそれなりの費用を投入すれば対応可能だが、担い手問題はそうはいかないので、スキー場施設等の経営一本化の方向をできるだけ早目に見定めていくことが大切だと思う。自然降雪がなくても藪原へ行けば必ずシーズン中は滑走ができるという条件で経営するために、現在のグレンデを大幅に縮小しても人工降雪機の設置を考えるべきだと思う。スキーヤーはたとえグレンデ規模が小さくても雪さえ確保されていれば必ず集客につながるはず。

・村営の時はリフトに多くの人を雇い、結構無駄が多かったように思う。民営化して全部奥木曾グリーンリゾート(株)でやれと言うのは無理があると思う。スキー場は中央を除き村の財産があるので設備投資は村が行うのが本来の姿と思う。グレンデメイク等お客に評判が良いと聞いている。やぶはら高原スキー場を今、廃止するのは大変切ないことに思う。100年まで頑張ろう！スキー場を廃止して新しい観光を始めるにしてもお金はかかる。それならば歴史を重視し、もう少し継続してはどうか。スキーはゴルフと同様生涯スポーツであり、シルバー年代の利用が期待できるのでは・・・※資料にあった菅生産森林組合と木曽森林管理署への貸付料700万円は大変料金が高く驚いた。このご時世、料金下げることが必要ではないか。

・アンケートについて、倫理的配慮をお願いします。このアンケートの利用の仕方や取り扱い個人が特定できないように。

・長い歴史あるスキー場を閉めるのは簡単であるが、長年に渡り雇用を生み出し村には多くの税金を落としてもらっている。しかし、今後木祖村も大幅な人口減が予想されることから税金を投入することは住民サービス等踏まえ厳しいのでは。若い人達にそのツケを残すことは望ましくない。

・「スキー場あり方検討会」が今後の設備投資、計7億7千万円を必要としていることは驚きました。村民の意識をかけ離れていませんか。役場のこのアンケート、資料提供に感謝です。よくわかりました。村民の判断どうなるか関心を持っています。町村合併よりも重い判断になる気

がします。村にお金がないこと、決まっていますが、それでも将来のために貯金してください。子供たちのために。

・ホームゲレンデがあると幸せ。ここが無かったらスキーをすることはなかったと思う。高齢になっても自分に合ったゲレンデがありスキーができる幸せ。

・やぶはら高原スキー場は老舗のスキー場であり、廃止するのはもったいないと思うが経営ができないようであれば続けていくことは意味がない。(全国的にも同様なことが起きている。)昔のように何もなくてもスキー客が来る時代ではない。スキー人口の減少に歯止めがかからず、年々客が減っている以上、今後の経営はますます困難になると思う。

・温暖化や少子高齢化でそろそろスキー場は寿命ではないか。ここ数年生き延びても10年後、20年後もっと悪くなると思う。(冬場のみ)夏のレジャーにシフトを考えてはどうか。

・未来の若者に負の遺産は不要。

・調査資料を見ても今までの赤字分は株主者の資本を食いつぶし借入金の償還も丁度でできずの状況だから今後、当然施設の更新が何年かの内には出てくるが一体どうするのか。不可能、この際、将来見直しの中であと数年赤字が続くようであれば思い切って整理の方向を打ち出すべきだ。リフト等、新しく更新するのは全く不可能と思います。

・スキー場で村の雇用を考えるのは今の時代では難しいのではないかと考えます。情報時代にあった投資をすべきであり、若者が住みたいと思える村にすべきであると考えます。

・1. 小学生、中学生の利用。 2. 名古屋方面からのスキー客が利用する。 3. 下記合宿に利用する。

・こだまの森とスキー場を一つのエリアとして色々おもしろいアクティビティを考える。

・スキー場は大切と思います。廃止しないで夏のレジャーを考え、若い人が来て楽しめるものや少し年が上がっても楽しめるものをやるようにする。

・廃止が一番良いです。

・歴史あるスキー場なので残したい。

・歴史あるやぶはらスキー場を消したくない。皆で知恵を出し合い、又村政にも金銭的な負担を願い何とか継続していきたいと願う。

・前ページの参考案がいくつかある中で有効な事を実行するしかない。夏のゲレンデの有効利用。ケビンを毎年予約するが取れない。宿泊施設を少し多くできないか。県内のスキー所の廃止の情報もいくつか聞きました。縮小しても続けてほしいです。夏こだまの森での収入を多くできないか。

・歴史あるスキー場の厳しい現状は解ります。スキー人口の減少の中でいかに現状維持が出来るかであると思います。そのためには、シニア世代を含めた企画、PRが必要です。私も毎年、何回か楽しんでますが、早く孫と楽しむために頑張ってます。

・木祖村にとっては冬場の雇用等にもなり多少なりの収入があるので、現状で運営してほしい。

・私たちの税金を使ってまで(老朽化を改善するために)運営してほしい。

・他地域、他県からの利用者が多く、雪質も良いと評価がある。村人の冬期間の雇用にもなるのではないか。

・温暖化の影響で雪不足が続いて赤字が続くようなら廃止すべきと考えます。

・スキー場の投資金額は総額では大きいですが、予定の既存事業を状況によっては先送りにする等、規模を縮小してでも運営していただきたいと思う。いずれにしても、大きな投資を一時的に行うべきではなく、スキーに対する将来の動向もあるので、状況を見ながら検討されたい。

・スキー場がなくなってしまうことは、とても悲しいことです。できるなら規模を小さくして、維持管理費を減らしつつ、クラウドファンディングを活用してお金を集めながら、このまま続けてほしいと願っています。

・昨年(R2年)12月に木祖村に越してきたばかりで深く考える事が出来ず申し訳ありません。スキー場が木祖村にとって大変重要な財産である事を認識致しました。存続出来る事を願っております。

・集客の増強、もしくは規模の縮小。

・運営方法の一本化

・やぶはら高原スキー場は、全国的に知名度の高い白馬エリアのスキー場と比較してもそんな色のないスキー場であると思う。白馬エリアのPR方法を研究し参考にすればよいと思う。

私は 65 歳の高齢者ですが、再度スキーを楽しみたいと思っています。スキーは生涯スポーツとしてとても良いと思います。スキーはそれほど上手くはありませんが、近くにスキー場があることで気軽にスキーを楽しむことができます。また、運営は大変かもしれませんが、スキー場は木祖村の観光の大きな柱の 1 つだと思います。やぶはら高原スキー場でスキーをするのを楽しみにしておられる方もたくさんいると思います。上記のようなことからスキー場は今後もぜひ継続していただきたいと思います。

・今の時代、少子化でいろいろな分野で需要が減っている中、新たな設備投資をしても見合った利益を望むのは無理だと思われる。国でも新たな公共工事から、今までのものを修理・メンテナンスして維持していく時代に入ったと言っています。スキー場も経営等様々な問題があって、私共にはわからないことが多いですが、会社の方も何かあれば村も放っておけないから助けてくれる、そういう気がしてならない。いろいろな面で無駄が多いのでは。よく耳にします。見えないようでも村民はよく見ているみたいです。

・昨今のコロナ禍の状況や、子供の減少により、スキー人口の減少はある意味致命的な状況だと思います。スキー場ばかりではなく、あらゆる観光産業が打撃を受けています。そういった状況下でスキー場の廃止はひょっとしたら一番得策かもしれません。しかし代替案もなく、ただ経済的に厳しいからとこれだけの施設を捨ててしまうことにも抵抗があります。例えば、コロナ禍のためか昨今は一人キャンプや少人数でハイキング等の需要が伸びていると聞きます。施設として、こだまの森との併用による利用法を模索してみてもいいのではないでしょうか。ただし Wi-Fi 設備やインフラ設備を充実しなければ、ただスキー場を開放してもお客様は来てくれません。それなりの投資も必要です。運営会社を募っても、ノウハウのない会社では直ぐに赤字になってしまうでしょう。そういった状況下の中でよい知恵を出すことの難しさもわかります。ぜひ、よい案を出しあってスキー場を継続できるよう頑張りましょう。

・村民の負担が増えるためぜひ廃止してもらいたい。

・村で一番の観光資源 2 シーズン前と比較すると年末の降雪もあり順調な営業ができたと思います。しかしメイン施設の大規模な修繕や圧雪車の整備等多額の費用が掛かることは誰もがわかっていることです。長い歴史を持ち、近年は試行錯誤をしながらの経営になっているとは思いますが、村の観光からスキー場をなくしたら、それに代わる観光資源は皆無、誘客もできずウィンターシーズンの雇用も失われます。今まで以上に県内外の誘客を図るために、告知、宣伝を強化し、とにかく来場者を増やし経営の基礎固めを行い、村内の人たちにも来場してもらうことで良い点や改善点がわかり、現状を理解し前向きな提案をいただけたらと思う。気軽に村内の人たちがスキー場に来られるようにバスでの無料送迎を行うと共に、1 日リフト券の無料や半額、レンタル無料、食事割引などを行い、一人でも多くの人たちにスキー場の楽しさを知ってもらう。(役場の人は是非利用を)

・スキー場は木祖村の宝村民全員でスキー場のことを前向きに考えてもらいたい。若い人々の知恵と力が必要

・木祖村にスキー場がなくなってしまうと何もなくなってしまう。子供達が外へ出て行っても村外の人達を連れてスキー場を利用してもらえようぜひ継続してほしいと思います。

・現状維持を少し(短期スパン)やってみて様子を見てはどうか。90 年も続いたスキー場なので廃止はもったいないけど経営難であるとともに多額の出資を必要とする又村の財政を投資してこの先未来の事業を凍結してあとの子供達に借金残しても困る。先のことははっきり言ってよくわからない。

・スキー人口が減少し、温暖化の減少もあるがスキー場が少なくなっているのに藪原スキー場は継続してほしい

・夏白菜などをやっていた人が冬雪まきや食堂で働くなどスキー場に携わってる人がいるのであるべく継続してほしい。夏場何かを考えれば

・クラウドファンディングを活用、スキー場の夏季利用(大学、IT 関連会社)

・今後スキー場だけで事業継続することは不可能。アクセスが良いとの考えは昔のこと。村の雇用創出も一部の人だけに対する考え方で多くの人は恩恵を受けていない。これ以上スキー場に投資することは今後の村運営に支障が出るばかりか村の存続にも影響すると思う。

・スキー場の歴史や現状を村内に広く知ってもらう必要がある。100 年の記録を郷土館や役場で広報する。

- ・昨シーズンコロナ禍の中でよく運営できましたね。感染者、クラスターが出なくてよかった。歴史あるスキー場なので存続してほしい
- ・コロナ、温暖化等を考えると先が読めない。機材を購入したり、整備した結果自転車操業になっては今後の存続は難しい。交通の便の良さを生かしリピーターが増える工夫をし、毎年一定の集客を見込めさらに収益が見込めるようなら存続の価値はあると思う。規模を縮小したり、村おこし協力隊の力を借りるなどしてスキー場の目玉となるものがあればよい。
- ・スキー場はどうしてできたのか原点に戻ってみる。とても大切なことだと思う。当時の人がどんな思いでスキー場を作ったのか歴史を知らないため正しいところはわからないが、楽しい木祖村にしようとか何か思いもあったと思う。自分たちがお金を出して作りたいという思いやみんなで負担したら作れるかなど有志で作ったのではないか。自分だけ儲けようとか稼ごうとかそんな思いではないと思う。儲からないからやめようとか簡単に言えない。原点に戻って考える発想がほしい。補助金ばかりあてにしたら続かないのは誰でもわかる。補助金を取った上で、会社がもっとできることを考えなくては。関係者の考えも発信してほしい。アンケートの結果を大切にやってただけ無駄にならないようにしてほしい。
- ・スキー場はあって良いと思うが、経営困難ならば廃止したほうが良い。村民の負担はなくてほしい
- ・県内でも歴史あるスキー場ですが、あちらこちらにスキー場が創設される中利用者も分散して、経営も大変なことと思います。過去は過去として、時代の流れの中こだまの森の冬期営業としてスキー、スノーボードを含めてレジャーができればいいと思う。具体的にはよくわかりません。
- ・家の子供達が、小中学校の頃までスキー場も賑やかでしたが、暖冬で雪も少ししか降らないし年々世の中の状況変化でスキー人口も減少してしまいました。赤字経営で大変ですが「こだまの森」とのつながりで何とか続けていけるようにと願います。
- ・これまで、村の実質的な支援を受けずに運営を行ってきたが村への経済効果は大きかったと思う。これまで木曾町や王滝村がスキー場への公金を投入してきた経緯を考えれば、今後はある程度の直接的支援を行っても良いと思う。スキー場が無くなることで失われる経済効果を測定した上で適切な支援策、支援金の上限を定め、その中での経営の安定化をめざす。こだまの森の指定管理とあわせて考える
- ・藪原スキー場は木祖村の貴重な観光産業でぜひ継続する方向で検討したほうが良い
- ・歴史ある藪原スキー場をなくすことはできません。なんとか存続をして欲しいです、小さくしてもぜひ残してもらいたい。スキー場のない木祖村は考えられません、存続にしろ、産業にしろお金がかかるのであれば形を変えてでも存続をすべきです。経営は一本化すべきです。民間が混ざったり利害関係が複雑すぎます。関係のない村民から見ると他人事としかみえません。もっと村全体としての問題としてアピールすることが大事ではないでしょうか。(関係者だけで勝手にさわいでいるようなイメージしかもちません)
- ・スキー場は歴史もあり村のシンボルと言える、木曾郡下で最も集客力があり競争力のあるスキー場である。スキー場の歴史を見てもわかるように、昭和50年代半ばからの村の設備投資がなされて成り立ってきた経緯がある。平成に入り村の合併問題が浮上し、村が手を引く格好となったが独立を目指すことを選択した以上、元の原点に立ち帰り、村が設備投資負担をすべきである。スキー場の関連売上2億4千万円に代わる産業はなくこれがなくなればさらに過疎化に拍車がかかる。外部から村に人を呼び寄せる最大の機能を維持するのは村の責務と考える。
- ・木祖村からスキー場がなくなってしまうのはさびしい、もったいない気がします。運営のことを考えると難しいのかもしれないが、その道のプロにまかせるなりしてのこしてほしい
- ・歴史あるスキー場であり自分も幼い頃から又、大人になっても家族で楽しんできた思い出多い場所です。しかし大変残念ですが正直なところ打開策が見えません。気候変動もあります。若者のスキー離れが気になります。雇用の問題は深刻です。夏場はこだまの森と系列した形で自然公園はできないか、キャンプ場を増やし立ヶ峰への遊歩道整備等、冬場の方向性はやはりスキー場に…になってしまうのか解りません。難しいです。会社はできるだけ小さくはじめる。が基本！今までの様な形でいくと又、同じくり返しになってしまいます。
- ・歴史のあるスキー場なので、大切にしたいと思います。

- ・継続には反対します。歴史のあるスキー場であることは資料を読んでよく解り残念には思いますが、村としても年間の収入にはならない事業であるし村外に出している支出も多いことが解り雇用に関しても数か月のことであるのでこれから考えていけばよいのではと思います。
- ・地球温暖化の影響で天然の降雪が見込めなく人工降雪機に頼らざるを得なくなる状況が通常であるならば維持管理費が多大になり、スキー場運営は厳しくなるとされる。将来的には廃止する選択もあると思われる。
- ・村民の負担が増えるならもう廃止した方が良くと思います。
- ・あったほしい一面、人口の減少(スキー客)の脚が遠のく現象。コロナの影響ばかりではなく、これからこの先の見通しがわからない！赤字続きであれば広い土地の活用があるか、考える時期が来ているかも。今が決断の時と考える。スキー以外での木祖村への集客方法があるのか。子どもたちのスキー経験は必要と思いますが子どもたちの人口も減る一方でもあります。色々な面でスキー場を含む、木祖村の将来的願望を村民全体でアンケートも含め意見の集約(が)必要と思う。資料の内容とても参考になりました。
- ・小さいころから馴染のある藪原スキー場がなくなってしまうことはとても悲しいと思います。クラウドファンディングとかで資金を集めどうか存続していただけないでしょうか。
- ・これ以上金をかけないこと。ダメならやめる事。もう充分役にたった。その金(スキー場に修理等の金)をくばって仕事を終る様にする。次の仕事をさがしてもらう。
- ・(カタカナ言葉について)全村民に理解できることばで説明していただけたらと思いますが…。調査資料を拝見し、90年を迎えることになったらスキー場が無くなってしまふことはとても残念に思います。将来をになう子どもたちの冬の楽しみでもあります。味噌川ダムからの恩恵を受けている愛知県等への資金源の要請(寄付)等、なんらかの策を考えて、今後も何とか継続して欲しいと思います。
- ・スキー場の地代の金額はどうなっているのか。残せるものなら維持してもらいたい。
- ・スキー場の全般の責任はどこにあるのかがよくわかりません。雪がすくなくなって利用者も減り経営が苦しくなってきたと言ってアンケートをとっても何の意味もないような気がします。いかず戻らず八方塞がりになってからアンケートの結果できめるなんてあまりにも無責任じゃないですか！
- ・スキー場運営に対し、行き詰まって来た今、スキー場関係者、又村は倒産と言う現実を本気で考えた事があるだろうか、一般の業者なら不渡りを出し無一文になっている。この様な状態になってから住民アンケートをとるような事をせず、村が責任を持って方向を決めるべきである。村はスキー場有りきである、アンケートをとると言うことはいざとなった時の逃げ口実であると思う
- ・これからのスキー人口はへりつつありこだまの森の観光に力を入れたらと思います。
- ・存続又は現状のままどちらも厳しいかと察しいたします。雇用の事を考えれば、冬・夏どちらも何か木祖村代表する観光なのか。体を動かせるロードバイク。等。考え及ばず難しいです。
- ・村の負担が大きくなれば存続は考えものですね。よく分かりません！事柄です。
- ・是非存続させて頂きたい。子供の頃から慣れ親しんだスキー場だから。名古屋方面又、伊那・松本方面からのアクセスが良い。国設第2、第3リフトを高速にしてペアリフトにしてほしい。第2第3リフトを1本にしてほしい。シーズン中、親子又は子供のレクリエーションをしてほしい。(宝探し、あめ払い等)スノーモービルの体験乗車等
- ・若い世代のウィンタースポーツ離れもあると思われませんが、やぶはらスキー場の雪質も良いと聞かれます。何とか利用できると思います。
- ・持続、廃止いずれにしても村民に思い決断と覚悟が求められます。残された時間はあまりありませんが十分な議論が必要です。
- ・歴史あるスキー場なので何とかしてほしい気持ちと本当に継続する場合の費用を考えると判断は難しいですが、国・県などの補助金等も何とか協力してもらって継続して欲しいです。
- ・失くすのは簡単。維持する為の策を考えたい。冬は温暖化で雪不足…この課題スノーマシンのみでは無理か。残すコースとしっかり整備していくことと従事者の若返りは必要である。スキー、ボードをやらなくても遊びに来れる所にできないか。(ファミリー向け、高齢者向け)木祖村が王滝の二の舞になってはいけない。

- ・実際スキー場には関りがないのでわかりません。当事者、村関係者、コンサルタントの方と話し合っただけならいいと思います。外部コンサルタントの方に試算していただくのが良いと思います。
- ・リフトは毎日稼働させなければならないものだろうか。疑問に感じてます。定期バスと同じような扱いですか。
- ・何十年もやぶはらスキー場に来て下さるお客様が沢山いらっしゃいます。やぶはらが好きで毎年必ず来てくださいます。この方々のためにもスキー場をなくしたくはありません。継続するにしても止めるにしても大変な覚悟を持って行わなければなりません。村の明るい未来のために、村民一人ひとりがしっかり考えていかなければいけないと思います。
- ・存続するよい方法があれば、続けてほしい。
- ・何年先になるか、いずれかは廃止しなければならない。(大手の資本で入れれば別ですが。)この先、負の資産を残さないためにもこの先 10 年間位で答えを出す必要あり。
- ・スキー場の存在は感じるが、これだけ赤字続きではどうしようもない。これからも温暖化で投資をする価値がないと思う。これ以上の税金の投入はやめるべきだ。
- ・これ以上続けるべきではないと思う。
- ・現在の状況でやってほしいが、それには無理があると思う。郡外からの資金を集めるにも苦労が有りそう。どうしたらいいか。村民の意見を参考に決めたい。
- ・木曽地域、松本地域と比較しても総合ポテンシャルは高いと思う。利用者の評判も良いと思われる。降雪施設を整備し、12 月下旬からの営業ができれば良いと思う。修繕費の確保が課題であるが、いろいろな方法を検討し継続していけるような対策を取り雇用の確保を図る。関係者及び行政との連携を図り開場 100 年をめざして下さい。
- ・現アルペン(建物・雰囲気)のような新しい感覚のレストハウスが他にもあればいいと思う。逆に旧奥峰の昔ながらの建物もあればいいと思う。リフト券の値段は上げず、大手企業にたよらないやり方を検討できればいいと思います。
- ・グリーンリゾートを中心に関係者はがんばっていると思う。しかし雪が降らない、春が早いなど気候の変動はきびしい。木祖村と藪原スキー場は長い歴史の中で切ってもきれないし来てくれるお客様の楽しみの場としてなくてはならないと思う。今あるものを最大限有効活用して無駄をなくして、経営もさらなる工夫・努力して何とか存続して欲しい。
- ・スキーヤーには評判が良く村外で「やぶはらスキー場」の話を書くこともあります。古く小さなスキー場ですがすばらしいスキー場だと思います。できるかぎり維持を願います。
- ・100 年前の『木祖郷土食』のスキー場開発、鳥居峠活用の熱意、取り組みへの努力が現在あれば、スキー場再生の道は開かれていくと思う。当時の取り組みをしっかり勉強し多くの村民の力で営業努力をすれば必ずや道は開ける。
- ・他のスキー場に無い魅力をもう少し引き出し差別化した施設の充実を図る事が必要。
- ・以前スキー場が賑わっていた時、おごづかいつき温泉旅行に従業員さんは出かけていた。将来のために貯蓄しておけばよいのにと、いつも思っていたが…。スキー場継続のために、村民の生活に影響が出ると困る。地球温暖化、スキー人口減少、人口の減少等、スキー場を安定運営できるか、むずかしいと思う。上記運営できたら、一番よいと思うが…。
- ・子供の頃藪原駅に汽車がとまるとスキー板をかついだ人達がどっと降りてきて、駅前にとまっている多くのバス乗り込み次から次へとスキー場へ運ばれて行った。あの頃、冬場は他にスポーツやレジャーもなく、不便ではあったがスキー場にとっては良い時代だったと思う。とてもなつかしく思い出されるのが村の既存事業の見直しや新規事業の凍結は、住みよい村という村の存続にも関わってくると思う。行き着くところスキー場の存続か村の存続か。
- ・スキー場は無しで良い。今後借金等で大変になると思う。
- ・オールシーズンを活用して雇用を確保。スキーによる子供達の健康づくり。子供たちの動物への関心を高めて、生と死の営みを通じ人間教育を行う(羊ややぎの放牧により)。
- ・働く場所が村内に有って良い事だと思う。
- ・歴史あるスキー場であり、自分達を育ててくれたスキー場でもあるので廃止となるのは、残念に思う。
- ・もっとドライに、経費・人事・管理を見直すべき。おもいきった改革が必要。温泉がほしい。
- ・修繕費がかかるのがわかっていながらなぜ毎年いくらかでも貯金をしていけばちがったと思う。また従業員の賃金カットとかやっているのか、会社自体の努力が足りないと思う。貸付料が

700万円は高いと思う。(年間かシーズン中なのか)村民の税金で最終的には払わなければならないのは納得できないが、雇用を考えるとなんとか存続してほしい。会社のもっと努力をお願いします。この資料だけでは会社がどのように努力しているのか分からない。いろいろ書きましたが、何とか存続できるようにお願いします。

・リフト等の更新にはお金がかかり、大変なことだと思いますが、コストをおさえて長くスキー場が続いていけることを願います。高齢化に伴い、従業員等も減っていくのではと思いますので、検討も必要だと思います(コンパクトにしていくなど)。ありふれた意見で申し訳ありませんでした。

・穏やかに縮小する。

・子供の小さい頃は、大盛況で満車満車でした。スキー場に着くのも大変でした。あの良き時代が頭から離れない。廃止はとても淋しいです。規模を縮小し機械を使用しない雪遊び場にするとかして残してほしいと思います。

・①投資は慎重に→コロナ禍の対応等で、国・県・村の財政が緊迫していると思われる中、又、温暖化の振興やスキー人口の減少が進み、各地のスキー場が悪化している中で、5億8000万円(村人口2700人として、1人あたり21万円強)の投資は、村の財政破綻を招く恐れがあるので、慎重な対応をお願いしたい。②経費の比較について→施設投資した場合と、中止した場合の経費について資料があり、一見中止した場合にも、多大な経費が掛かるので、投資した方が良いのかなと思う。しかし、中止した場合は一回で済むが、投資した場合は、5年後、10年後、再び施設投資の問題が出てきて、その先に中止がある。その説明があった方が良いのではないかと。③投資に関わる事業の見直しについて→観光事業の投資のための事業の見直しは、観光事業から始めるべきではないか。投資金額の割に来客者が少ない水木沢や、アンテナショップにしては、立地が悪く、その効果があまり見えていないと思われる。名古屋直売所を、費用対効果を含めて先に検討すべきではないか。見直し対象事業のうち、緩衝帯整備、森林整備はいわば、夏の雇用事業である。冬の雇用のために、夏の雇用を無くすのは、同じ雇用事業として説明がつかない。緩衝帯整備等の事業は、雇用結果として、獣害被害の軽減、景観形成環境整備として、村民にも恩恵がある。④冬場の村内雇用→村内雇用130人とされているが、これらの多くは自営業者(農業者等)と思われる。自営業の減少、高齢化が進む中、近い将来村外から人材を求めなければ、スキー場運営ができなくなる事が予想される。はたして、5年後、10年後も村民の雇用の場所であるといえるのか。⑤運営会社の経営努力→投資に当たって、運営会社の経営努力を条件としたらどうか。収入増:スキー場関係者の負担金増。収入減:人件費減・借地料減⑥その他→アンケートの回収方法:配布時の封筒で提出する場合は、住所、氏名をマジック等で消して提出の記載があった方が親切。そうでないと記載者が特定される恐れがある。村はスキー場開設90周年記念事業では100周年を目指すと言っている。スキー場への投資は暗に決まっているように勘ぐられてしまう。

村民の負担が増えるなら廃止してほしい。

〔70代以上の意見〕

・冷たいようであるが何事にも潮時があり、当スキー場は今、その時を迎えている。又、行政は本村を「観光立村」と言っているが、個人的には全くそのように思わない。古くからの慣習、その他によりスキー場に寄生して生活している人間を今後も補助金で面倒見る必要はなく、その資金はスキー場以外の村民の税金として、清く正しく公正に使い、村民福祉の向上に資するのが首長(行政マン)の努めと心得るべき時節と考える。

・3ページ、問6-②項が全てと考えます。

・まず生かすことを考え国内、海外等、人流(観光人)を研究、他にない高原の特性を活用できないか。又、小学生のアイデアを募集など出来ればと考えます。施設の改修などは、全体的に行うべきと思います。

・暖冬、スキー離れ、先の見通しの立たないそんな状態で続けていても赤字が増すのは目に見えています。その他の利用方法で考えた方が良いと思います。

・若者の意見を幅広く集める

・気温の上昇、人口の減少は補えない様がない。廃止へ向けて早急に検討を望む

・なくすのは残念です。なんとか継続していくようにみんな考えてほしいです。

・今後の村政を考えた時に今が撤退の時期である。

・長い歴史があり本来は継続すべきであるが、時代科学技術の進歩等、急速に進んでいます。その中でスキー人口の大半をしめる若年者層は携帯電話パソコン等、賃金が低い中でも優先して支出する傾向にあります。時代は変わりレジャーについて季節感が薄れています。都市部においては冬期においてもレジャー施設は豊富にあつてスキー場に行かなくても満足感を味わっている。

・実態がわかって良かった。

・歴史あるスキー場ですが地球温暖化は避けられないことであり気象に左右されるレジャー施設は今後の厳しくなることが予想されます。施設の老朽化、雇用の高齢化、利用者の減少等を考えると施設の更新や改修に多大な経費を投じても将来的に採算のとれない事業を続けることは会社の経営、村の財政上も良くないと思う。

・継続希望

・前進するにも(金)後退するにも(金)なら止めたほうが良い。アンケート用紙を見る限りあれもこれも古くなってこれから先、架け替えたり修理が必要な物ばかりに思われます。これから先2億何がしの収入がいつまで保障されているならまだしもコロナ禍で世界中が不景気な時に、まして暖冬に増々なる時代に孫、子の代まで赤字は残さない方が良いと思います。村も高齢社会になり、現実にはやって来る事へ村の税金、国からの補助金を使ってほしい。

・一言とでは表せない重要な問題に直面し戸惑っています。しかし、考えたり同情したり感情的になっている余裕もなく提出期限が来ました。いろいろ考えましたが、今、ここで7.7億もの大金を注ぎ込んで維持させても地球温暖化、人口の激減、レジャーの多様化等により開店休業状態に陥り廃業せざるを得ない状況に追い込まれたときはプラス4.5億にプラスアルファが加わりスタッフも高齢化し村民ともに悲惨な状況に追い込まれるのではないかと老婆心ながら心配です。その先のことは先に考えなければ一度に解決できるほど単純な問題ではありませんので、この辺で失礼いたします。何もわからない一村民ですが、この機会を与えて下さったことに感謝申し上げますと共にスタッフの皆様のご健闘をお祈り申し上げます。

・6. ①に関連しますが、住民の負担が増していくとは反対します。年金が目減りし、介護保険料などの値上がり、今年に入っても外食にいくと1割は上がっています。ますます負担が増える、増えています。将来に希望が持てないとすれば、いずれは閉鎖になるとしたら、スキー場を縮小して負担の少ない、程よい規模のスキー場にしてはどうでしょうか。少子化、スキー、ボード離れ、減少の流れはニュースなどでも報じられています。「やれやれ、大切な産業だ！」の声が上がりそうですが、だれが赤字を負担するのか。と問えば無責任な継続せよとは言えないのではないのでしょうか。難しい状況ではありますが、本当に真剣に真摯な議論が必要ではないのでしょうか。無責任な意見は慎みたいものと希望しております。

・今後はスキー人口も減ってきていると思いますので本当に続けていくことは大変だと思います。今までは、スノーボードもできて、木曾町のスキー場よりお客様は来てたと思いますが、また食事もコンビニができたりして食堂の利用も少ないと思います。規模を小さくすることも考えたらと思います。

・木曾の晩秋紅葉野菜。夏季から晩秋時期の提案事項。クラブハウスと駐車場を利用しオートキャンプ場に。クラブハウスのトイレ利用、地場産野菜少々販売。

・R19から短時間で行けるスキー場であるので何とか続けてほしい。

・地球温暖化により多くの降雪量も見込めない人工降雪も多額の費用がかかりリフト等の施設整備を考えると冬場のみのスキー場遠泳は難しいと思う。白馬方面と違い景観も望めないもので自然の涼しさを売りにした事業を含め、すべての事業を一本化してアクセスも含め宿泊移設をこだまの森におき年間一本化して楽しめる場場(四季を通じ)とすべきである。

・メリットがたくさんあるから順調なこだまの森にさらに頑張ってもらって収入を増やし、スキー場を継続していけたらいい。

・数年前までは、それなりの設置の意義はあったと思いますが、近年の気候変動・人口動態の変化を考える時大規模な資本投下をして総合レジャー施設として存続させること以外スキー場を存続させることは困難と考えます。当面は、こだまの森中心に雇用創出のためスキー場以外の従来の集客施策を充実させ将来的には、村の産業資源の掘り起しをある程度の予算を投入しシンクタンク集団の活用を導入、将来像を描いたらと考えます。

・村の基幹産業であるため今後共頑張ってください。

・昔からのやぶはらスキー場の歴史もあり、村のメインであると思います。頑張ってください。

・歴史のあるスキー場です。父(故 T7 年生まれ)でしたが当時出資したと聞いてました。叔父(故)も高松宮様がスキー場へ来て下さった時には横に、写真に入っていました。思い出多いスキー場です。何とか知恵を出し合って続けて欲しいと思います。スタッフ・トップの若返りも必要でしょうね。

・木祖小学校から板スキーをかついで歩いて通ったスキー場、思い出がいっぱいつまった場所、いつまでも残ってほしいと思いますが、時の流れには勝てません。良い方向にむかえるように祈っています。

・スキー場へは行った事がないので色々分かりません。

・時代の流れで淘汰されるものは現在までいくつかありました。それはしかたない事です。それが時代の変化であり、必然性です。しかし新たに発生又、生まれるものが当然あります。役場職員・議員・村民の英知をしぼり、生み出したいものです。スキー場経営に対する新たな発想はいかがなものかと願う。

・何としても継続の方向を強めてほしい。村民の一部には難しいアンケートであり、現状を知らない人もいようだ。調査資料に細部の説明がありますが、中央ペアリフトが建設されたのは所有者が増えたことを意味されます。村所有でないのはどんな理由ですか。現在のスキー場は運営会社が経営していますが、会社の経営状況を示す説明文の中で村からの借入金1億円余りはスキー場廃止となった場合は会社清算の際にはどのように処理されるのでしょうか。こだまの森の経営は指定管理で安定しているとありますが、こだまの森の施設拡大等収支の拡大の策はないのでしょうか。農業の将来性、従業員等の見通しはどのように考えるべきでしょうか。スキー場の経営に係る諸問題について、村民に説明意見を求めることはできないでしょうか。このアンケートを集約した時点で計画してください。

・大きく分けて二つの意見と見られる。それは、1、現状の設備で維持していくには村の財政負担は莫大で村の予算は大幅に圧縮される。それでは困るから一旦休業とか廃業する。…との意見。2、冬場の従業員雇用と既往のスキー場関係者との経済的損失は大きく、大打撃となり、村自身に活気がなくなり過疎化が進み、さみしい村になる。だから何らかの形で存続して欲しい。…との意見。3、結論。そこで村の負担が莫大なら思い切って縮小して分相応のスキー場運営に継続して行くのがベターと思われる。(国設第1、第2リフトの休業など)

・今まで歴史的に長いスキー場への感謝は忘れないが、今の気候状況(雪不足)やスキー人口の減少の中では、スキー場運営は難しいと考えます。

・20年程前に移住しました。それまでは毎年冬はスキーに来ていましたが、数年すると年をとり又、体力も技術もないのでスキーはやらなくなりました。とても良いスキー場で気に入っていたのですが…。経営的には非常に困難な状態であるのはわかります。どうすれば良いのか。私にはわかりません。スキー場が夏でも遊べるように出来ないか。あまりにもこのスキー場を止めるのは”もったいない”と思うのですが…。一時休止はかえって良くないのでしょうかネ。

・歴史あるスキー場であり村の基幹産業・観光産業ですが、資料を見ると多くの課題があり、スキー場だけの問題でなく、村の将来と合わせて考えていかなければならないと思います。

・スキー場で雇用創出といっても村民の高齢化により、今後スキー場で働ける人がどの位いるのか。スキー場をなくすのはもったいないと思うが、天候、維持費等を考えると続ける事は無理と思う。良い案があつて続けられるなら続けた方が良いが、全体を考えると課題が多すぎて続けることは困難と考えます。

・村外に住んでいる子どもや孫たちは1シーズンに2回~3回は来ています。積雪の有無によって異なってきますから考案どおりにはいかないのでは何とも意見の申し様が有りません。雪の降るのを神に祈るのみです。ご苦労様です。

・昔からのスキー場であり貴重な資源である。何とかして維持したい。

・多額の資本投資を受けているスキー場が村にとってメリットがあるかどうかは意見が分かれると思うが、観光施設としてオールシーズンの利用を考えると来ていると思う。

・スキー場を運営することも大変。スキー場をなくすことも大変。お金がかかることまちがいないし。

・①やぶはらスキー場は一部の人のものではなく木祖村村民みんなのもので、国から来る金もみんなのもので、住み良い村、みんな幸せになるためのものの筈です。スキー場で消えて自治会長会要望の要件も出来ない様なことはあつてなりません。そんな村にだけはしないで下さい。木祖村で生まれて一生を終えて幸せの上なかつたと思える村であつた欲しいものだ

と切望します。②丸山だけに縮小することも一考です。③将来を静かに一考するとき、スキー場もいろいろな考えが皆さんお持ちのようですが、私はやぶはらスキー場も花の時期を終えたと考えます。今後の温暖化の他いろいろ考えればばく大な金をこれにのみ使うことは考える処大です。勇気を持って廃止する時が今だと思います。時期をあやまれれば傷は大きく手のつけようありません。あんなに長く高山までのリフトはいらない。使う人は限られた人だけです。

・廃止

・時代の流れで、今スキーを楽しむ人たちが少なくて、運営費の方が大変なのではないでしょうか。その点が考えられないでしょうか。

・個人の資金では施設の新設更新はとても出来ないし、借り入れをしても返済は無理である。国からの財政援助金などを利用し村民の頭脳を集めて今ある会社で経営をする。

・いかなる時もお客様を丁寧におもてなす心が大切だと考えます。

・スキー場は。時代は変わっても有ると思っていたがスキー人口の減少も含め先細りの傾向は避けられないと考える。続けるためには資金が何としても確保する方法が必要だが、目先で良い案は浮かばない(宝くじでも当選したら寄附したいが無理な話した)。

・継続するにしても廃止するにしても、今後の村の将来に必要な決断をしなければならない時がきていると考えさせられました。歴史あるスキー場であるし、村の雇用の場としての役割も大きなものもありますが、これからの気候変動を考えると雪が確保できないとなると、スキー場としては成り立たなくなります。健康な身体づくりのことを考えると、自然の中で身体を動かすことはとても大事なことで、アウトドアスポーツが見直される時代がくることを考えると冬季のスポーツとしてスキーはまたブームが来るのではないかと思ったりします。歴史は繰り返すといえますから。スキー人口が減少していくとなると収入面が厳しい状況となる一方で、設備の維持管理費に村の負担が5億8千万円は相当きつい金額です。また、廃止するにも設備の撤去に4億5千万円もかかりそうとの事ですので、継続するも廃止も大変なことだということが解りました。スキー場して継続して欲しいとの気持ちが強いですが、こだまの森との組み合わせでなんとか採算面で維持できる対応策がとれる案ができるの良いのですが。課題となっている項目の改善策を実現させることが継続に向けた第一歩であると思います。

・木祖村にとって大事な存在だと思うので何とか続けていてもらいたいと思います。

・スキー場を始めてから90年間という長い期間継続してこられた事に感動致しました。30年位前には私達家族でスキー場の手伝いを頼まれて日曜日には毎週のように行きました。時代の流れと共に色々な面で変わりつつ、又、温暖化で雪も少なく自然の事はどうにもなりません。スキー場を経営していくに当たり良い事があまり見られず、見通しもつかずのようで、断念するしかないと考えます。前ページにも記させていただきましたが、これからは、“食文化”が良いかと思えます。木祖村のとうもろこしを食べれば他の物は食べれんと言われてますから。

・今回の住民アンケート調査資料、スキー場に関する昔から現在にかけての説明やら現状の経営を詳しく記した物を見て初めて知る事が多くありました。そして、現状維持の難しさを痛感しました。30年前とは違い、この田舎でも都会と変わらず近くにコンビニあり、スーパーあり、便利は何でも間に合う村になりました。それに地球温暖化で自然には逆らえない状況でもありません。今後は村内の住民人口も減りつつありますから、雇用関係も減っていくと思いますので、スキー場で働く人もなくなりつつあるのでは。気候の面や少子高齢化等、今後マイナス志向が多々ある中での運営は本当に難しいと思います。また、コロナもそのひとつだと思います。慎重に検討してほしいと思います。

・長年のスキー場はこの辺で終止符として。今後は木祖村産の美味しい野菜を中心に村と農協(住民も含めて)が主体となり、もちろん加工所も使って市場に販売できる物を作る事が望ましいと思います。特にとうもろこし、豆類当が良いと思います。日当たりの良い土地がたくさん耕になっていますので、そういう場所を利用し皆で知恵を出し合ってできないものではないでしょうか。

・子供の小さい時は、休みになるとスキー場に送っていき、自分でも一度くらいは上から滑ってきて、後はロッジに行き親同士で世間話をしながら待っているのが楽しみでした。地域ではお楽しみ会(宝探し当)をやったりして楽しかったです。やぶはらスキー場がなくなると淋しいです。年間で雪がなくてもできるスキー場利用を考えてほしい。

・こだまの森にブルーベリー園があるが、夏場の集客対策としてスキー場にも導入できないか検討する。

・温暖化が進む中、莫大な投資をしてまで存続する価値があるのか疑問を感じる。

- ・これから先のことがよくわからない。村の経営のことも見当が付きません。廃止してもらいたい。村からの借入金が多くありすぎる。スキー場に関係のない人は大変迷惑なことです。絶対やめるべきです。
- ・人口 2800 人を下回る木祖村では、住民環境、住民生活規模を縮小してまでスキー場に税金を使うことは無理である。
- ・村の人口減が続く中、村の予算、収入等も少なくなり、スキー場に出資し維持管理していくのは相当困難と思われる。
- ・平成 17 年の当初、村の一本化としないで奥木曾グリーンリゾートへ委託契約により発足した経過がある。会社経営者に「赤字になっても村当局が助けてくれる」という甘えがあり真剣さが足りないと感じます。全経営者の退任を望む。現状のままでは経営は無理である。この赤字の中で役員報酬を上げたことは考えられない。赤字経営の時の役員の責任をどう取るのか。株主くらいには報告してもよいのではないか。スキーリフトの客対応の悪さが目につきます。役員の指導が徹底されてないのではないか。
- ・日本全体の人口減少と少子高齢化で自然とスキー人口も減少し従業員も減少していくと思います。大規模スキー場へ人が流れていき小さなスキー場はいずれ廃止も考えなければならぬと思います。
- ・少子高齢化によりスキー人口が減少の時代になり難しい問題です。若い人の意見を大切にしてくださいませ。
- ・温暖化による降雪対策、施設の老朽化、スキー人口の減少、村の財政負担の限界等その見通しは厳しいものがある。スキー場の歴史、木曾谷のスキー場の中での優位性等を考慮すると忍び難いものがあるが、現時点で総合的に考えて事業の終了はやむを得ない。民宿の経営者等直接事業に携わる者は危機感を持ち将来を真剣に考えていることと思う。暫時事業を縮小し 3 年くらいの期間で軟着陸させその間に国有林等に事後の処理について折衝することが肝要と考える。
- ・民間での経営は、これから先を考えるととても無理だと思う。地球温暖化、施設の老朽化などいろいろな問題が考えられる。組合員数も以前より 1/3 に減り負担金も大変である。この先 10 年くらい様子を見て考えたらと思う。90 年続く老舗の火は灯したい。
- ・土地の貸付料が高すぎる。交渉して半額以下とするように。ゲレンデ整備については絶大な好評を受けている。引続き整備に努めてほしい。笑顔あふれる村づくり→笑顔の接客がお客を呼ぶ。各店舗従業員教育に力を入れること。コロナが終息するのを期待し数年は赤字を覚悟で取り組んでほしい。
- ・現在のスキー場の利用状況がどんな内容化詳しくはわかりませんが、閉鎖となることは木祖村の観光面と経済面を考えると大きな痛手かと思えます。現状を維持することは大変なことかと思われませんが、村か企業が一本化して冬期間はスキー場、それ以外はこだまの森と連携して年間を通して観光面で人を呼びこめる事業があればいいのにと考えます。素人の考えで具体的なことはわかりません
- ・スキー場を完全に廃止すると他に影響があるので規模を縮小し継続する。夏期の利用を考える。昭和の終わりから平成の初めまでスキー場にお世話になったので完全廃止の選択になったらさみしい思いがある。何とか規模縮小しても継続するよう希望する
- ・村内外の人にスキー場の良さを知っていただく
- ・あまりわからないが外から人が張ってくるレジャーを。気温が上がっているから雪を降らせる手間がかかりすぎ大変になるばかりである
- ・今後スキー客は期待できないので他県はどのようにしているか視察していろいろな方法(夏は芝生のサマースキー、冬はゴンドラで御岳山を望むとか)今までのやり方を変えていくような方向で検討してみるとよいと思う
- ・現在の施設の更新をするにしても、廃止するにしても多額の費用が掛かる。今までの村のかかりから考えると、村が最終的に判断して、実行しなければならないと思う。そのための財政計画、運営方式を十分検討し、そのことによる一般行政への影響を具体的にしめす必要がある。(村民の理解を求める)一方で心配なことは、・村の人口の減少(スキー場に関わる人材が確保できるか)(スキー人口の減少)・温暖化、当スキー場は標高が低い。マシンを更新しても今後の冬の気温上昇に対応できるか。・さらにスキー場の淘汰が進行する中歴史と伝統だけでは生き残れない村民に厳しい中でも生き残るという気概があるか。

- ・子供のころから「やぶはら」と言えば「スキー場」と他地域の人達も知っている。・子供も孫もスキー場があるから冬は我が家に来る。スキー場がなくなれば冬は子供や孫は寒いからあまり来ないかもしれない。寂しい。
- ・木祖村にとって大変難しい課題であると思っている。しかしながら、このままずると先延ばしできる問題ではなく、続けるにしても、廃止するにしてもその選択を果敢に進めて行くことが求められていると感じている。
- ・温暖が続き雪の量は減少し雪不足が考えられます。昔からある藪原スキー場をなくすことは大変ですけどその時が来ていると思う
- ・白菜農家の冬の雇用を考えれば継続が望ましい
- ・気候変動により暖冬傾向になってきています。雨も多くなっています(集中豪雨など)が今後、雪は多くなるとはあまりかんがえられません加えてスキー人口は更に低下しても増加するとは思いません。(人口減少)そんなことを考えた場合、多額の税金を投入して設備の更新するのにもどんなものか。維持するのも、撤去するのも多額の費用を必要とするならば、もっと将来を見据えてじっくり検討をしたら
- ・親の私もスキーは全くやりませんでした。子供たちも小中学校にて学校で行った数回しかないと思います、おとなになっても行きません。ほかのスポーツを楽しんでいるようです。
- ・マナーも常識もないという人間がふえている現在では、マイナス面ばかりが気になるという感じをうけます。
- ・子供のころからスキー場で育てられたこのまま何とか継続してほしい
- ・私の初スキーは(60年前)やぶはらでした。どの様な経営になっても、あり続けてほしいです。
- ・藪原スキー場は、昔は良いスキー場でした私たちの時代はスキー場と聞くだけでほんとうにめずらしく都会の夢の国にでも来た様な気分させたものですがスキーの板なんか見たこともなかった、今は違うそこに働く人達も老齢化して来ています、それにともない大きな夢をもって立ち上げてそれだけでも村の負担になるのでは。今は大変なコロナ時代、ちょっとうしろをふりむいて見てはどうですか、私、女ですので大きな夢は云えませんがお金は少しちがう方に生かしてはとおもうのでがんばってみてください。
- ・スキー場を維持していくのは大変な事と思いますが他村にはない山の条件があるからなんとかして続けてほしい
- ・私はスキー場を利用していませんが、こども達が帰省した時に孫たちも楽しそうにスキー場ですべっております。昔の藪原駅でのスキー客の混雑している写真、とても良いです。この写真もぜひPRに使ってみてください。
- ・地元に住いた頃はそれほど興味もなく中京方面へ進学してみたら、早速に誘われたのは、藪原スキー場でした。丁度良い距離、丁度良い広さ、驚くほど人気でした。何と！私は初めてリフトを経験しました。もっと自由に地元の若い人たちに使えるようにコース整備、遊具の導入、若いご家族の優待作戦なんて無理でしょうか
- ・村民の負担が増えるなら廃止した方が良い。
- ・以前より(昔から)雪質の良い藪原スキー場が好きでした。村の貴重な財産だと思えます。しかし、小コースが多く、人手が多く必要で大変、又チケット購入の抜け使用もあるのではと思っていました。そして従業員の接客で笑顔・あいさつ不足・チケット点検。・リフト降り場の安全サービスが弱いのではと見てきました。以前、ほのぼののハウスが出来るとき、小さな食堂を統合して協力した食堂で魅力ある内容や雰囲気づくりをしたら良いとも思っていました。村民の雇用の捻出は大切ですが、仕事に対して真剣さがもっと必要ではと見えてました(他スキー場に比べても)。困難な運営はもっと自律・自主的なことができるために経営をプロにしているの方法を考えた方が良いのではと思います。とても難しいスキー場運営だと思えます。なんとかではもうやっていけない、温暖化や若者のスキー離れの中で頑張るには覚悟が必要です。むずかしいなら止めることも。
- ・長い歴史もゲレンデのあちらこちらに感じて愛すべきスキー場と思います。それなりのサイズのスキー場であることの良さがとても良く感じられ心地良いと思います。スキー場にかかわって下さっている方々もまとまって一日一日つとめて下さっていると思い好感します。木祖村にとって唯一とても大切な場所と思います。ゲレンデにて楽しさとうれしさを感じることができて感謝しております。

- ・スキー場の全てが村運営なら、村のお金をつぎこんでも経営していく必要があります。村で補助しても利益は限られた個人ですから問題ありだと思います。今までたくさんの補助をしてきていますから時代の流れに従うべきだと思います。
- ・やぶはらスキー場は木曽でも古く歴史あるスキー場です。ゲレンデも雪道も良くメリットはいくつもありますが、全体として素朴な感じか(それがやぶはらスキー場らしいですが)今のスキーヤーにとってはあまり魅力として感じられないかもしれません。といっても最近の雪不足やスキーばなれによる経営のむずかしさはあるとおもいますが、今後もこだまの森とスキー場の年間を通しての運営のあり方を考えて欲しいと思います。冬のこだまの森、夏のスキー場の利用など
- ・スキーの利点は幅広い年齢層と自分のペースで自然の中で一日楽しむ気分開放できる場で時代が進んで都会から中へ移住希望者が増え娯楽も自然の中で楽しむ希望が多くなると思うスキー場として運営維持は多くの問題点があると思いますが、スキー場は雇用も大切な場所だと思う
- ・一度大変な出費でも絶対にスキー場はやめて下さい。温暖化に加え不景気すきーばなれ何一つとしてメリットが考えられません。続けばこの先ずっと村の財政は困窮して行くのが目に見えています。村長さんはじめこの問題に拘られる方々に良く考えてもらいたいです。今こそ決断の時だと思います。
- ・廃止を望みます
- ・撤去費用にも4億もかかるのに驚きました。小さな空き家でも片付けると費用がかかりますので…どんなに大変でもリフト(スキー場)は廃止して下さい。ダラダラ貧乏だけは止めて下さい。この先絶対村の金をいくらつぎこんでもだめだと思います。従業員の高齢化、働きぶりのなさを、冬の間の小遣い取り位の熱のなさ…村長さん、役場方ご存じですか。冬の間どの位スキー場に行っていますか。しっかりして下さい。
- ・赤字続きでは続ける価値がない
- ・今まで通りが良いと思います。むだをはぶいたり、新しいことにちようせんしたりして、くふうして何とかやっていければ良いと思います。
- ・住民アンケート調査表を参考にしたらメリットデメリットはつきもの。私としたら農業の仕事してる人たちだけの雇用ではない木曽谷のきびしい寒い冬季は建設建築業の会社も多くあり、個人事業者年1回通して仕事を会社独自で探すことは非常にむずかしい。農業は秋で終盤を迎え待ってるスキー場へ行けば働ける。私達の身から考えると全く楽に生活できていると思います。(その年その年の変化はあっても)これから先世の中どう変わるかわかりません。ガソリンや燃料が何年先まで持つかわからない。スキー場を継続しても廃止しても多額のお金が出資する。傷の浅い内に手を打ち、木祖村という独自のほかの町村から手本となるような意見が決まると良いですね。※スキー場にかかる費用があれば14Pの自治会要望がこれだけ、いやまだ沢山他にもあります。村全体の事を考え、これから先子供達、高齢者益々むずかしい年になっていきます。360°の方向を見て考え実践して欲しいです。
- ・スキー場も村に頼らず、福島スキー場の様に外部で経営するとか、半回転する位、経営方針を変えてみては。私達にはよくスキー場内部はわかりません。
- ・村をとりまく、村がおかれている、今日の情勢には何ら希望的なものは見当たりません。村の将来を左右する極めて重要な課題…なら何故今までにもっと真摯に部外(村職員・経営陣でない)の者の率直な進言や知見を聴かなかっただろうか。経営陣にまかせておけば、外部、外野の衆の意見など無視。善意・建設的と思われる考えも問答無用。そして意外なことに経済の矛盾が末端産業のレジャーや消費に占める変化が訪れて～今回のアンケートでしょうか。総論賛成！各論反対！この種のアンケートの限界もあります。村民生活は厳しさを増していく、日本の右肩下がりの近未来に過ちは赦されません。合併を拒否し、自立を選択した村だから村外の応援行為としての株主に対しての見解が求められる。＝もう二度とはごめん～す＝このイメージダウンをどうとらえて今後の経営にあたるのか経営陣の認識は有り。や無しや。村長の姿勢と認識は。！情報は正確かつ真摯な姿勢が問われている、経営陣がどれほど「スキー場と管理のこだまの森」にかかわってきたのか疑問で仕方ありません。刷新が必要です。新たなアイデアも展望生まれてこないと想われます。世の動向、スピードが早すぎる今日、停滞は即＝木祖村のレベルとなります。他自治体も注目しています。同業ライバル同士であるから尚のこと、敵対的に視ている。

- ・スキー・ボードで楽しむだけでなく、歩いて食べて飲んで楽しむ。冬山登山はなかなか楽しめないが、ゲレンデ等を使って楽しめるのではないかと。スロープにテント等、雪が無くても寒さがあれば楽しめる。冬用のキャンプ、お一人様から家族複数の利用。以前かまくら造りに参加しましたが、人工雪少量で作って利用。キャンプなどに利用。雪があっても無くても(こだまの森と一緒に)歩いてキャンプして軽食して…楽しみたい。冬の星空、星観察等々、自分達で行動する。長続きする方法を考える。
- ・スキー場はあった方が良いが、存続は雪次第。雪の見通し(温暖化は確実)が立たなければ村は投資すべきではない！夏の利用と並行して考えること。村が金を出すなら雪の見通しについて村は見解を村民に示すこと。
- ・ますます温暖化すると思うのでスキー場の存続は厳しいと思います。余り設備投資はしない方が良くと思います。
- ・スキー場はこれから無理がある。気温の上昇、雪不足は免れない。施設の維持にお金がかかりすぎる。歴史あるスキー場だがこの辺で方向を変更した方が良く。残念だが。
- ・スキー場に携わっていない人には全く関係ない事と考えています。これからは人口減少が確実。温暖化も続きます。もう10年もしたらスキー場は無理だと思う。早く切り替えた方が良くのでは。
- ・ある程度の知名度があるので、廃止するのはもったいない。
- ・スキー人口がどんどん減って来ています。今から変えて運営は大変だと思う。どうしても続けるなら年間通して行く様にしないと駄目です。木曽路には多くのスキー場があります。全体的に木曽スキー場を一本化しないとすべてが駄目になってしまう。やぶはらスキー場も古いスキー場ではあるが今一度考えを変える事も大切ではないか。スキー人口の変化を考えるのが第一ではないか。
- ・スキー人口の減少、温暖化による降雪量の減少の悩み、尚このところのコロナ禍により運営が益々大変であることがよくわかりました。私の子どもの頃は、やぶはらスキー場は大変有名でした。90年の歴史あるスキー場は先人たちが苦労して気づいてきたものですので、スキー場を廃止する事は忍びなく思います。スキー場は縮小し、維持管理しつつ安定した事業を続けているこだまの森の事業と協力して、いま流行しているアウトドア事業を上手にとりこんで、共同型のような経営にしたら如何でしょうか。
- ・スキー場は村にとって存続させたい冬季観光の主要な施設のひとつだ。これを廃止する事は資料にもあるように村にとって非常に大きな影響が起きる。スキー場を取り巻く環境は厳しいものがあるが、この施設を継続していくためには現在の上下分離方式から脱皮した指定管理者制度を適用する道しか残っていない。夏場のアクティビティ豊富なこだまの森との組合せで1年を通した運営が確立できるものと思う。
- ・大変難しい事柄でどのようにするのが良いか。コロナの時スキー場、こだまの森もキャンピングカーで来る人が多く利用しやすい形にしてログハウスなど廃止して。広大な土地は農地にし、ぶどうなど作り(ワイン用のぶどうなど)大きな組織の会社に委託してやってもらうようにする。高齢で年金暮らしの人が多くなり、人工も少なくなってスキー場利用する人も少なくなり、税金も少なくなるからスキー場を廃止して。
- ・気候変動等、スキー人口も減って来て採算も取れない現状では、残念ですが縮小する他ないと思う。
- ・出来ればスキー場があった方が良くと思います。例えば県外から来られる方や村の子ども達、または村民の人達も大勢楽しみにしていると思います。スキー場が無くなればさみしいと思います。なんとか良い方法で頑張ってください。
- ・開設100歳を目指し、身の丈に合った村民の働き場所を確保していく。
- ・木祖村から、夏 こだまの森 冬 スキー場。なくしたら木祖村に何が有りますか。活気の無い何も無いつまらない村になります。
- ・暖冬の影響は大きなものがありますが、木曽地域で中心となる魅力あふれるスキー場なので、何とかして廃止せず続けてほしいと思います。他のエリアのスキー場にひけをとらないという自信を持ってインバウンドの確保にむけて進めていったらいかがでしょうか。私たちの年令の者が若い人に残せる宝物だと思いますので、多少の経費の負担はあってもいいと考えます。詳しくはわからない、内容の深くまでは理解できていないと思いますが、このように考えますのでよろしく願います。

・子供の頃スキー場で過ごした楽しかった事が良い思い出として残っている。スキー場はお客さんがお金を運んでくれる。90年間続いた唯一の観光資源である。地球温暖化で雪が降らなくなるかもしれない。その時はその時。なんとしても村民の知恵を出し合って伝統あるやぶはらスキー場の存続を願う。こだまの森も同様である。村の過疎化が一番心配である。

・関係者の決定した事にまかせます。

年寄りだからわからないですが、若い人にまかせます。せつかく有るのだからつづけてほしいです。

・村の最大の観光施設であり、大勢の村民の方が雇用されている事。小・中学生のスキー教室による大会への参加等を考慮すると規模を縮小してでも継続して戴きたいと思います。益々過疎化になると思います。

・冬の雇用があつて良かった。経営の事わからない。暖冬・施設の老朽化・客減少。大変だと思う。

・昔からのスキー場。アクセスの良いスキー場。コースもバラエティーに富んでお客さまに喜ばれる。何とか続けて行ってほしい。経営者のお話を聞けば、分担金がとても高く、運営して行くのに苦勞する、菅生産組合への負担をもっと安くして頂く方法はないものか。普通、田畑の借用料なんてほんのわずかで済んでいるが、山の使用料はどうして高いのでしょうか。

・スキー場は、木祖村の基幹産業と思います。村も力を入れて存続出来るようお願いします。

・昔からなじみのあるスキー場なので続けて行ってほしい。

・若者に人気なくなっているスキー。

・過去においては一定の成果を上げてきましたが今後はお荷物にならないように安楽死の方向に持っていくべきだ。

・経済や雇用の事を考えると頭がいたい事ばかりですがどちらを選んでもついて来る最重要な課題であります。一度は声明にかかわる大手術が必要だと思います。どっちにも良い案なんてないと思います・少しでも早く廃止して次のステップに向かった方が、傷が早く直ると思います。冬のみでなく通年で楽しむ事が出来る方が良い。一番近い所に居るお客様いわゆる村民が行きたくなる様な万人受けする所。昔から名門スキー場だとかアクセスが良くて木曽では成功している事例とか昔の夢を再び造っている感じ！久方ぶりに頭を使い村の未来を思いました。参考にしてください。

・継続か廃止どちらにしても多額の経費が必要だが、90年も愛されたスキー場を廃止する事は残念です。しかし、県下の中でも経営困難により廃止したスキー場は多数あります。スキー場の経営で最も大事なことは雪がなければなりません。もう一つ一般的にスキー人口が年々減って来ています。それに更にコロナ等により利用者の減少により経営が厳しい。今まで関係者の努力により運営してきましたが、今後は難しくなります。地球温暖化は今後益々進むと思います。私は残念だが廃止の方向に進めるべきだと思います。

・産業の資源としては重要である。雇用の面でも無くてはならない存在と考える。但し、経営として成り立つ方策・体制作りは必要であり、他力本願でなく、経営陣が本気で取り組んで欲しい。

・赤字を少しでも減らすこと。

・スキー場から村内に回るお金は正味年間 8200 万円に過ぎない(資料 P14 より)。それとひきかえに、公共のインフラ整備、多くの住民にかかわるサービスが低下するならスキー場をあきらめた方がよい。

・このアンケートを書くにあたって、スキー場をなくしたくないと私は思いました。

・資料を読みスキー場を継続していくにも又廃止にするにも多額の費用がかかるようですね。これから先続けていたらもっと厳しくなると思います。長い歴史のスキー場を廃止するという事は切ない事ですが、区切りをつけなければいけない時期がきているのではないかと思います。

・スキー人口の減少。宿泊施設の減少。若者目線の場合がない。民宿関係減少。観光協会の県外提携。

・郡下でも一番入込の多いスキー場であり、アクセスも良いスキー場である事を村民皆さん理解してもらおうよう理解をふかめてもらいたい。村でも村民のために今後ともスキー場が続くように、大幅に考えを変えてもらいたい。予算をけられない事、また菅区の土地代が高すぎる。村でもっと指導して大幅に下げようにしてもらいたい。

・何にしてもお金のかかる事ですが、歴史あるスキー場なので存続してほしい。

・原則として廃止。残すならリフトの代わりに自動車で運ぶ壁の無い車 10 台くらい(20 人乗り)でピストン輸送する。林野庁に話して道路整備をする(併用林道)。こだまの森を冬季も開く。ソリ場、スキー、マラソン併設。こだまの森に温泉を作る(プールも)木曾土建にお願いして村のために、木曾町の温泉を販売売却してこだまの森で作ってもらう村で投資をしてもよい。夏季冬季一番大事を選ぶ。キャンプ場を小木曾林協の土地を使用して 2 倍に増やす。サッカー場やテントを中止とした方がよい。木材が見直されるようになってきました。村と土建と小木曾林協で新しい製材所を作る(乾燥所)ふくむ。国の炭素化にともない日向の良い空き地に太陽発電を作る(水力もよい)。発電所の村にする。今のままでは、熊・サル・イノシシ・シカの村になる、何とか早い手立てが必要と思います。

・私は分担金を払う側なので、やめて行く食堂や民宿らの分担金を上乗せで支払う事が大変なので検討してもらいたい。菅生産森林組合に支払う金額が高すぎる。

・組合費が高い。個人の賃地料のみの料金にしたい。コロナになってお客が減少しても組合費がかわらないのはなぜか。固定資産税いろいろな補助金で助かりました。本年度も宜しく願いいたします。

・開場 90 年を迎えたスキー場廃止はさみしい。規模を縮小し維持管理を減らしながら続けていく。初心者、家族連れのコースは残してほしい。丸山ファミリーペアリフト・さつきクワッドリフト・やぶはら中央ペアリフト。

〔年齢不明の意見〕

・これからの人に負担をかけてはいけない。

・高齢でわかりませんのでよろしくお願い致します。

・厳しい状況については理解することができた。

・地球温暖化や高齢化、スキー人口の減少と大変だと思いますが、今後スキー場継続する場合、村の税金等、極力控え、次世代の若者が木祖村に住み続ける村にしてほしい。

・私は、スキー場は利用していないものの、人々が語る話のなかでは、結構な年金受給者が大勢つとめていて、又、友人関連、知人関連での雇用優先傾向が強く、必ずしも健康的な職場環境ではないようだ。又、自己が経営する事業のために、なんとか税金を投入させてスキー場の存続をはかるといふ姿勢も「みえみえ」とのことで、このような状況の解消をはからなければ、存続させたあとに破綻があった場合どのように言い訳が出来るかも考慮しなければならないだろう。存続は慎重に進めて下さい。

・スキー場はいらない。

・長い目で見て村を沈めるかどうかで、スキー場でこの先合併もできない。木曾にスキー場が多い。木曾全体が沈む。他のスキー場をつぶす力があるかどうか。スキー人口が減るのは選手になってもお金が入らないから夢や希望がない。他のスポーツと比べて。スキー場+他がないと生き残れない(温泉、有名なレストラン)。スキー・スノーボーは「俺が俺が」の我をつくる。他のスポーツと違って人間の成長が少ないからスキー人口はまだ減る。残念なことは、決断する主体が明確でなく、誰もいない。また、住民が決断の主体か。(民主主義とは。)時にはあきらめる選択をしないと現実に追いつかれひき殺される。スキー・スノーボーはスポーツから娯楽に変わった。200 億準備してレストランをつくり、一流のシェフ、美女、サウナ、銀座のママを連れてこなければ生き残れない。議会、議員の仕事は何でしょうか。住民は選挙で選んでいる。どうなろうと従うべきだ。

・今後の設備投資(P13)およそ 5 億 8 千万円は村で、4~5 千万円の維持費(P12)がかかり、収支予測で 10 年ありますが(P11)近隣のスキー場は、ここ数年で経営状況が指定管理方式になり、やぶはら高原は入込が減る可能性が大きい。そして人口減と高齢化により存続は難しい。(P10)のリフト系の平均は 65 歳程度ならもう年金生活人です。 どうせ村の負担なら、4 億 5 千万円で原状回復を早くした方がよい。5 年後は村人口 2,500 人前後で 65 歳以上は 1,300 以上ぐらいで、65 歳と以下で半々になるから村税が入る、早めに。

・村民に迷惑をかけるような事はしてもらいたくない。良いにしろ悪いにしろ最後は誰が責任を取るのか。

・スキー場は 3 年くらいのうちに廃止をして行く、村の税金は、スキー場の関係者だけのものではない、みんな同じ立場。スキー場、こだまの森は村との関係を立ち切る、民営化をして営業

をする。村の金はみんなの金、スキー場、とくていの役員の金ではない。(冬は、従業員は除雪、税金を考える、村の税金のつかいかた。)